

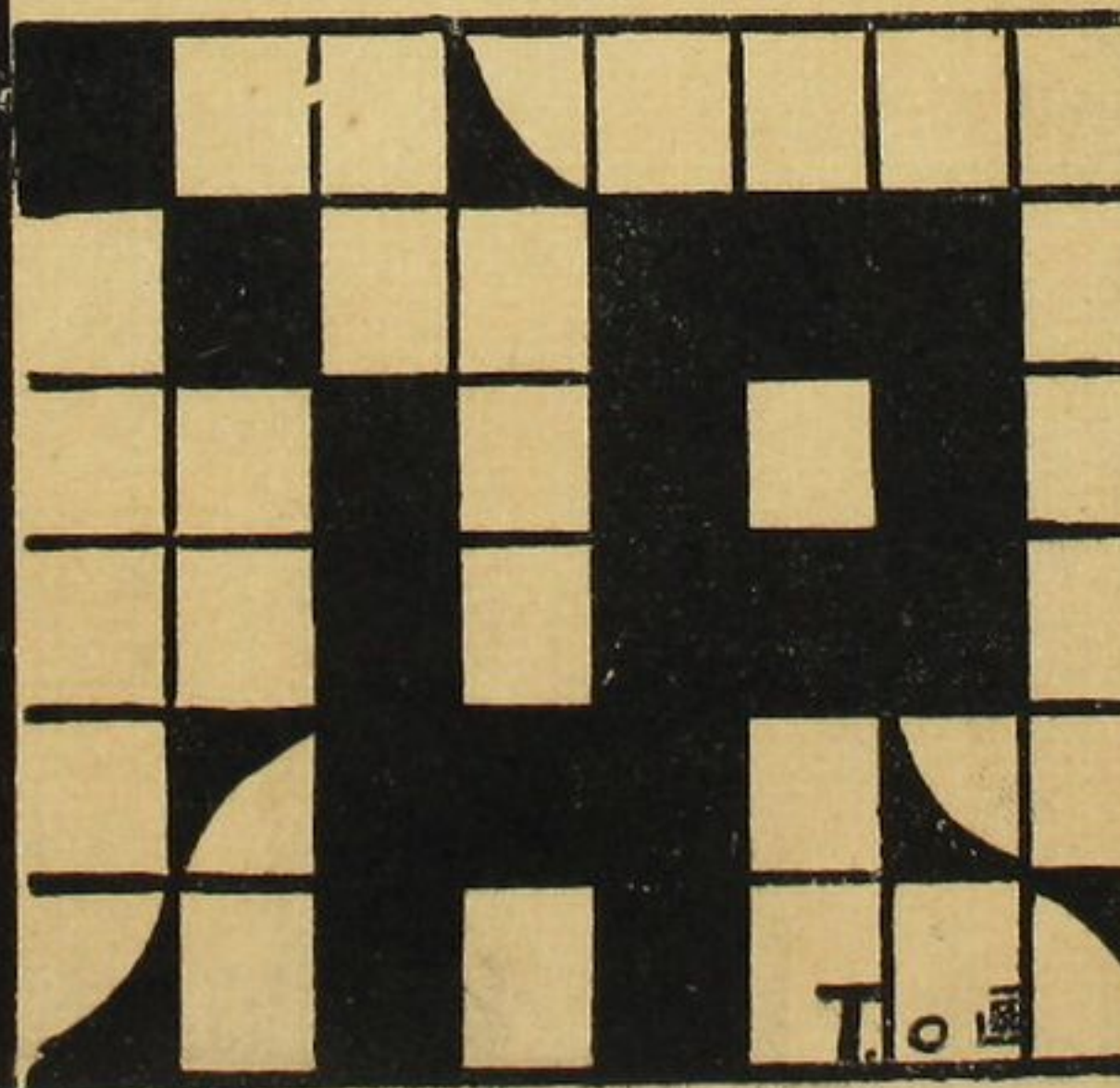


萩原恭次郎

利首



東京
長隆舎刊



10





老
刊

宣
告

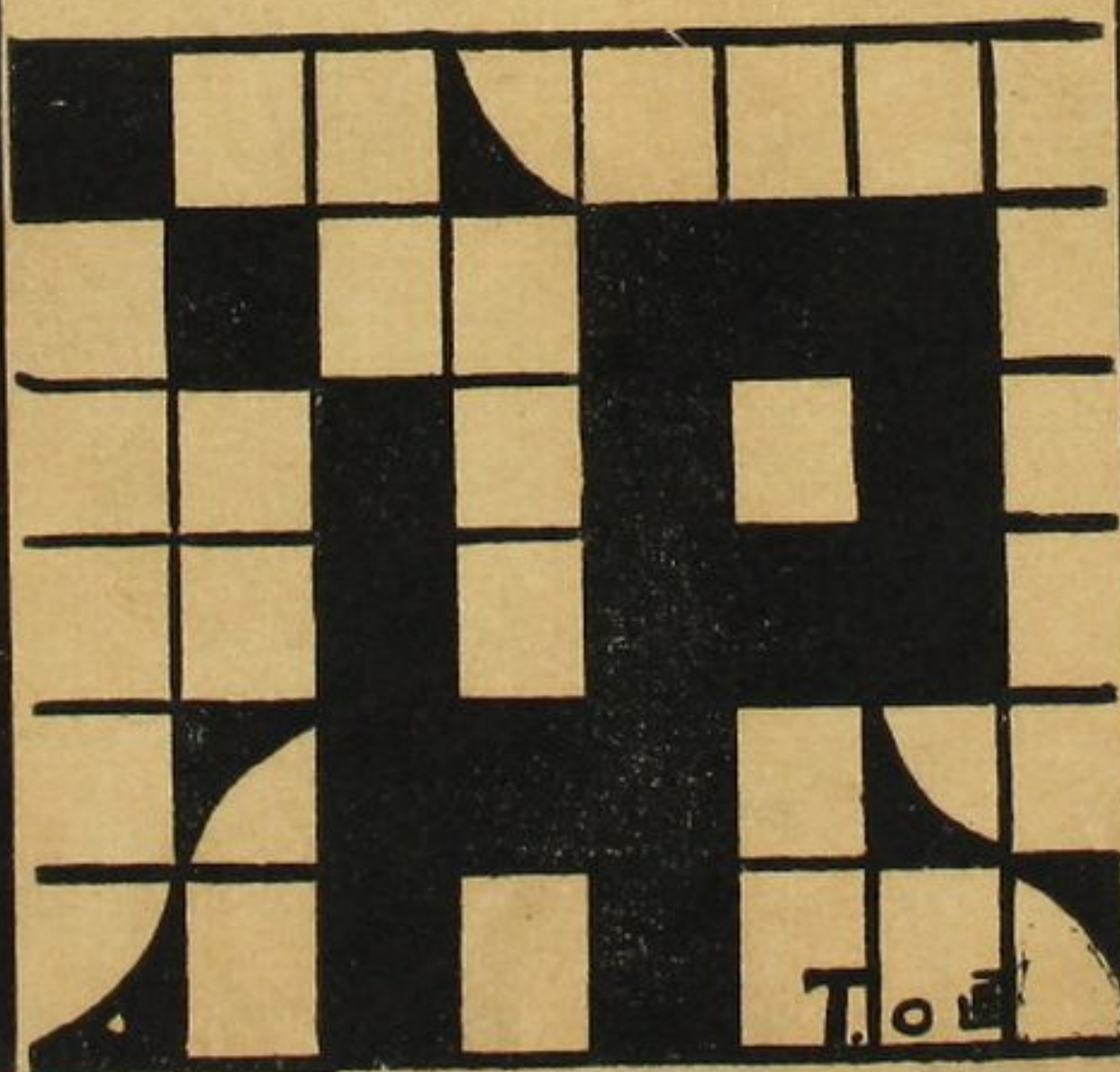


萩原
燕次郎

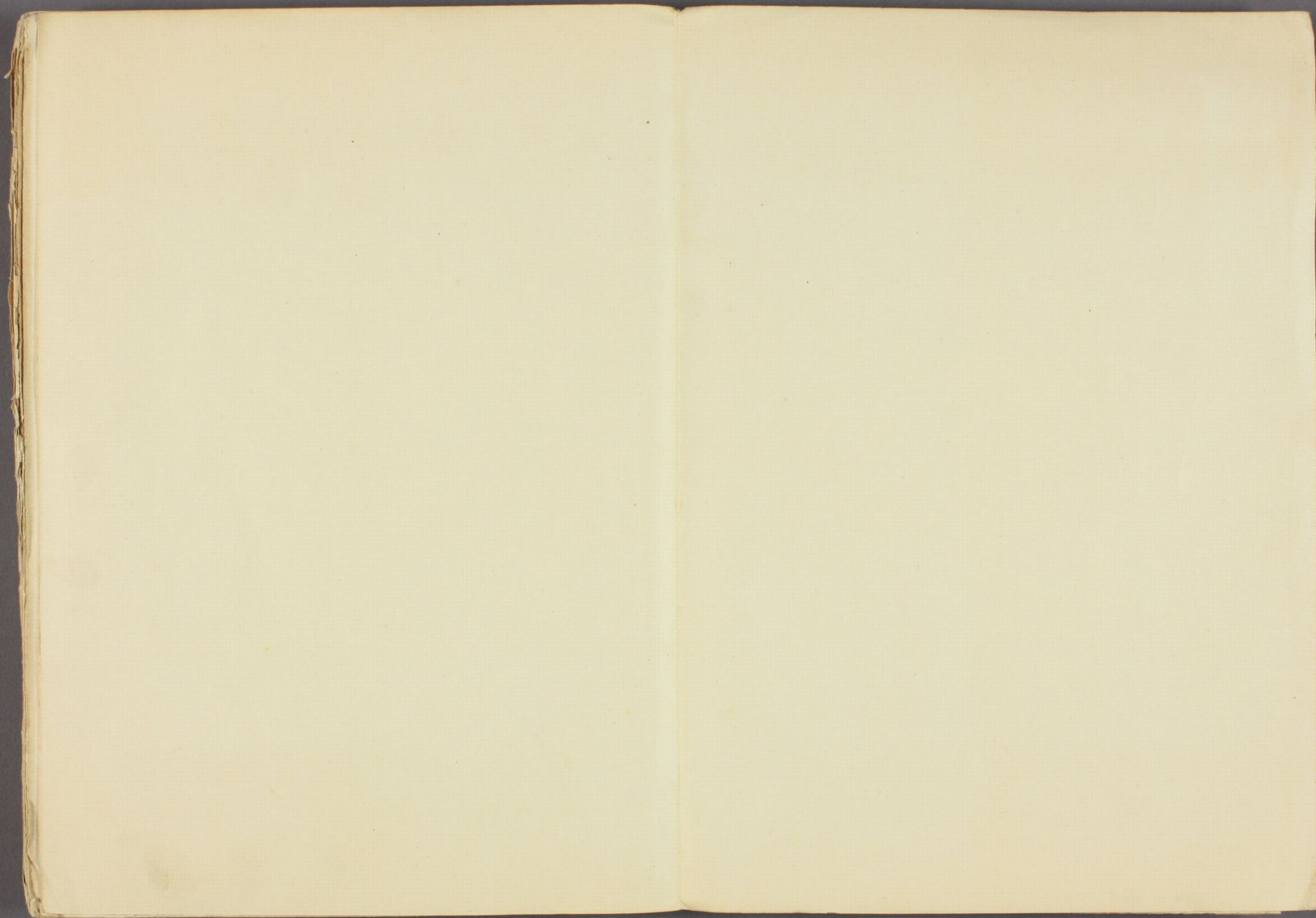


萩原恭次郎

新刊 官 卷



T.O. 4



詩集

死刑宣告

萩原恭次郎著

東京 長隆舍出版

詩集

死刑宣告

萩原恭次郎著

東京 長隆舍出版

(1)

● 序

私の詩への警告●●

私の詩をデカタンの如く思ふ者、それ自身が一つの嘲笑はるべき近視眼だ！

私は私の詩集に「野獸性なる人間的なる愛の詩集」と名づけたく思ふ程の、いはゆるデカタンを擯斥する者である。必然にデカタンに追ひ込まんとする近代文明的所設の諸手段に、私は貫通する意志を持つ私が解體する如く見える日の自分を、意地の悪い噴怒と嘲笑とをかく

挿畫製作者及目次

寫眞版

村 三 知 義
牧 柳 瀨 壽 雄

大 浦 周 正 藏

イロノフ・スミヤウイツチ

岡 田 龍 夫
タ ト リ シ

凸 版

萩 原 恭 次 郎

LINO-

岡 田 龍 夫 11. 17. 34. 41. 48. 56. 73. 80. 81.

106. 128. 145. 151. 155. 157.

榎 本 喜 芳 62. 63. 93. 111.

柳 三 川 槐 人 72. 119. 129.

矢 橋 公 磨 郎 35. 49.

坂 田 市 郎 93. 107.

澤 富 青 鳥 1.

萩 原 永 亥 郎 9.

萩 原 恭 次 郎 15.

戸 田 一 次 郎 129.

高 見 田 達 一 郎 156.

高 見 澤 路 直 郎 83.

しまちえた日の、われ〜自身の「ブルジョア的（労働者に對する資本家の意味に非ず）サダイズム」に警戒せよ！

● また私の詩に對する、喧騒・鳴動・雜音・醜惡の言を吐く、愚鈍なる彼女の心臓への發矢！

われ〜にとつて欲望はひるがへせない旗色鮮明なるモットーだ！
馴養されたる一切のアカデミーの非力への虐殺だ！

俗惡なれば、低劣なればこそ、と云ふ言葉は、すてに通行をゆるされない。輕蔑する！壓殺する！單にそれだけが持つ新價值！飼ひ馴らされたる番犬的精神のみが吠え猛る！彼等自身を盲目にした所の藝術

に、道德に、一つの擁護運動として、

● 何物かを神聖化してゐねば、安心してゐられない群羊！神聖化する事によつて、自らを瞞着し、價値を認めやうとする憶病！汝自身を常に不自由に一つの檻をつくつて監禁し、汝自身を定形によつて住まはせねば安眠出來ぬ神經衰弱者！

偶像の義僕よ！

● 詩人は詩をつくり、詩人とは詩とは何ぞや？を完全に答へられねば何等かの權利を有しないと思ふやうな心！言はねばゐられない他へ對する自己の恐怖心にかくれた利巧！

詩を研討し詩の向上のためと云ふ事は、自らを安心させると共に、他のものに對する恐怖心をとりのけ、人々の自に、自分自身を立派なものにする、最も有効な方法ではあらうぞ！猿め！

然し、ほんとうの詩は、詩人は、「詩は斯うだ！」「詩は斯うしろ！」と云ふ旗印の下に戦ふことに成立するものでなく、むしろ全く、全然かゝる誤謬の旗下に戦はない事にのみ成立する。

●

されば私は私にとつてのみ必然なる詩の氾濫と噴出について、前もつて一言してをかふ。私の第一運動を経過した過去のために――

一篇の詩は、われ自身の函の中の音楽を聴くと共に、都會の雑音に

まぢる高架鐵道の轟音を聞く。輪轉機の音と側のベンの走る音と、一匹の蟲の音とを聞く。歡喜と哄笑と憤怒と泣訴と叫號と打撃は、一時の落下によつて、爆發し、甦生し、誕生し、疾走する。眞つ黄ろの噴煙は盛なる排出する心臓を壓搾する。

詩句を、一行を、散文の如く重荷を背にして疲れしむ勿れ！

次行まで叮嚀に運搬せしむ役を放棄せしめよ！各行各自に獨立せしめよ！獨特なる強烈なる哄笑であらしめよ！また絶叫であらしめよ！強き、強き感覺を齎らしめよ！

しからざる限りにをいては、一行自身が未だ全部露出しきらない間に、はや次の行に廻轉する急速なるランプを一行に齎らしめよ！不發

の精神は爆煙を引きつゝ、轉變して廻轉してゆくであらう。

いとまなき新事實、いとまなき戦ひ！いとまなき變化——それが發狂に及ぶまでの最高の興奮と陶醉に至るまでの過程！

然して、われ／＼の美は平靜とクラシツクの美と宗教的整調と重厚と獸性と處女性とポロ布れと南京蟲と貴婦人と自動車と入りまぢつてもまだ、私達の欲する美とは云はれない！

われ／＼の美は、欲情は、何處にさすらうか？

左りから書きつけて、右から書きつけて、上下から書きつけて、如何なる方面から讀んでも、大小の活字を亂用しても、繪を挿入しても時間の許す限り、飽きるまで熱中しても、未だ未だ私達の美は求め得

られないであらう。われ／＼の美は、欲情は、何處にさすらうか？

われ／＼の詩は全部でない！一部である。全體は無限である。一部はただ加速度の廻轉をつづけるのみだ！一部から全體の意味を見出すよりない。されば遂に完全なるものへ到着する事は出来ない。不完全にのみ永遠の激しき姿はある。ただ怖ろしき鳴動のトンネルをくぐる。破壊と復讐と埋没と甦生と一時に發動する中に、われ／＼の姿は激流を登る！

思ふ儘である、感じたままである。ただ走り出す、動き出す熱量である。力量である。一切の最大目的を達せんとする無目的である。現在と過去の生活を押しつぶして進みゆく、偽善と飢餓の上を、自我の

貝殻の上を急行する巨大なる、ローラーである。

ただに積極に！せめてわれ／＼を慰めるものは、善悪の批判を超えて、あらゆる権力を越えて罪惡に至るまでの過程をふくむ、直行する意志である、すてにわれ／＼の精神の上に一つの高塔の建つを知る。一つの重なり重なりゆく姿を知る。また轟然と崩れゆくものを見る。そのかげに、蒼ざめ戦く、引き裂かる驚異、恐怖、歡喜は熱く長く短く急激に一瞬に、もつれ渦まく飛散と躍動と没落とを！一莖の花すらも蒼ざめブリキの如く感ず。擯斥と禁止と重圍さる抑壓の中に只僅かにも一言洩る苦しげなる聲！われは知る！こゝに共通する精神を！友を！群集を！時代を！こゝに知れ！われらの詩の喧騒を！泡だち

を！立體多層を！進みゆくものゝみの一大騒音を！非藝術を！（真正なる藝術を！）人間を！

そしてまたわれ／＼の憂鬱なる怠惰も！急走する破碎する力のよどむ、また一時に停止した時の、生活を！絶無を！空無を！惡戯を！平靜を！古代の精神を懷ふ！クラシツクの美を思ふ、また彼等の偉大を！正氣を！に至るまでの虚無の擴大を！

一廻轉毎に、豊富に微細に鋭敏に、伸縮發熱の度激しき最大無限のまたかかる虚無にまで、到達せんとする廻轉！廻轉！この廻轉の止む時に私の生命は死である。この廻轉の軌道を外れた時に骸は横はる。自由！自由！あらゆる奴隷よ去れ！汝自身のおこがましくも微弱な

る良心までも！恥づべき過去に、とり憑かれたる記憶に過ぎない良心までも、何等の願望を齎らさない所の——

ただ、今私にあるものは、直行的なる一切のものに過ぎない！一種の動力的熱量に過ぎない！私は私の詩の友達に、それだけはせひ知つて貰ひたい事である。そして第一期の私の意識的破壊の運動を全藝術に投弾し更に第二次にうつさうための過程を知つて貰ひたい。以後、私の詩は更に猛に破壊と創造の運轉を開始するだらう。そして私達のインテリゲンチヤの最後にまで到達し没落するまでの期間を——。

千九百二十五年九月

萩原恭次郎

詩集例言

一、過去の生活にとつて、私に勿論藝術生活などと云ふものは無い。私の詩は、その時々々の慰樂であつた。されば、私の詩は詩自身で私の過去の全景を眺望され得ない。むしろその正反對である。堪えまなき飢餓と、無名と、獨立と、孤獨と、鬭争と、噴怒と、勉學と、云ふやうな外界の肉體的焦燥の疲勞と、暗き思索と、反省の、堪え間なき嚙争に、私は詩を思ふ程の、時間も無い程に、極度の疲勞を靴の先にぶらさげ乍ら生活した。深夜、疲勞のために眠れない間に、にぢみ出る思ひに、僅かなる述懐や惡戯を、斷片的に夢遊病者の如く、書きつけて寢臺の上に轉々としてゐた。まつたく私の詩は、生活そのものでない。かゝる私の生活の時々の反映に過ぎない。今、詩集一卷とするに及んで、自らの何分の一も表出されてゐないのを發見して慚愧と悔恨の念に馳られてゐる。されば、私を識つて貰ふためには、一篇の詩よりも全篇を通じて私

自身を構成して識つて貰ひたい。今は之等の詩を一つの記憶として自分は廢棄するより無い。

二、集中の詩を大體九章に類別した。「装甲彈機」篇最も古く、すでに五年前の作である。ただ懐かしさのために載録した。掲載順はほぼ三四年來のものを創作年代の順序によつて配列した。今年に入つてからの作は、「煤煙」と「廣告燈」のみである。

とにかく詩集としてみようと思つたのは、實に最近の氣持である。藝術に對する愛好の心持が知らず識らずの間に、自分に自己一個の獨特なる自信をもたせるやうになつて來た。それは詩に對する心も他の何事に對する心も、少しも變らないと云ふ事だ。て、出版の遅れ過ぎた事は、また止むを得ない。けれ共、私の詩は、今、漸く黎明を呼ばふとしてゐるらしい。今日の若き詩壇に、不思議にも私の詩は迎へられ、また多くの同傾向の詩人の簇出するのを目撃する。理由のない恐怖に似た羞恥と幸福を感じる。

三、この詩集の命題は、最初「恭次郎の腦髓」とした。またニタイトルも四六倍版、全アール紙に四號組みにする筈であつたが、思ふ所あつてそれらはみな變更された。二三の豫告を破約するため一言する。されど、この詩集の装幀も紙面構成も、未だわが國最初にして、新鮮なる發明を誇り得ると思ふ。これらの勞を快諾し、盡力してくれた岡田龍夫氏に、深く感謝する。別項同氏の一文を参照せられたい。

四、さて、また多くの挿畫を特によつてくれた諸氏及び川路柳虹氏の私及び私の詩に對しての長い間のご好意に厚く感謝の意を表したい。

詩集 死刑宣告 目次 詩八十三篇

裝甲彈機 詩六篇

裝甲彈機 二
 凸凹の皺 四
 街上の歡聲 六
 愛は終了され 九
 群集の中に 一〇
 恐怖に變色せし魂 一二

鮭と人間の定價の錢也 詩十七篇

夏の日の戀 一八
 踏切り番の薔薇の花 一九
 眞面目は乾物屋の乾魚 二〇
 心臓をアルコールに漬けて 二一
 鮭と人間の定價五十錢也 二二
 レールの下の生活 二三
 パンになるのかしら? 二四
 卑怯者 二五

何が何やら復讐です……………二六
 豚は一匹をります……………二七
 自責は三行ても多すぎる……………二七
 ある男に對する輕蔑……………二八
 ドテツバラ……………二九
 東京通信……………三〇
 千九百二十三年……………三一
 葱と爆彈と女の足……………三二
 フンナを讚美する……………三三

静物は欠伸をする

詩十一篇

静物は欠伸をする……………三六
 女の唇は嘘偽に割れてゐる……………三七
 コーヒー一杯で午前は終つた……………三八
 通過する一瞬時の酔ひ……………三九
 幽霊……………四〇
 深夜……………四二
 午前……………四三
 食事……………四四
 自らの額を割る日……………四五

土鼠……………四六
 煤ヶタ部屋ノ自畫像……………四七

愛は悲哀の薔薇なり

詩八篇

○●……………五〇
 愛は悲哀の薔薇なり……………五二
 屋根裏の鴨……………五四
 縊死……………五七
 日比谷のベンチで……………五八
 カルタの札をかき廻してゐると……………五九
 夜……………六〇
 管と裂口とサナダ蟲め……………六一

首のない男

詩八篇

首のない男……………六四
 闇の夜の記憶……………六六
 無題……………六七
 ある男と道を歩き乍ら……………六八
 墓場だ 墓場だ……………七〇
 あつ母さんと兄弟……………七四

長い髪によごれたりポンを結んであそぶ彼の女……………七六
父上の苦しみたまひし事を苦しまむ……………七八

悪夢を噛んでゐる自殺者 詩九篇

俺は泥靴で泥の道を歩つてゆく……………八二
悪夢を噛んでゐる自殺者……………八三
孤獨は夢我夢中に遁走する……………八四
壁の中につゝ立つてゐる男……………八五
歪んだ不具な醜婦……………八七
泥濘中の太陽を胸に燃やさない限り……………八八
プラタヌナの葉のやうに……………八九
秋……………九〇
離れてゆく秋……………九一

日比谷 詩七篇

日比谷……………九四
無題……………九六
廻轉する生命……………九八
死は奴隸と主人に無關心である……………一〇〇
自刻……………一〇二

沈着と無口の秋……………一〇三
地震の日……………一〇四

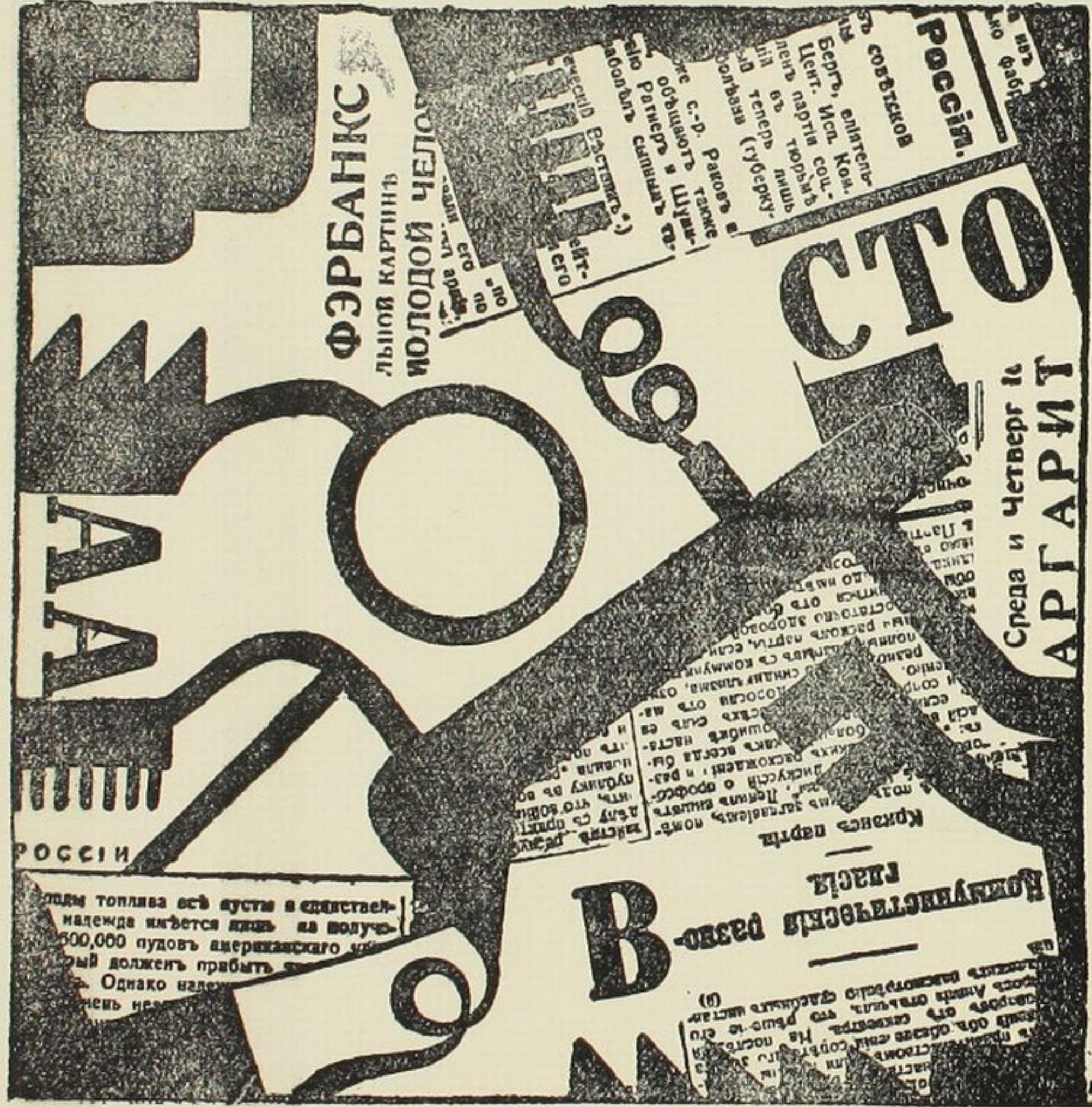
祈禱はマツチの棒一本で足りる 詩九篇

祈禱はマツチの棒一本で足りる……………一〇八
戀愛の一音信……………一一二
空は告知板に數字を明滅させる……………一一四
地底の鐵管から朝は手を上げる……………一一六
朝●晝●夜●ロボット……………一一八
ボールを胸に掛けて走れ……………一二〇
何百の眼球がつぶれ歪んだのだ……………一二二
何物も無く進むのみ……………一二四
人間の斷層……………一二六

ラスコーリニコフ 詩八篇

ラスコーリニコフ……………一三〇
廣告燈……………一三四
秋は隔離と番號とピラをまいてゐる……………一四〇
食用蛙……………一四二
煤煙……………一四六

機 彈 甲 裝



生活 一五二
 あるはべつとに對する宣言 一五八
 露臺より初夏街上を見る 一六〇

(2)

● 装甲弾機

近代的都市の飛躍雑踏中に
我は装甲の巨大なる弾機を見る
氣まぐれなる煙りを吐き乍ら
鈍重なる無愛嬌者

彼は軍隊式に聲を發し
都會の嗜好す

甘美や色彩や繊細を知らず
強い黄色の煙りを吐きちらし
都會をよごし氣をわるくし
驚き易い心臓を壓迫さす

彼は彈丸や群集の心に従はない
最も眞赤き野蠻な心臓をもつ
意のまま飽くまで

資本化した雑踏の世界に耐へ
混亂への強い強い出現!

あゝ 過敏なる女性美文明に
幅広い肩をゆるがす無愛嬌者
喜びも悲しみも現せな
醜い顔をして

されど彼が泣く如き
強き頑迷なる心臓の閃き!
彼が熱意!
彼が力量!
彼が破壊!
彼が創造!
彼がまことなる強力の運轉!
文明への争闘!

(3) あゝ 見る 我は現在!
巨大なる装甲の弾機!
美しき近代都市の飛躍雑踏中に

凸凹の皺

目には幻む武蔵野原の秋草よ！
青草原が踏みにぢられてより
生活の路上に
いくた祖先の生死の明滅が激昂せる世紀に呻いたであらう

見よ

無数車輪の叫喚
蹴りゆく靴鉦
方寸の隙なく
一瞬の安意なく

疾驅狂奔する
高熱患者の
利器の狂怒に
あゝ 絶えず
いちりつけらるゝ道路の皺よ！

荒き凹凸の皺よ！

そは絶えまなき神経的な
都會の狂痴にまかしをる地の母のかなしき微笑！

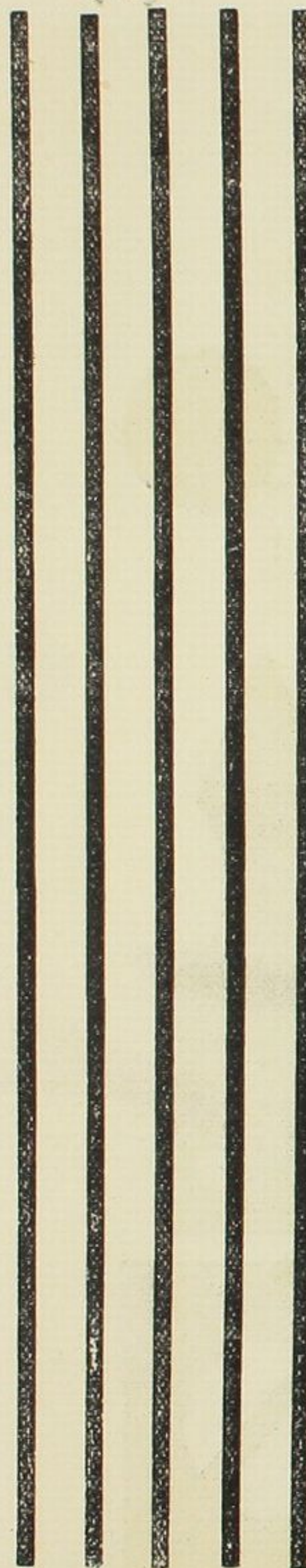
あゝ われらが生活はかく黄色の煙りを吐きちらし
目に青き草丘は消え
赤熱の汽鐘にも似たる叫喚か！

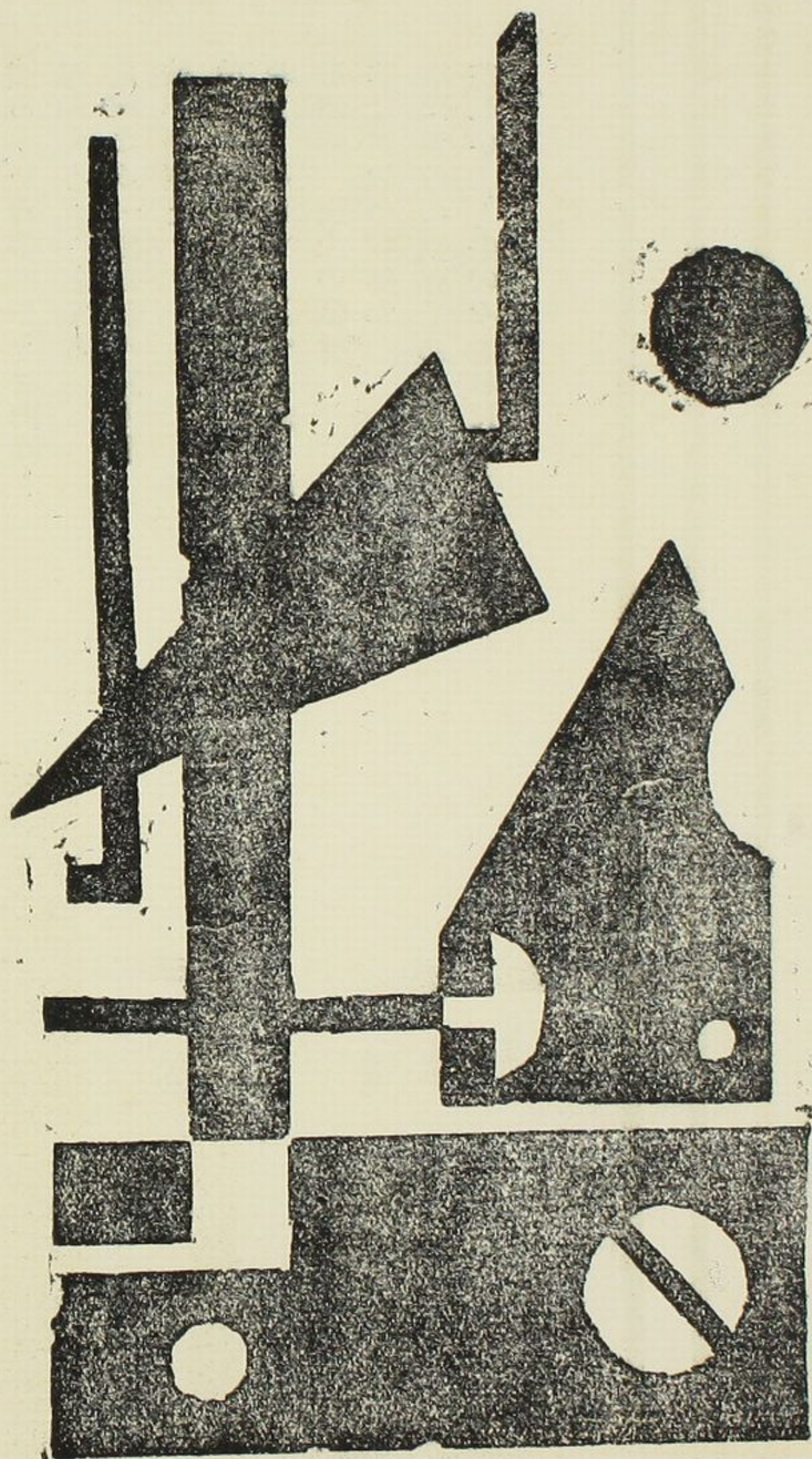
たどれば首府東京の曇空には
無数の黒煙と飢餓の夕なり！

街上の歓聲

誰だ かの雑踏中に
 破裂する汽鐘にも似たる喚聲に
 自らに武装し
 短軀を火のやうに怒らし
 一集團の中心となりて
 街上に聲を放ちをる争擾は
 冬の夕暮れを
 空に拋物線を描いて投ぜられるものは
 彼等の靴か！ 帽子か！
 凶器か！
 否！ 否！ 否！

それは群集にとりかこまれたる
 悲しくも怒りたる一無産者の
 憤ろしい砲弾のやうな肉體！
 爆ねやう／＼とする
 危険なる一無産者の怒り！
 彼が絶望と
 彼が恐怖の固り！
 おゝ そして どつと起りひろがる
 群集の 街上の歓聲
 其は何故の歓聲か
 其は何故の歓聲であるのか
 悲しい／＼冬の夕暮れに――

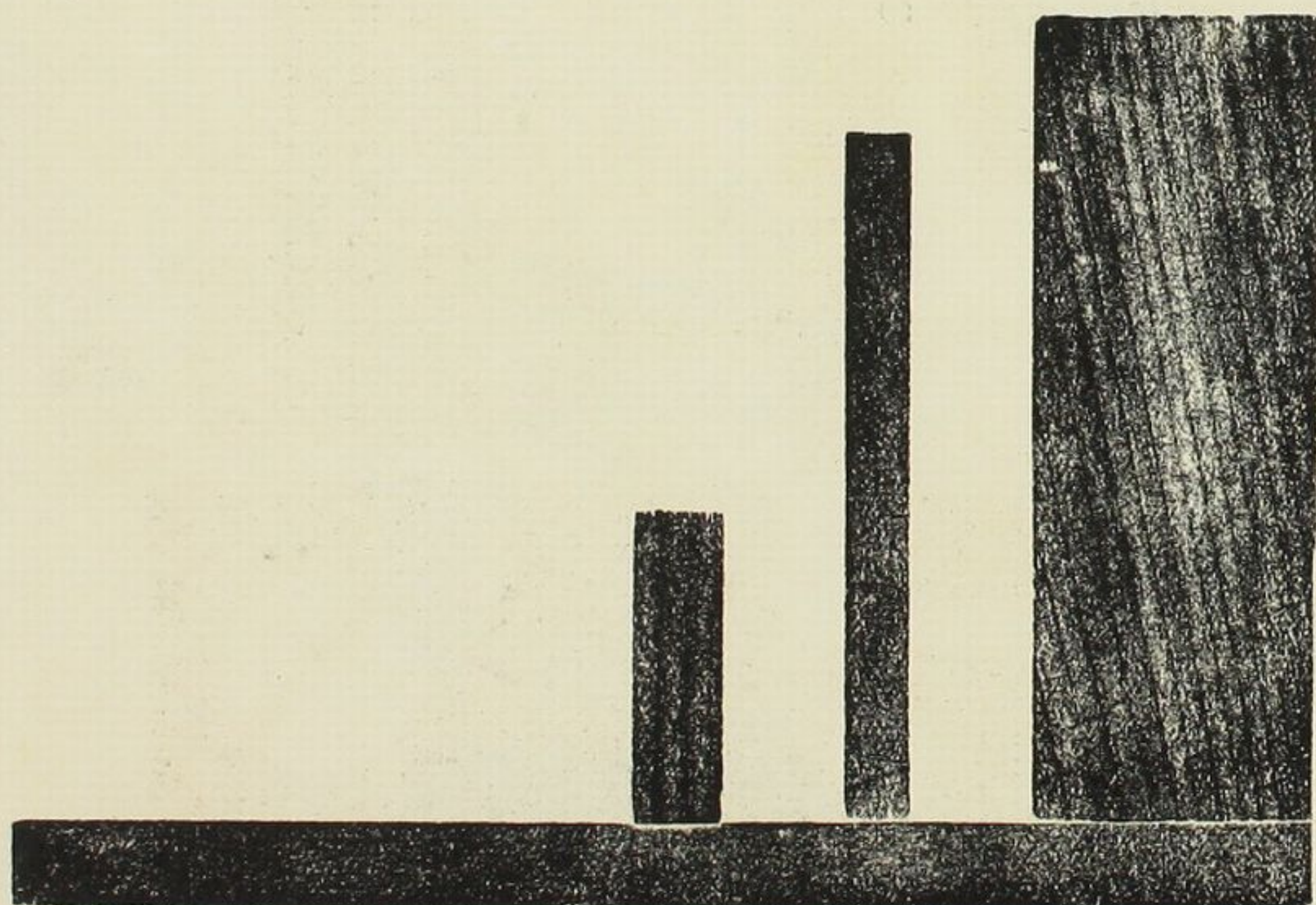




愛は終了され

母の胸には 無数の血さへにちむ爪の跡！
 あるひは赤き打撲の傷の跡！
 投石された傷の跡！ 齒に噛まれたる傷の跡！
 あゝそれら痛々しい赤き傷は
 みな愛兒達の生存のための傷である！
 忘れられぬ乳房はもはや吸ふべきものでない
 轉居の後の如く荒れすたれ
 あゝ 愛はすでに終了されたのだ！

さるを今 ふたゝび母の胸を蹴る！
 新らしき世紀の戀人のため！
 新らしき世界に青年たるため！
 あゝ われ等は古き父の遺跡を
 見事に破壊するを主義とする！



群衆の中に

群集の中に一人ぼつねん立つてゐる
 其は立ちん坊より淋しい心である
 樹の實が 樹に在るやうな静謐さにて
 満たせない心は群集の中に目をつむつてゐる！

私のふところには

白紙一枚ないけれ共

飢餓から来る脅迫！

失業から来る白眼の冷嘲

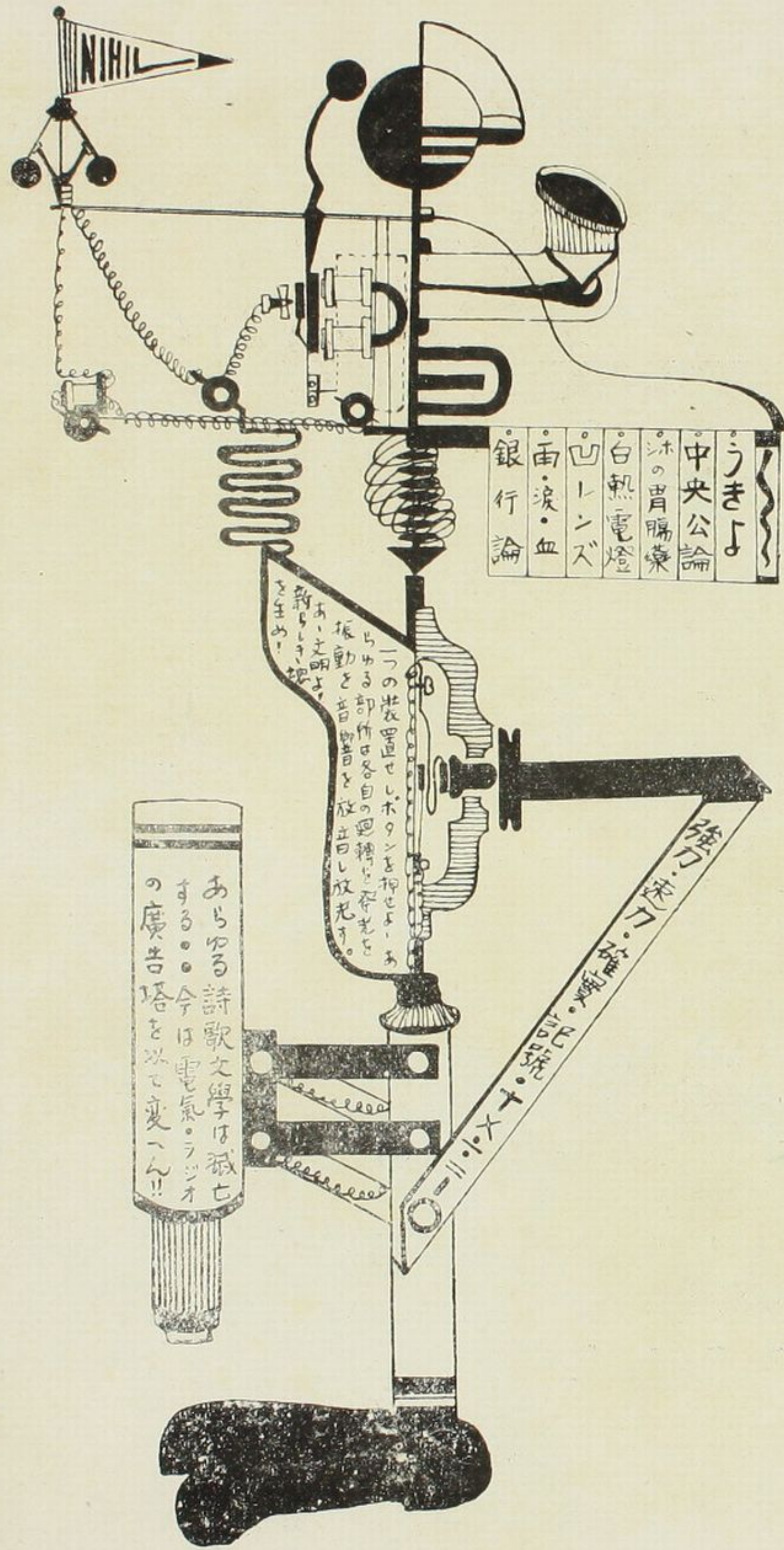
そは口火つけられしダイナモの如きもの

しづかに燃えゆき

しづかに笑ひは眞の怒りに變はる！

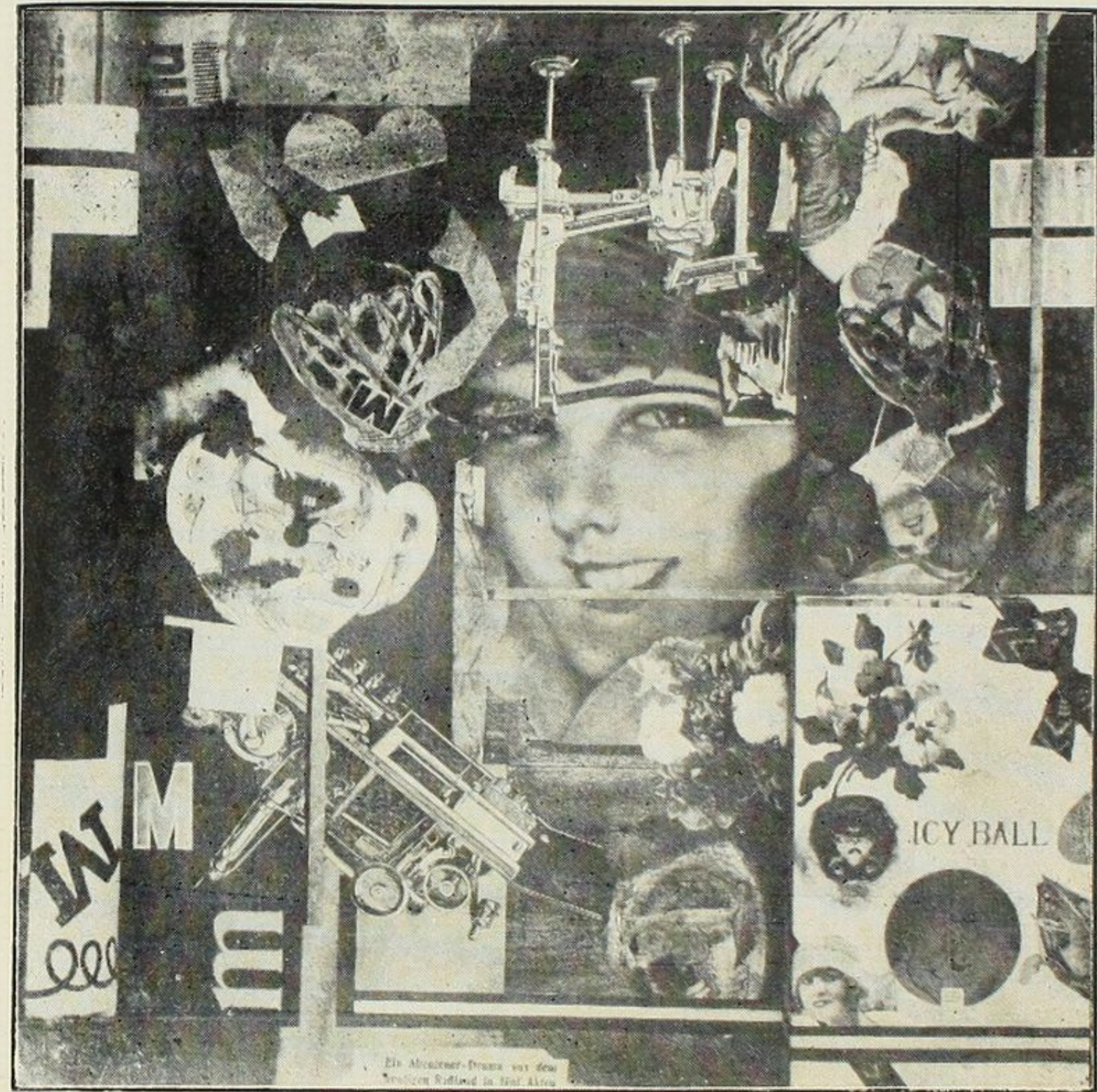
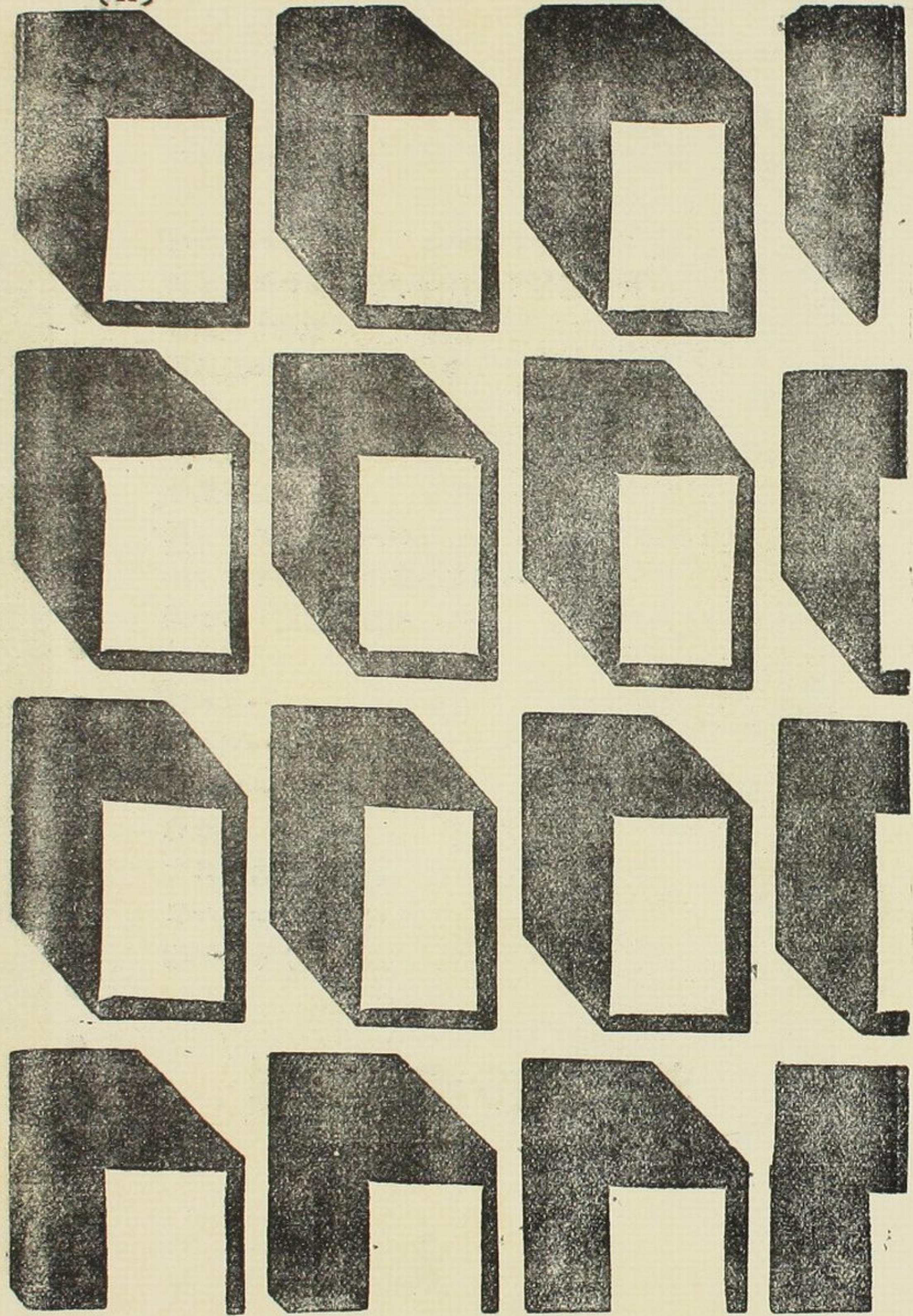
あゝ かすかにも遠く爆音をさく時に

われらの目はかつと見開かぬ！



萩原恭次郎

(11)



柳 瀬 正 夢

恐怖に變色せし魂

静思にかへる
 ひとときの酔惚を
 にはかに暗く騒し
 争擾し
 驚動さす
 ある影！
 ある聲！
 直ちに 酒精の如く
 荒々しい醜な影をひちげゆく
 眼 光らし憤怒する
 わが感情！
 わが生活！
 肺は病巢に
 頭脳は不調和に
 不均正なる爆彈のやうな赤い狂精神を
 どこへもつて行つて打ちつけやうか
 かくして尾をたれ

止どまらうともせず
 走驅し吠ゆ

ものかなしげなるさまに
 突として

頭上に叱聲を聞き

怯へつゝも

憤りのがれ去る

わが感情！

わが生活！

さて今！

うろたへ

涕泣し

苦しげにも息づく悪戯を

見よ！

かの高き屋上より

インキの如く青く

たちまち黒く

石だゝみの上には

硬直の死があるを知りつゝも

空を目かけて飛び上らんとする

衰弱せる理性を！

疲癯せし生活の夕景を

不吉なる顔し

蒼白き露の水邊を

酔歩し横行し哄笑しゆく

恐怖に變色せし魂!

おろかしさまで

砲彈のやうに

慟哭し

咆哮したき

憤ろしき怒りも消えつかれてねむる夜半

煙りなき陰鬱の無数の

煙突のあたり

幾多の黒い柁車が運び出される

●●●怪獸の如き都會よ!

あゝ 白晝!

街上に立ち

煙草ふみにちるとき

目前に雜鬧なすものは

墓樹をさはかす風の如き

人々の群れ!

見よ赤く

にはかにわが瞳は怒りに燃え

わが歩は狂暴に道を蹴りて去れども

かの黒き影!

かの黒き聲!

わが街路には

目的なく

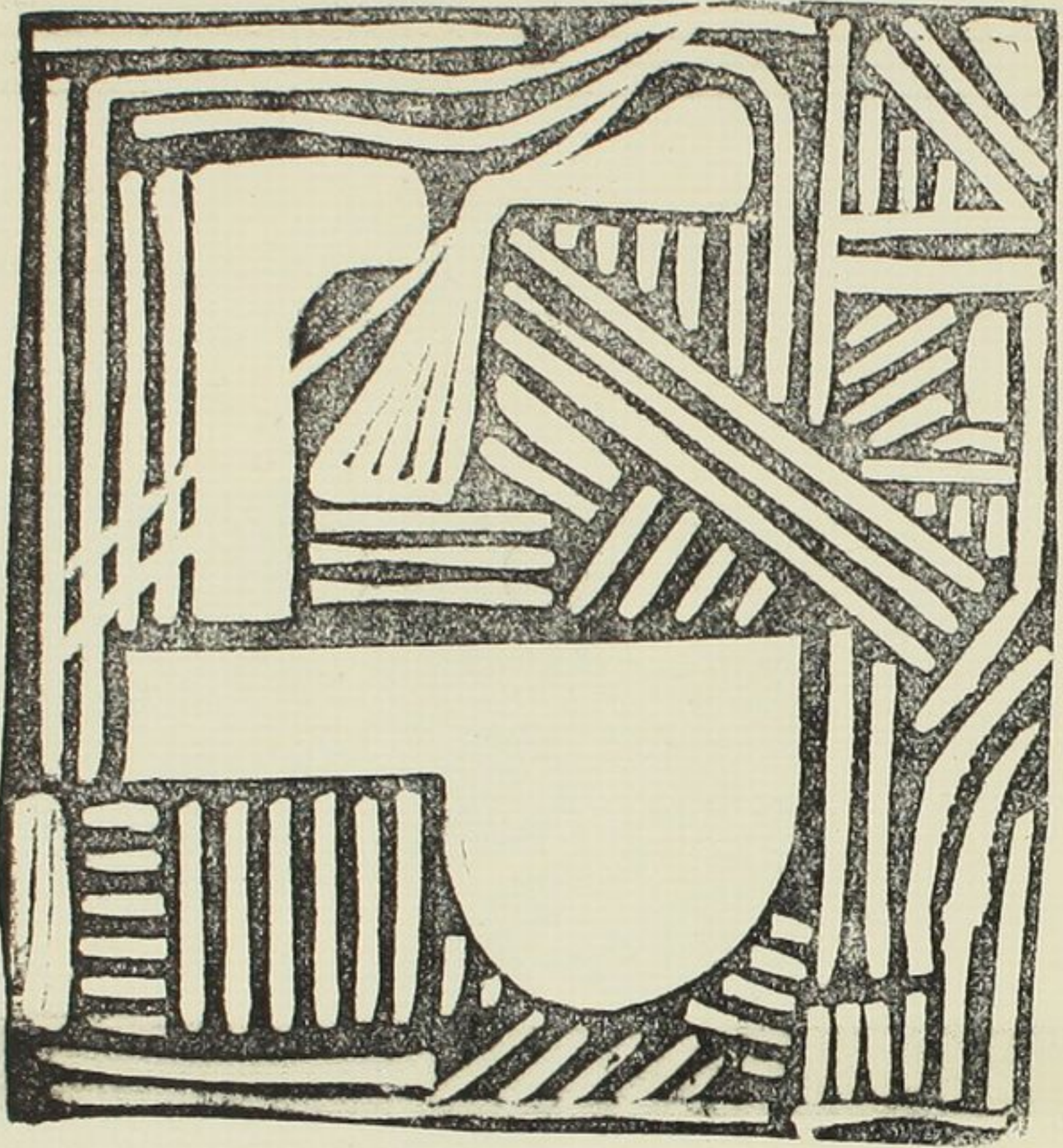
虛無の泥濘によこれ

歩の限り

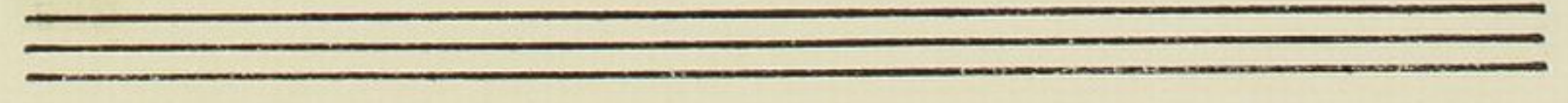
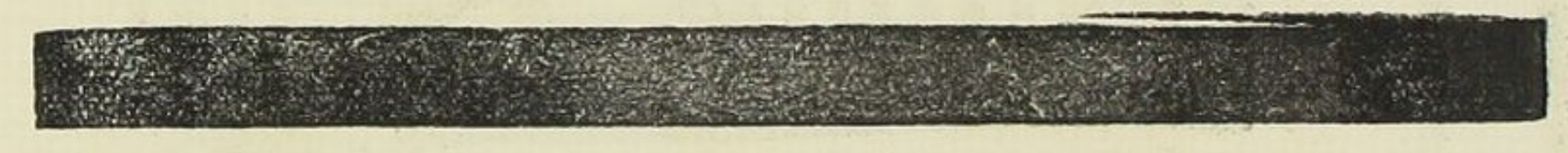
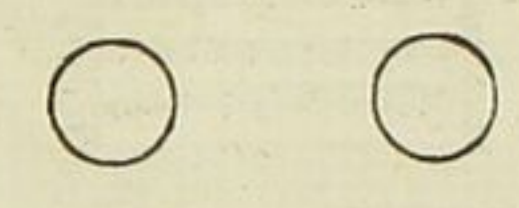
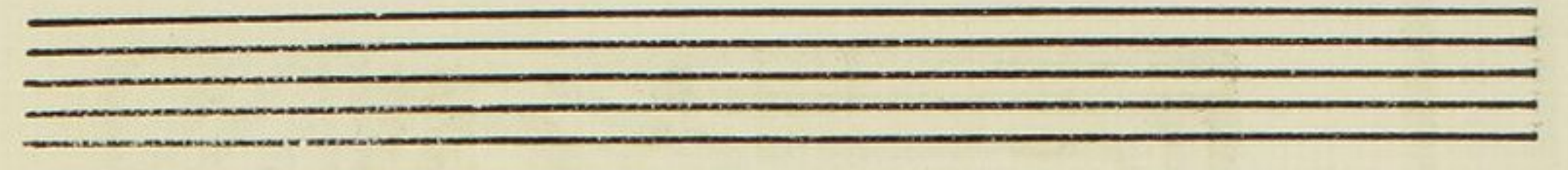
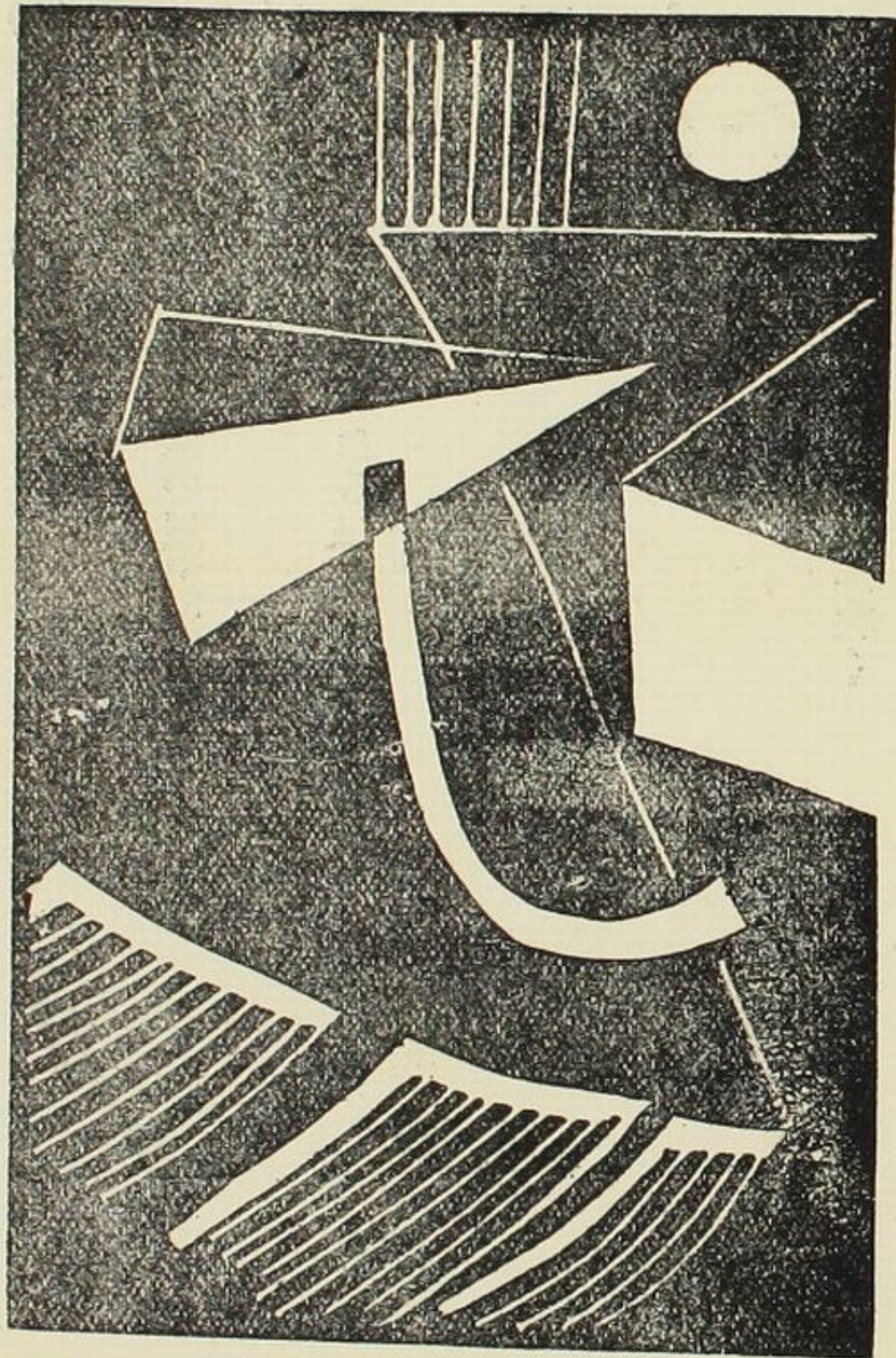
ただ歩む

よろほい歩む

哀しき興奮のみ!



鮭と人間の定價
50 錢也



夏の日の戀

機械體操する少女のお尻と 教會堂の屋根が輝く

聖書を読み上げる父親

臺所で豚のやうに働いて叱られてゐる母親

しなびた大根と説教

——禁制の建て札は

——いつか逢曳のうちに

——娘の指からはねかれた

男の腕によりかゝつた娘の胸と腹に

素的に怖ろしい **ゴツホ**のやうな向日葵が咲く

機械體操する少女のお尻と 教會堂の屋根が輝く

天なる神よ！

踏切り番の薔薇の花

踏切り番の薔薇の花が

役所通ひの洋服の胸のボタンに

KISSした

鋭いナイフとピストルが飛び出して

自轉車が走つて來て投げ出された

帽子を踏みこはしながら

夏の賞與があたり一めん飛んだ

人間が一度に二匹死んで

一匹は檻に入れられた

——汽車は一秒をまちがはずに走つて行く

▲客は新聞でそれを讀んでゐる

▲隣の薔薇を眺めつゝ

——汽車は一秒をまちがはずに走つて行く

眞面目は乾物屋の乾魚

眞面目は乾物屋の乾魚
計量器にかけて賣られた

残つたものはポロ／＼の不満足
賣物にならないゴミ

人並に涙をながして
金と交換できない心を
どうゆうふうにはハリックケにしてやらうか

血にぬられた剣と十字架の市場
俺の眞面目は 埃りの中に
如何程てつるされるのであらう

心臓をアルコールに漬けて

心臓をアルコールに漬けて
瓶の中に入れてとくと

みんな歡喜となつてしもふ
幾度も 幾度も 振つてからのぞくと

瓶一杯 つらい日の記憶となつてしもふ
杯についで飲まふとする時

眞赤な哄笑が
腹をよつて悲しい怒りになつてしもふ
臍のあたりに 涙の乾ついた重點が
自分の顔を釘づけにしてゐる

鮭と人間の價五十錢也

赤いレッテルには

北海道産の鮭と人間一匹の價
金五十錢也

- せつばつまつた蟻は
- 蟻地獄にをいて悶き乍ら食はれ行く
- 油のきれた機械は
- 空廻りばかりしてゐる
- 圓錐形の底の方に
- たうく這ひ上れない屍が
- 天上へ眼を向けてころがつてゐる

赤いレッテルには

北海道産の鮭と人間一匹の價
金五十錢也

レールの下の生活

京橋あたりのレールの下に

生活があつて家屋を立てゝゐると云ふのか！

たんぼゝは咲かないよ！

腕と眼のない顔と毛髪と腹部とが

コンクリートにまぜられては床をつくつてゆく

アスファルトの街道！ゴム輪の自動車と人間が散らばつてゐる！

車輪の流産とボールの合圖！

足でさへも胴のあたりから何時のまにかもぎられ

歩つてゐるまゝ埋められるか知れたものぢやない！

サクランポーよ！
 青葉の下で眠るアマム！
 思ひ切り圓い女のストッキングの轉步！
 動物園の眞晝間！
 ニキビを押す外國領事館令嬢の腕に残る赤い齒の跡！
 こんもり繁る葉影——飛び上つて吠える虎！
 電車と飛行船は旅役者の貴族であるか！
 麥桿帽は急ぐ——靴が氣に入つて鳴るので
 目ぶちを隈どつたASAKUSAの豹はこるがる！
 無數の中の一匹！
 腐つた百合の花のKISS！
 マガネのはまるやうな眼窩で笑ふ眞赤な色！
 焼きつけてパツになるのかしら——
 「共和國は出現するか？」
 「どうでも勝手に！廣年文！」
 首がもげて散る——寢臺——キアム！
 強いけだものにむし——毛皮をむかれる私！

パツになるのかしら。

卑怯者

ねぢ切れた時計の指針は
 虚無を指してゐる
 俺が時間も金も凡て棄てた後
 女は俺に向つて怒つた
 「あなたは憶病で嘘付きです！
 腹の底の嘘を吐き出しなさい！卑怯者！」
 ●俺は眞實だ！ 俺は眞實だ！
 ●俺は蜜蜂のやうに
 ●周圍をとび廻るよりない

何が何やら——復讐です

赤いサクラランボウの鐘詰の中から
笑ひこけた

白粉顔の道化役者が——僕だとは云はない！

驚愕宣言とピカビアの詩集をもつて

卒倒！

頓死の急速舞踏を

めまぐるしく跳ねだした！

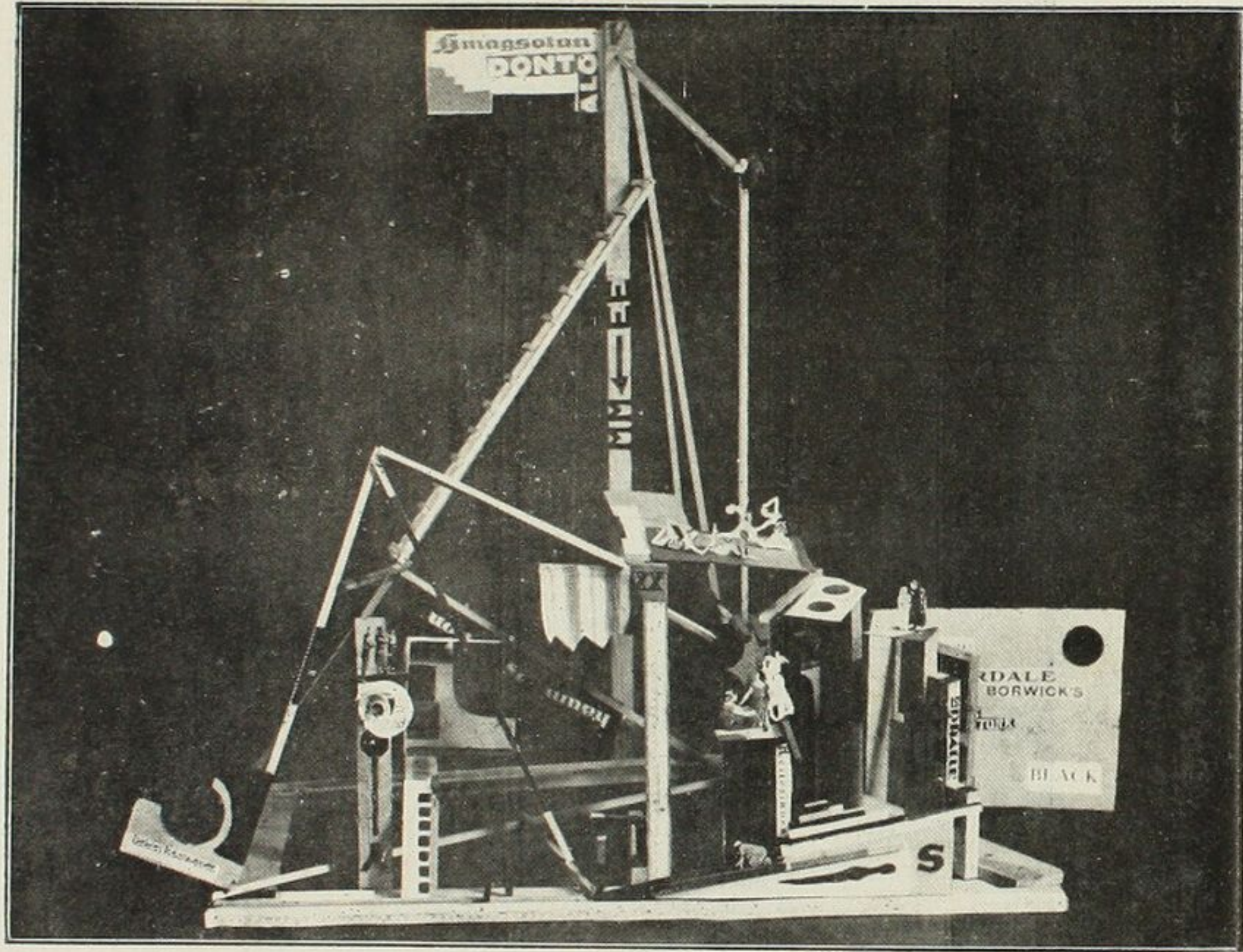
何が何やら——

何が何やら——

「よろしい！」「亂舞！」「狂氣！」「昏倒！」「絶息！」

復讐です！

「よろしい！初めッ！」



牧 壽 雄

豚は一匹居ます

まつしぐらに走つてゐる

乗合自動車のやうな揺れる腰をして

女は~~~~~幸福そのまゝに仕事を投りき出して居睡りだ!

フアウ!フア!フアポウ!

ポウ! ポウ・ポウ——

アハハハハ.....

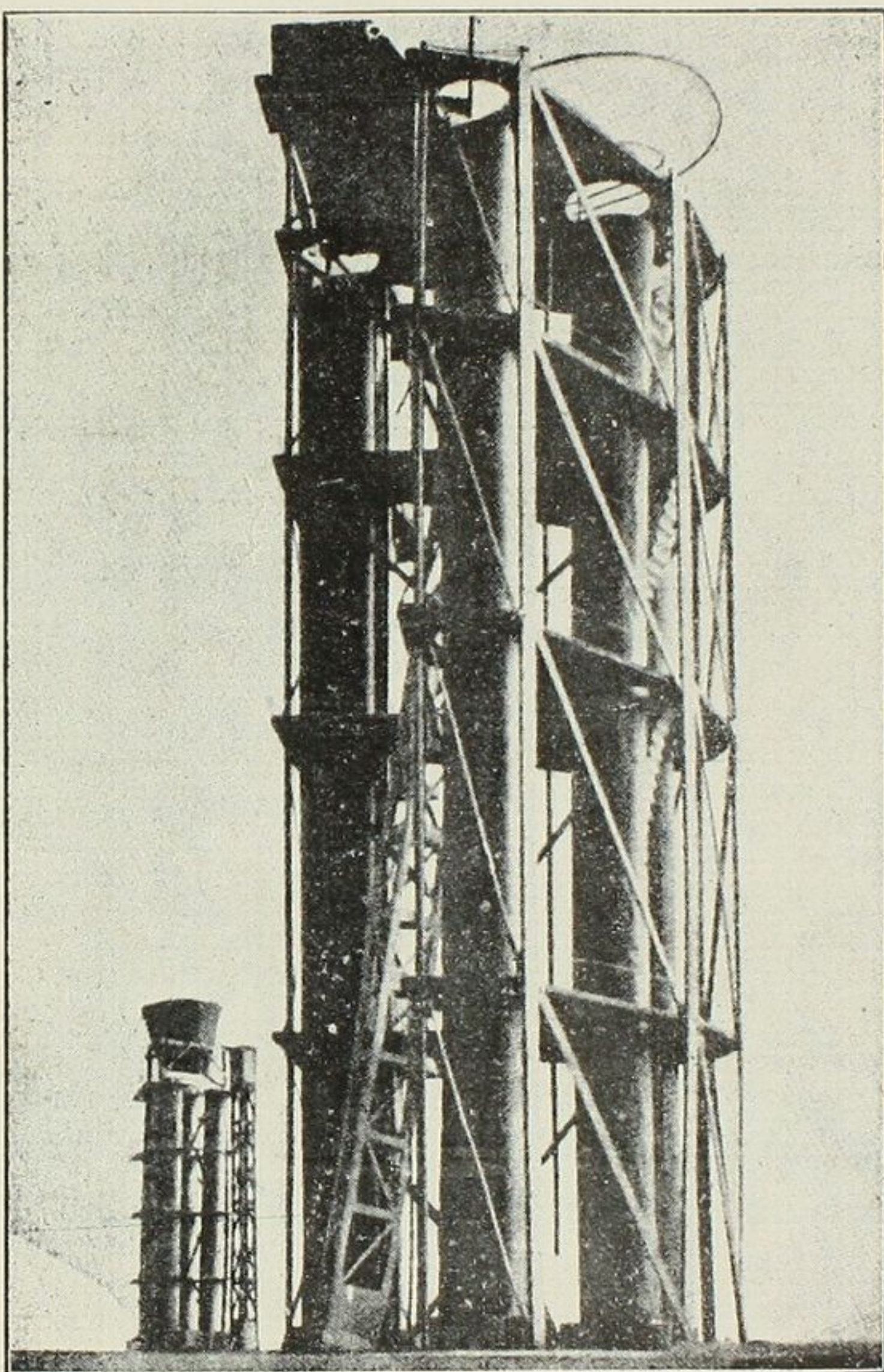
電信柱をぶつたほしてやれ!

自責は三行でも多すぎる

晝寝から醒めやうとおもつた蛙は

突然! アタマから小便を掛けられた

オダアツ!オダアツ!オダアツ!



タ ト リ ン

ある男に對する輕蔑

新緑の飛散する影からピストルが鳴る
赤と緑と黄と狂ほしい溶解
太陽の快樂

驚愕の顔——パラソル

寢てゐる人生 爆音

女の欠伸 光る眼

ア！ 人間——畜生！

アア アア アウ アウ アウ

キ——ン！！

蒼ざめた心臓がバチッと散つた

甘美な食物と重い紙幣束が犯人に盗まれた！

群集と處女に對する苦惱程激しき憎悪と怒りは無い！

青葉の影にカウモリが二匹飛んでゐた！

然り！人生の退屈は大砲の彈丸に射抜かれても痛感は無いでせう！

「ドンヨリ！腹つべらし！」

ドテッパラ

毎日 々々 一錢五厘の東京で

ふらふら 新緑をお菓子かとても思つて

白い洋傘のやうにアツチの巷コツチの巷に

赤い舌を出して笑つてゐるナメタン！

●●● 舞踏はガイ骨！

赤いサケは血！

踊り子は性慾の香料！

——ヤイ——ヤイ——ウヌ——ドテッパラメ！

ナサケ——ナイ——ヤ——ッ——ダー——ナイ——ア——ア——！

東京通信

— 大正十二年十二月 —

飢えた腹の底で短氣な悲哀が旗をふつてゐる
安い酒精も與へられない洋服君
十二月末の黄色い東洋的色彩の貧弱

力ない歩行のピエローの群れの中
景氣の好いのは
救世軍士官と罹災民の女房の色目
眼鏡の角ばつた新婦人の黄色い齒と唇
接吻は危険な巡查の囁れ聲
ぼろタクシーのはねつける泥
訴訟 姦淫 電車通路 人馬 ラツパ

昨今 東京は滿艦飾の軍艦が
港の波に動搖してゐるやうな賑かさ

千九百二十三年

裸體のモデル女が

いつさんに駆け出して笑つたら！

パ——ン！

毎鏡でやられた！

赤い赤いキレイな世界だ！

グル——グル

グルグルグル

地球が目玉のやうに廻つてゐる！

神様の小便が

櫻の青葉へ

ボチ ボチ と落ちた！

人間はみな阿呆にならなければならなかつた！

革命主義を笑つて

腰をぬかした御用學者！

射られた女はバツのやうな顔をして起き上つた！

トンデモナイ キヤンパスが

キョウジンノガカニ アリガタガラレキル！

——カンデンスキーは

無花果を食べながら笑つてゐるだらう！

葱と爆弾と女の足

葱と爆弾

自動車!

走る 走る 走る

田舎者の涙よ

流れろ 流れろ

臭い豚を殺せ

外国皇子の白粉くさい肉體に對して

●●●●●急速な車輪!

新婚の女の足!

射●!

A=A

チンナを讚美する

胸部

齒車●廻る!

●夢とキッスと雌蕊!

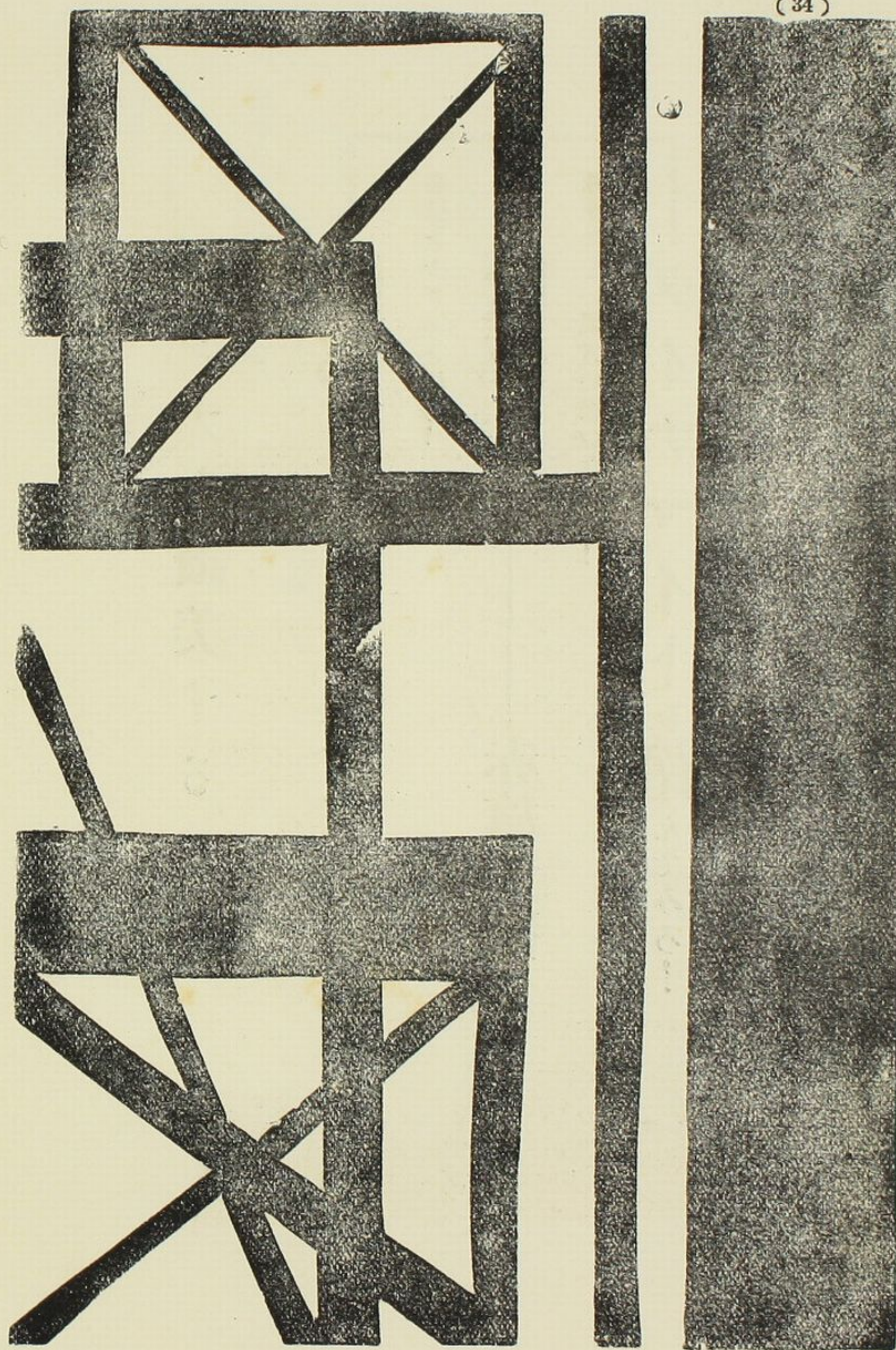
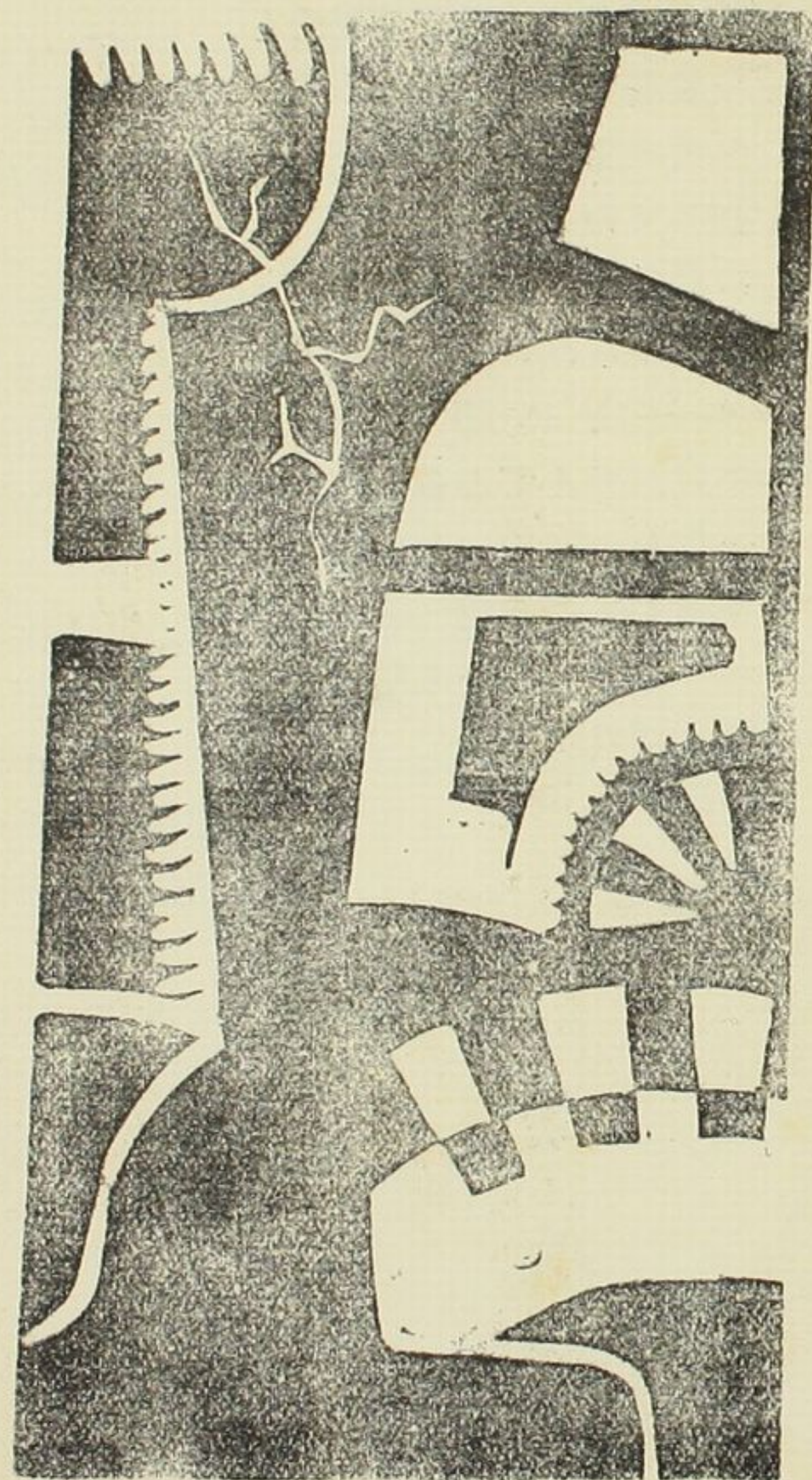
腰部

赤旗●翻る!

●生々しい現實の怒つた薔薇!

ダイナマイトを踏んでみる!

るすを伸欠は物静



女の唇は嘘偽に割れてゐる

生梅のやうなレストランの女の投げ言葉は
ウキスキーと強い粉煙草などでは消せない
私の悲しい神経を
紙のやうに燃やす

強度の焼火の下には
白い骨がくすれ残つてゐる
微笑も憎悪も陰毛も
柔い足で蹴らうとした女優の
タンバリンの音も消えて
霜げた薔薇ばつかが傷のやうに眞赤だ
女の唇は嘘偽に割れてゐる
胸にはゼンマイのやうな手段がまかれてゐる
生梅のやうな言葉で
胸の内部をしびれさす

秋の衰弱してゐる空気の中を
私は骨だらけの部屋へ
質草を見つけに歸つて来る

静物は欠伸をする

腐つたアップル・パイのやうな細君と
舊式の山高帽の愛情深い宣教師S氏と
けいれんする羞恥の赤さをもつた午後の庭に
柔い目をした犬の愛撫を見つつ
天國の話は初めてゐる
泣きはらした目のやうな山茶花が
無益な顔をしてゐる私に照つてゐる
紅い花と———蒼白い顔
空に剝製の白鳥が飛んでゐる
籠んでゆく一日を
挽歌も知らず過してゐる男
明るく———そして暗い太陽の面に
愛と歡びは燃え切れてゆく
胸の中で青い蟲が
果實をむしばんでゆく

コーヒー一杯で午前は終つた

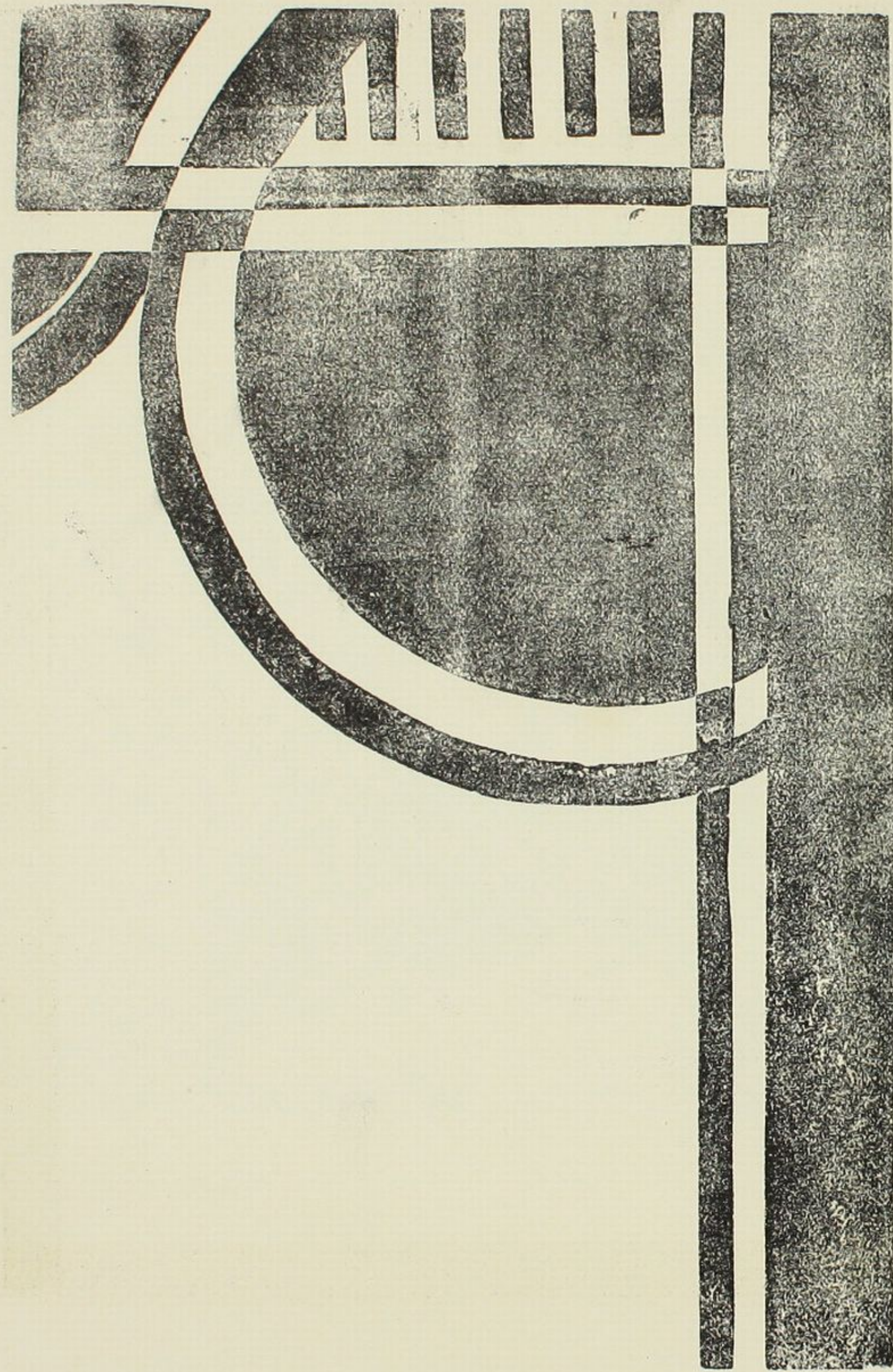
疲れた蟲が
もの倦い花瓣の中を遊いてゐる
接吻も飽いた
コーヒー一杯で午前は終つた

天氣の悪い日だ
肉體が死を思ふ
肉體のはなれゆく悲哀を
厭しつけるやうな重い憂鬱の抱擁でつづけた
女は赤いキモノをつけて笑つてゐた
古びたくつしよんの上で
ピエローは死につゝある

一日は終つた
黄色い電燈が部屋へやつて來た

通過する一瞬時の酔ひ

脳髓は蒼ざめた重いモーターである！
泥濘軌道へ！
約束もなく廻つてゐる！
腹の中はいつばいに無役な工場が立つて
煙突の煙りはあらゆる内臓をまつくろにしてゐる！
やがて男は——陸上に疲れて
海へ投ずるだらう！
骨が貝殻のやうになつて上つても
屋根裏で何んの職業もなく起居してゐた男とは
誰か石灰質の骨から記憶を知るものがあらう！
晴々しい空氣を吸つてゐる想念を
通過する
通過する
一瞬の爆發の酔ひ！



幽 霊

私の思想は髪毛や胃や腸である！
 私は晩飯を食つて女に小説をよんでやる！
 女でも男でもない幽霊が
 脳膜にぼんやりとうつゝてゐる！
 ぶらさがつた上着のやうに青ざめて笑つてゐる！
 せむしのやうに部屋の中を泳いでゐる！
 女の臍や胎兒まですつかりうつゝてゐる！
 赤い人形はいくつも部屋に
 糸につるされてさがつてゐる！
 彼の女は部屋中にボカンとした目を開けてゐる！
 大きな眼は何を見てゐるのか知れない！
 不思議な世界がうつゝてゐるらしい！
 時計のやうに寂しい夜が歩いて来る音が聞へる！

深夜

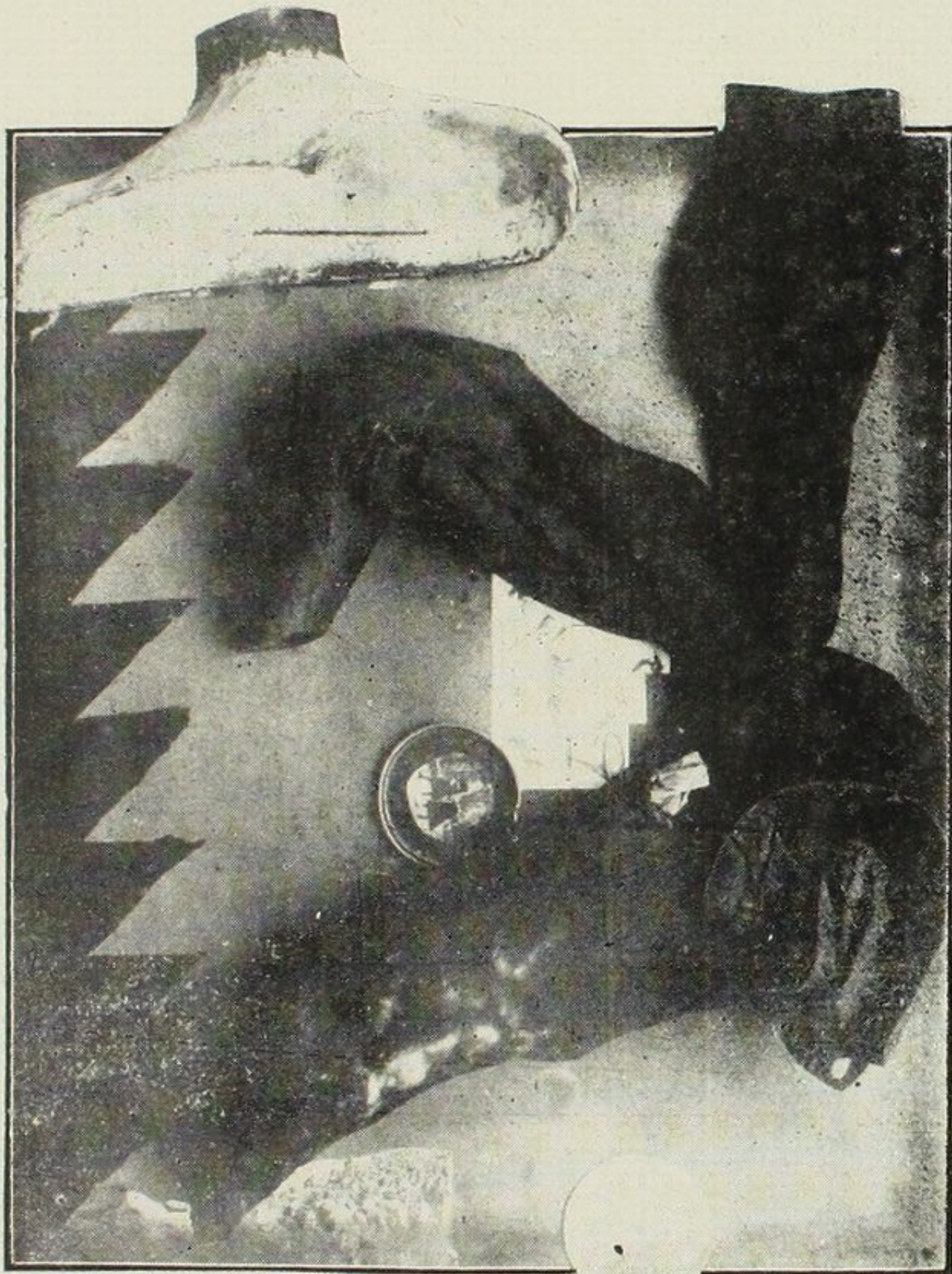
うなされる睡眠は恐怖の青い液汁を吐く
キュービストの港の繪のやうに
疲れた倦怠

肉體はしびれてゐる

壁の中で手を上げてバタリ倒れた影

街角をめぐつてはぶつつかつて來る影 影 影

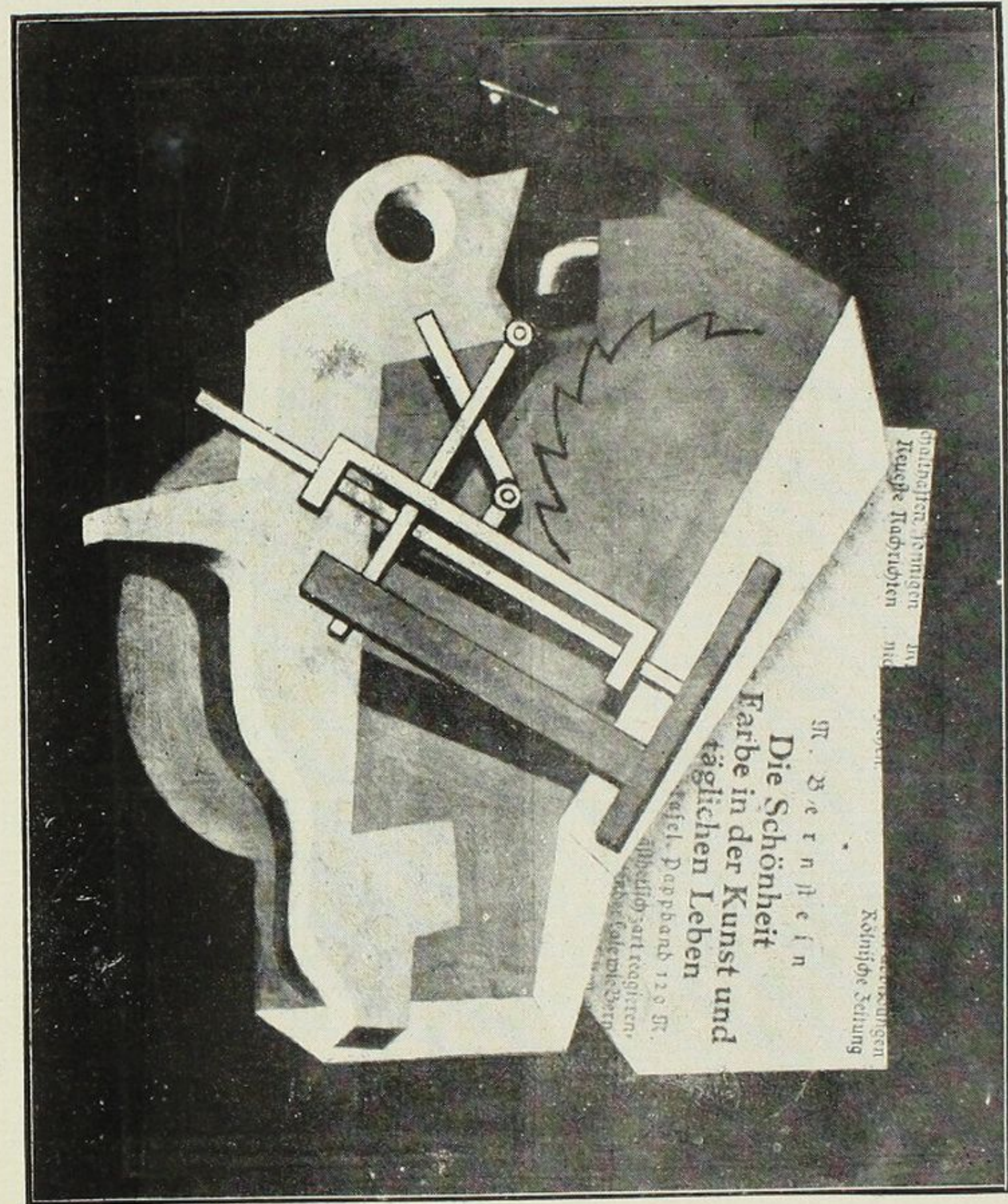
真夜中の時計は踊つてゐる



岡田龍夫

午前

朝から黄色い心臓がキゲンが悪くしてゐる
 時間を忘れた太陽が曇つて来た
 泣き叫びのダンスが始まります
 白紙が一枚一枚心臓からめくられてゆく
 いろ／＼のものをひつばたきたい
 腹も頭も俺のものとは思へない
 ダリアの花が滅茶々々にもぎられてゐる！



大浦周蔵

自らの額を割る日

ゴールデン・バットのヤニで胸が痛い
 ヒステリーの犬になつて谷中の坂を上つて行く
 悪酒にくらつとしてキヤラキヤラ笑つて行く
 ちつと俺をみつめてゐる
 冷い笑ひが腹の底で生れた
 重い剣を下げた巡査よ

食 事

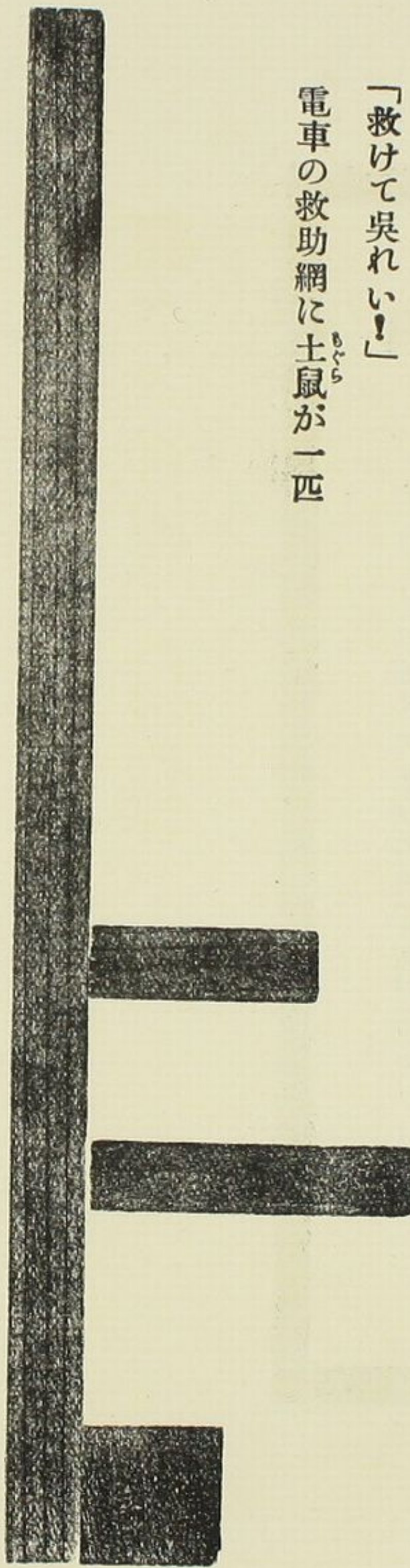
食べたメシは穴だらけな死體であつた
 メシの中には何んの營養もない
 空虚の茶碗に欠伸と倦怠がつまつてゐる
 みんなメシはこぼれ出してしもふ
 お茶をついで箸で虚無を追ひ出す
 割れさうな瀬戸の茶碗に憎悪が鬱積してゐる

土鼠

手も足も出ない
 私の心臓はもう廻らない車輪
 赤い哀しい果物が
 腹の中で腐んでゐる

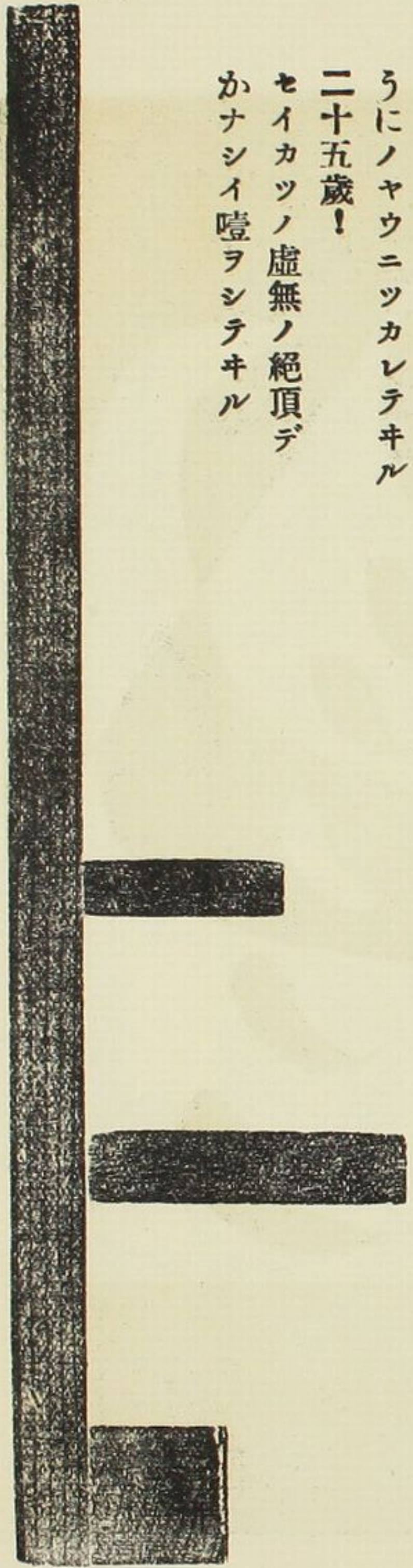
「救けて呉れい！」

電車の救助網に土鼠が一匹

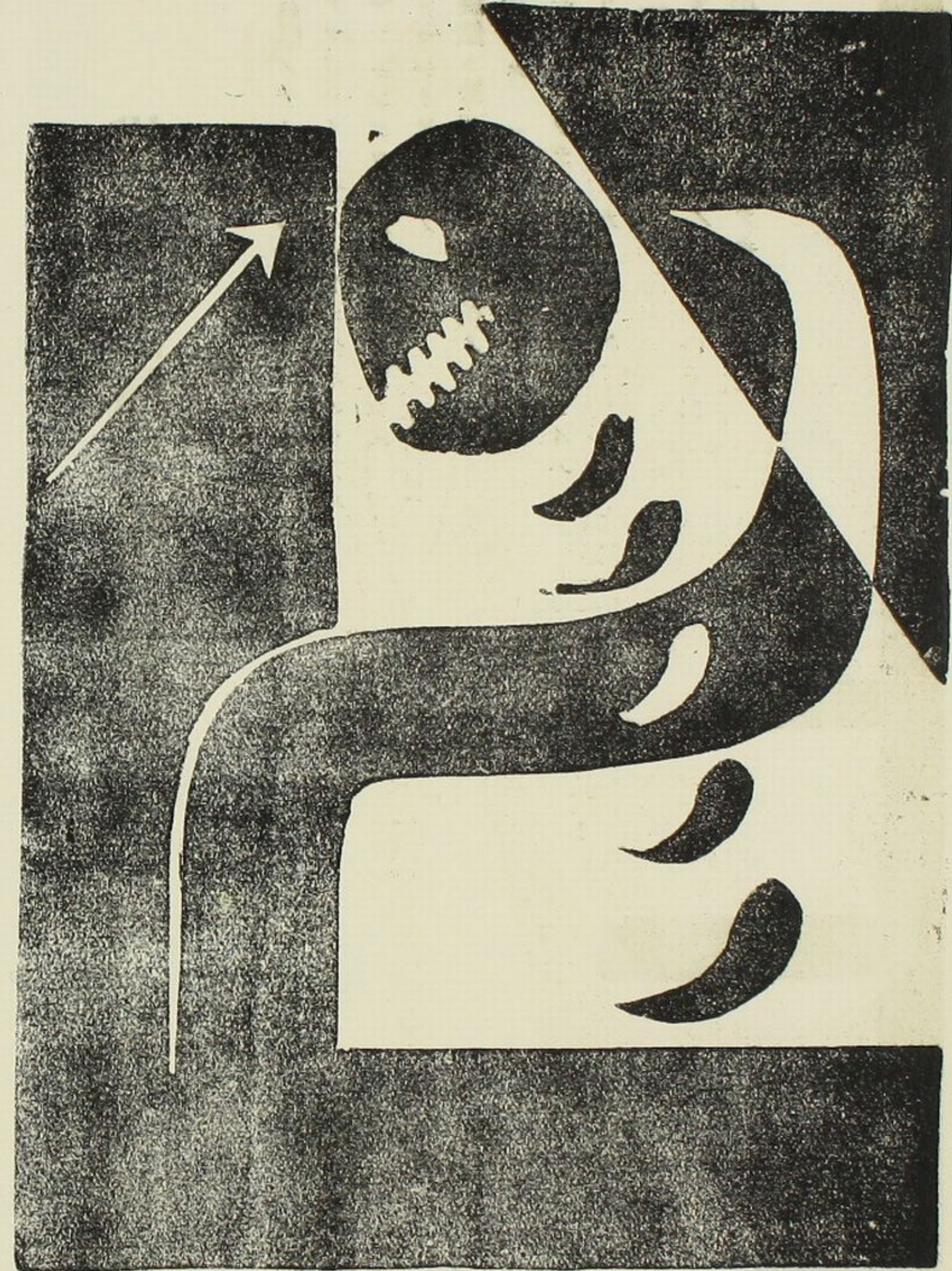
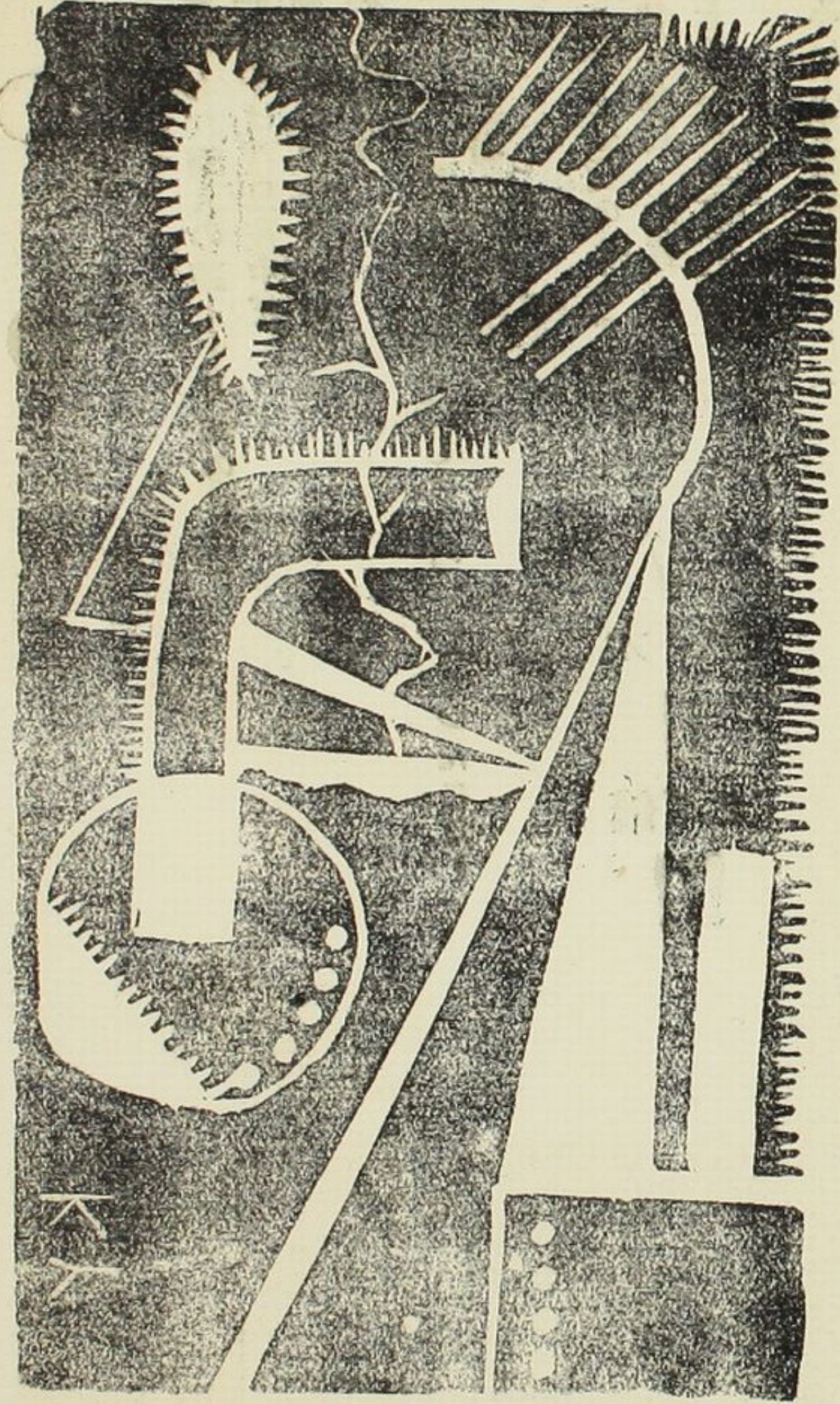


煤ケタ部屋ノ自畫像

自信ノナイ詩ノカレツクシタ男ハ
 アラジロイアサノネドコデネムツテ
 マンネンピットゲンコウヨウシニ
 タマシイヲ憤ツテ
 饑餓ト罪惡ト失意ト反抗ノ
 プラス マイナスニ
 何所ヘイツテモ賣レナイタマシイハ
 うにノヤウニツカレテキル
 二十五歳！
 セイカツノ虚無ノ絶頂デ
 カナシイ噓ヲシテキル



愛は悲哀の薔薇なり



〇〇を露出した戀人の顔——月經の日に
「便所」の中は百鬼夜中だ

強 された時のやうに

●●憂鬱な薔薇の

チーンと開き放しになつてしまつた日だ！
俺ハ春ノ日ヲ墓場カラ出テ來タ

ピストルと金貨のオモチャ
 金貨 金貨 金貨 金貨 金貨
 軌道を外れさうなアブナイ

太 陽
||
ツダ 錢
!!!

錢だ！ みいんな錢だ！

一杯ガマ口につめこんである錢ぢやないか！
太陽の光りだつて錢で買へる時代だ！

ゼニヲ モツテキナイモノハ
ニンゲンデ ナインダ

女も正義も——錢だ！

血 火 死 赤い赤い赤い
も { も { も { マツ赤ナ錢ナンダ！

——太陽形の錢が膏藥の代りにハリついてゐる局部から——
腐蝕した血が流れてゐる
金よ 本よ 酒よ 歌よ 女よ
——世の中は重い荷物だ しょつて起てない荷物だ
厄介な邪魔な荷物だネ

愛は悲哀の薔薇なり

君——酔つた脳漿に
 君——不均整な建築が
 君——建つてゐる

A——凍死する夜が何あんだい
 B——死んだら骨が菓子になるよ
 C——美しい墓場の下は遊園地だ

コノヨトオナヂサカバモアツタラ
 カツプラタタキツケアツテ
 ホエヨウヨ——ホエヨウヨ——

今 オレは神聖な少女に薔薇を貰つて来た
 酒場はウキスキーのやうにふるえて
 怒りつばい度怯が跳ね上つてゐる

●●●びあのも●●●たんぱりんも●●●女優も

赤い色は薔薇と心臓だけだ！

金貨も……酒も……抱擁も……暗い花だ

A 「何んでもないよ女子大學生」
 B 「みんな彼奴等若い身空で死ぬんだとさ」
 C 「すつぽりマントを冠つて接吻したつて」

● 闇子や紳士ダツテ

悪魔ト一緒チヤナイカ！

屋根裏の鴨

鴨は長い獨身のサラリーマンだ！

毎夜 鴨は屋根裏から

遠く——黄色い心臓に向つて

吠え 喋り 嘔つてゐる

——今夜こそ手紙の中に

幾らか金をつゝんで送るらしい

彼女は貧しい黄色い心臓の少女である

——鼠が壁に張つた新聞紙を破つてゐる
誰かが闇の中で怖ろしいキスをしてゐる

部屋の隅に長い獨白を思ひ出して青年が立つてゐる

——闇はあらゆる心臓をはつきりさせる

俺は楷子段の下で

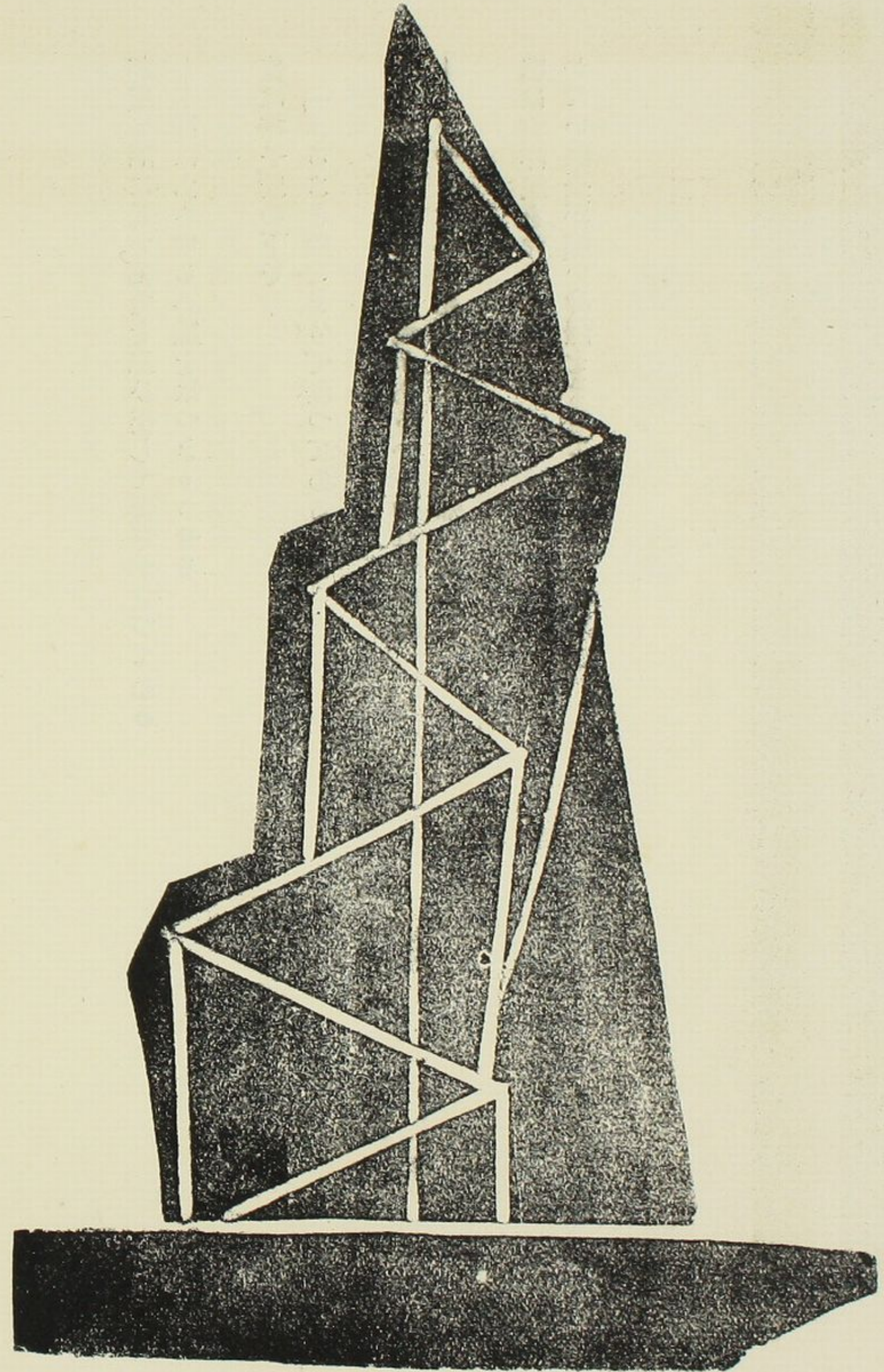
「ふるさとのなまりて語つてゐる」

——今夜この家にお産があるかも知れないね

——いや たれか死人になるかも知れないよ

鴨は古洋服をたゝんだ

かたい寝臺が細い身體をまつてゐた



死 縊

赤い夕日の空に
 巨大なビルディングが建つて
 狂水病の薬瓶が砕け！
 憂鬱狂の頭が割れる！
 青いコーモリ傘が理性をかくして
 遠くアメリカで
 若い男女の奇妙な縊死が報せられる！
 巴里では老人の長い夫婦生活に飽いた縊死が報せられる！
 北京では少女と少女の同性愛の縊死が報せられる！
 縊死！
 俺は櫛比した商店街を自動車で走る！
 狂笑する林檎——オンナの靴下
 ——窓の中の施れるカルタとる男の眼！
 高架鐵道の車輪！
 空——縊死！
 思ふに——赤い風船が墓場から飛び出す日ではないか？
 死人が都會の雑沓に見物する夜ではないか！
 日本大使館にも憂く日の丸の旗が立つてゐる日だ！

日比谷のベンチで

日比谷のベンチで

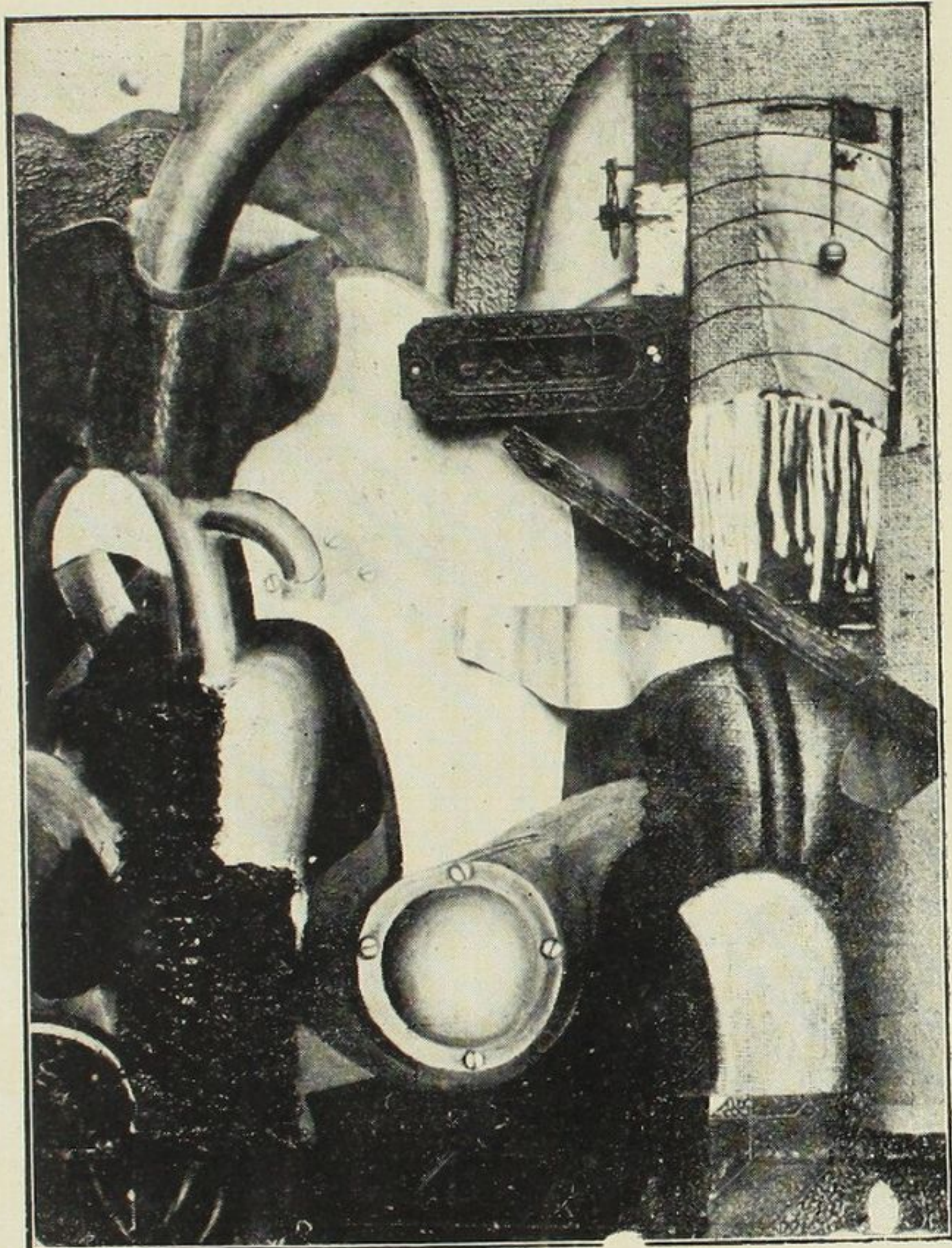
雪と愛が悲しいSの字を描いてゐる

青い魚がどこにもなく泳いで

空に寒い街並みが映つてゐる

頭の中に戀人の歐文字があつた

棄てゝある蜜柑の皮は自らを嘲笑ふ赤い舌である！



イワノフ・スミヤグイチ



カルタの札をかき廻してゐると

カルタの札をかき廻してゐると

骨と骨の抱擁

みちんになつた淫賣婦の骨粉

強いアルコールの幾滴

血の乾からびついた金貨

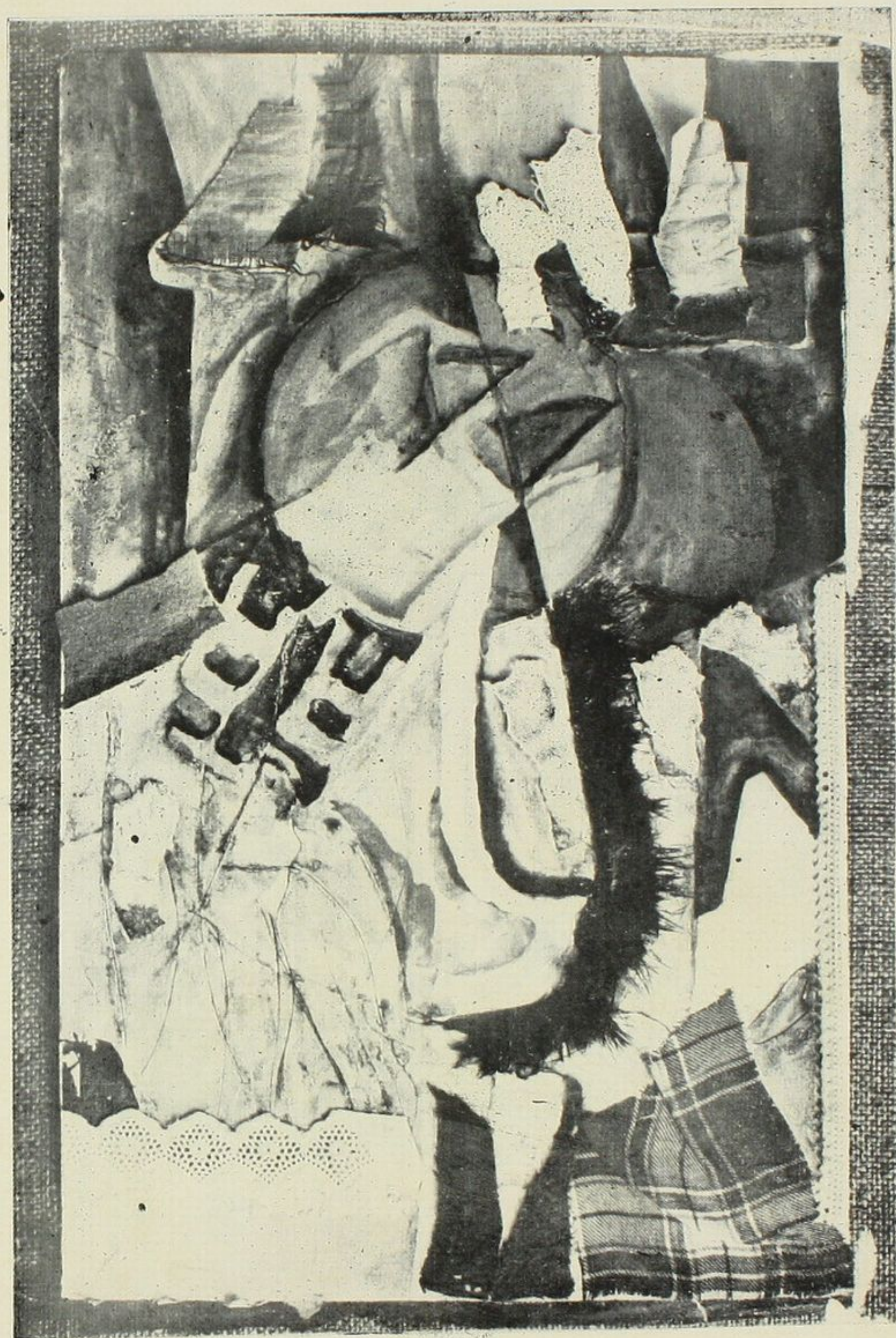
もみくちやにされた性慾が微かに匂つてゐる

殺人と嘘偽と接吻と

若い倶楽部の男女の骨が消えかゝつてゐる

カルタの札をかき廻してゐると

私の思ひ出の友達は今ほみな死人である！



村山知義

！め蟲ダナサと口裂と管

トタン張りの酒場のテーブルに
 ダリアは黄色い死人の齒をむき出してゐる！
 ソースのやうな濁つた血を吹きかけろ！
 油によごれた食器位ひなんだ！
 ぶん ぶん 青い顔が燃え上らあ！
 ビール瓶を胸の中へ投り込んでゆく
 葱と肉が焦げらあ！ 心臓まで焦げらあ！
 白粉の首は膿でふくらんでらあ！
 鉛毒症患者！五十錢銀貨は狡猾の唇にはさまれてゐる！
 脳髓の中のその怖ろしい輕蔑をどうするんだ！
 さすがに動物のはしくれてはあらう！
 無格柵な笑みをたゝえてゐる貧弱な
 兩足のつけねにある管と裂口とサナダ蟲め！
 ぶん ぶん
 世界が急速度の夜行列車になつた！

夜

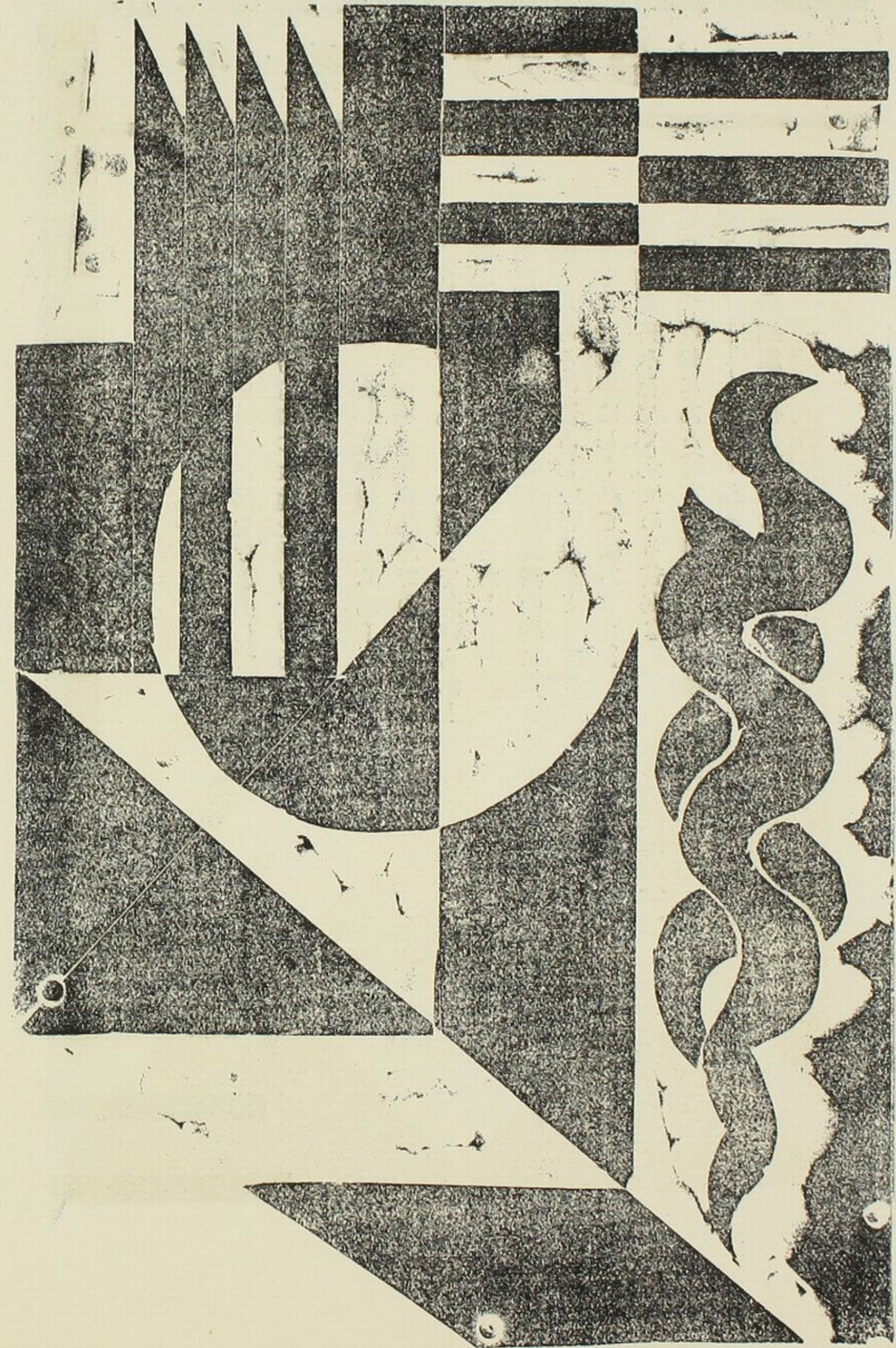
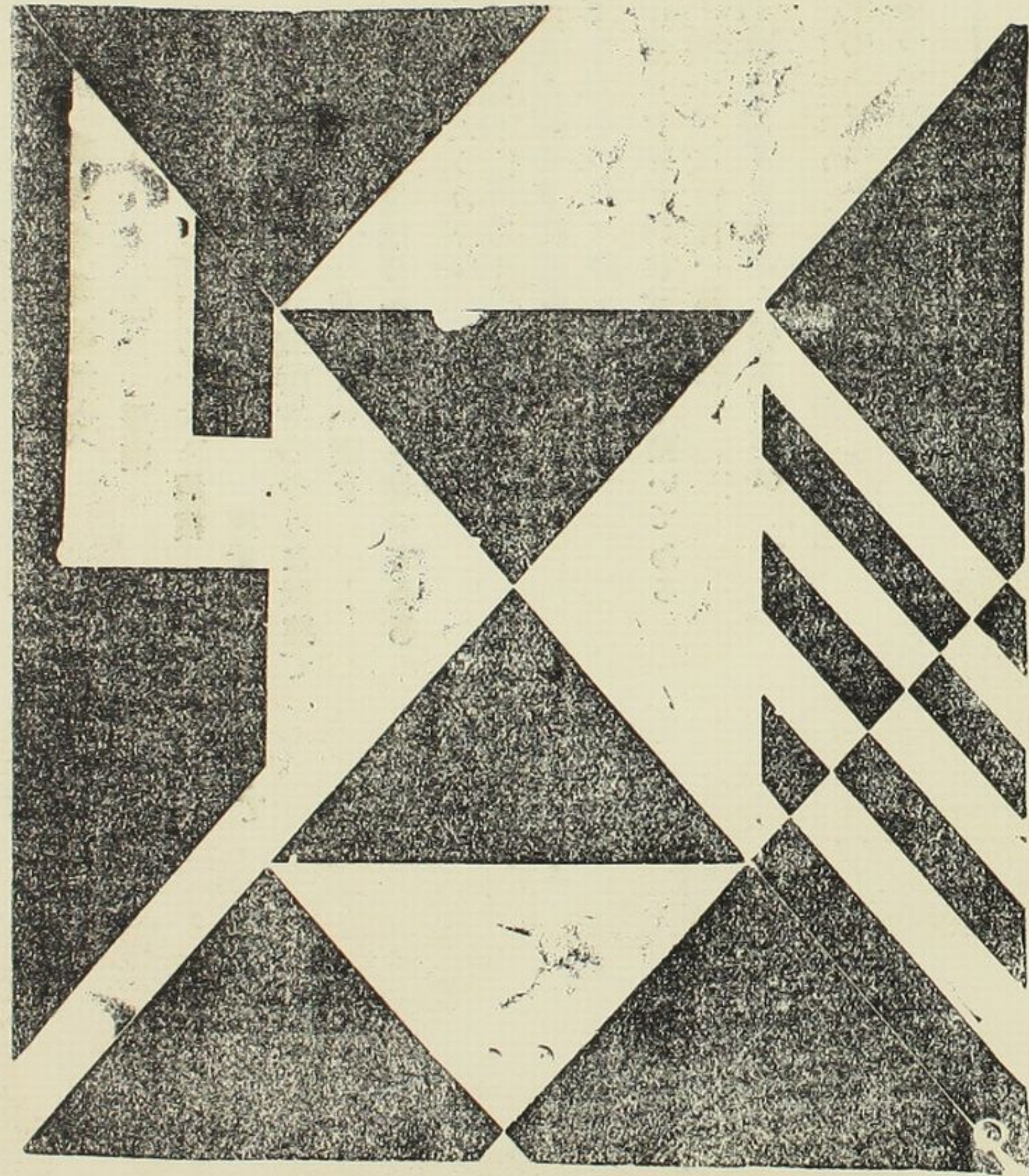
酔つぱらつてしまつた
 食ひ飽きてしまつた墓場だ
 金を拂つて出て行つてしまつた墓場だ

胸もしぼむやうな蒼ざめた
 ふるえる冷い炎が燃える墓場だ
 人間の遁れざるあきらめの
 骸骨が飛び出して来る墓場だ

夜はただかたまりに更けて行く——
 黒い空しい行列が怖ろしい樂隊と一緒に進んで行く
 夜は泥の手だ 泥の頭だ
 疲れて行方もない 盲目のぼんやりした泥だ

みな堪え絶えに ひつそりと ふらふらに
 歩つて行く一列だ！
 泥の手だ！ 泥の頭だ！

首のいな男



闇の夜の記憶

●●●●● 毎夜
●●●●● 肺嚢は蒼黒い内出血をした
闇の中へ！

剣付鐵砲の兵士が直立してゐる
ブリキ破片の肺臓が喘いでゐる

——手を上げた

男の上を

自動車はぐつと乗り上げて走り去つた

バン！バ——ン●●●
!!!

群集が

一度にワツと

——男をつかみ上げた！

血だらけな顔が

群集と共に

道路の上を引きづられてゆく——

無題

夢と云ふには淋しすぎる觸手ある食慾だ！

● ふくれたバンでもない！

● 汗によごれたバンドでもない！

● 泥まみれになつた靴でもない！

● 白い女の胸部でもない！

● 靴下にひそむサジズムでもない！

● 顔癩でもなく火薬でもない！

忘れて忘れて忘れてしまひたい！

——それが部屋の中を三角にはざる！

——顔を擲る！ひき裂く！血を吸ふ！

俺の無爲の心臓にはりついて來る紫色だ！

闇の夜を——地底を——燃えて氷り！

氷りついて燃える！

觸手ある夢がある！

ある男と道を歩きた乍ら

八角時計が俺の顔だと云ふのか！

バットの中からすり切れたピラが出て来た！

貴様は——

耳の腔へホースを向けろ！

脳石灰は高熱だ！

—— 午砲だ！

カラ—を乾せ！

赤い旗だ！天気豫報は狂つてゐる！

ギリギリ ギリギリ

鎖と憎悪と憤怒はねぢれ合ふ！

●●●電車は胴ぶるいして登つてゆく！

俺は貴様には——符牒でない物と物が云へない！

足は義足でない厄介だらうさ！

煙草を吸ひたまへ！

煙草が腹の中へちりちり火のついたまゝ落ちた！

貴様だな—— コツコツコツコツツツ！

—— 言語は絶してゐるんだ！

—— 行動は絶してゐるんだ！

骸骨の俺等の上を歩く長靴の髯は手前だな！

俺はピストルのやうな正確な行動をもつてゐるんだぜ！

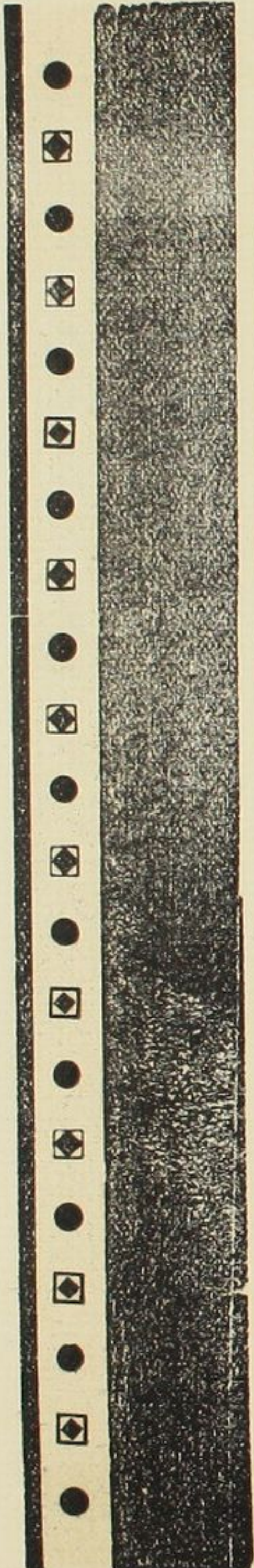
右と左—— 一！二！ 一！二！

ダフリユウ！ ダフリユウ！

ルク ルク ルク ルク

ゲツケル ゲツケル

丸善アトナインギ



墓場だ 墓場だ

手も足も はなればなれだ——
身體の在り場體所がわからない——
ぶらさげた電燈に——うどんのやうな
疲勞が寄つてゐる！

借金！

仕事をするのが嫌だ！

墓場のやうな萬年床の中で

寝そべつて——何をするのも嫌だ！

賃金を貰ふのは嫌だ！

要らないものを貰ふやうに嫌だ！

借金！

金 金 金 金 金 金 金

資本主義の金だ！

借金をふやすのが一番好き！

回ってしまった腹に

歪んだ判断が——いつも弱い心を虐殺してゐる！

何んでも来い！こらつ！

どうにでも 畜生！

思ふ存分涙をしぼりきつてしまへ！

思ふ存分自分を堀つくり返してしまへ！

思ふ存分甦へられない——呼吸器と生殖器をとつてしまへ！

粉々に 飛散さしてしまへ！

墓場だ！ 墓場だ！

戀愛も 理想も 夢も みんな正體をあらはして

今 滅びてゆかうとしてゐる！

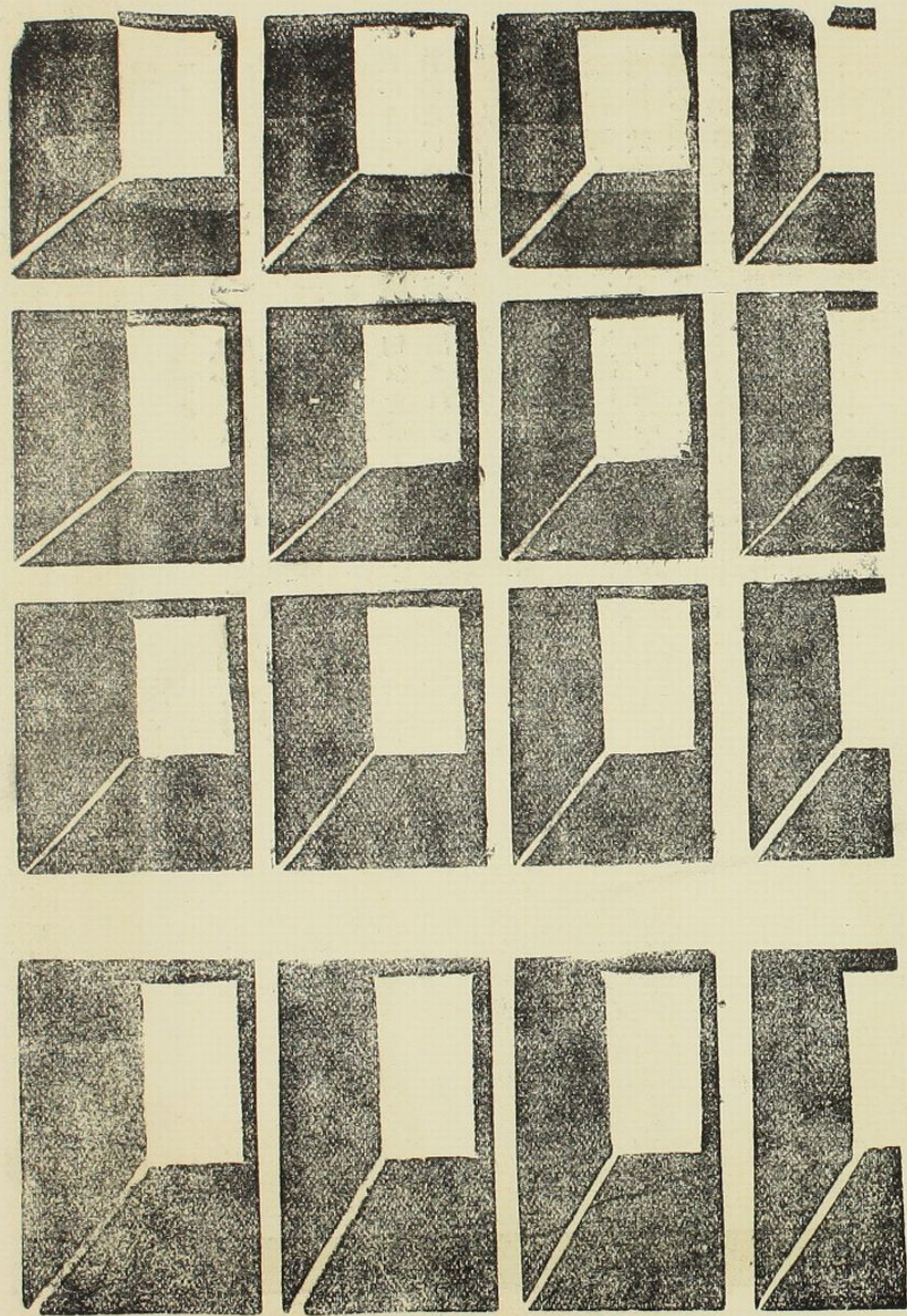
ア！ 誰でもいい、何んでもいい、

壁の中から飛び出して！

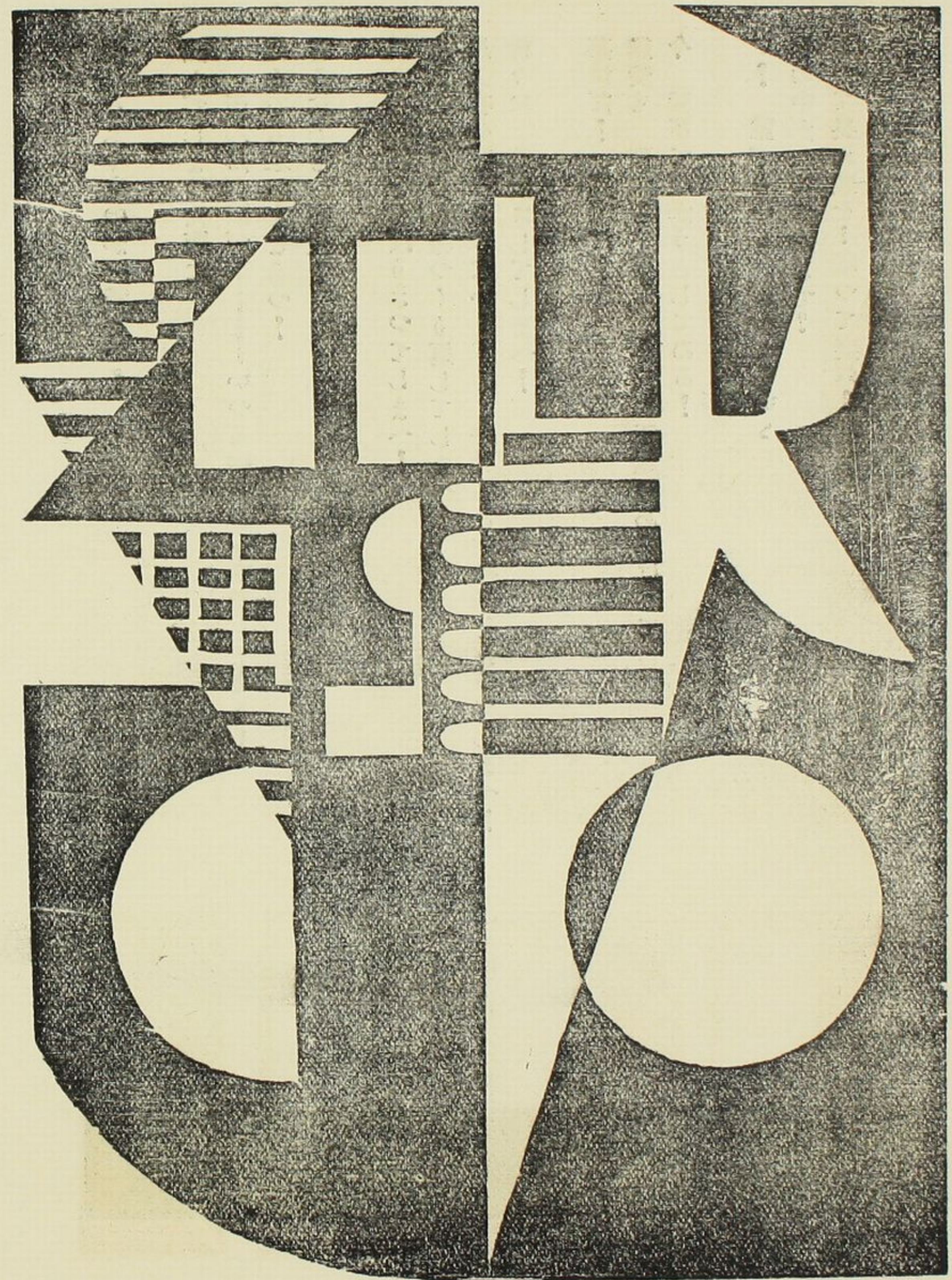
噛つて呉れ頭を！噛つて呉れ！身體を！

噛んで噛んで！俺を噛み殺して呉れ！

(78)



(72)



おつ母さんと兄弟

弟の黄色いズボンと僕の黒いズボンの下から
夜のまつくろい心臓の匂ひをなすりつけて
首のない金が引きづり出される

この金で飯も食ひ 切手も買ひ 洗濯代も拂ふ
何が光明で生きてるんかわからない
父親は若くて骨になつて泥になつた
母親は炊事番から 原稿や雑誌を片づけたり
新聞を讀んだり お茶をのんだり
おつ母さん！

然し僕が右眼にナイフをさゝれてめつこて
弟は眼球が突び出す近眼で げつそり腰から下が痩せてゐる
ズボンから出て来る金は
踏みちつた自分達のごつた血潮だ
怖ろしい下痢と目迷ひが二人をそつてゐる事は
おつ母さんは何も知りやしない

不具になつてゐる兄弟が單物に着かへても
おつ母さんの眼には幽霊にもうつらない

—— おつ母さん
—— ご飯にしませう

長い髪によごれたリボンを
結んであそぶ彼の女

長い髪によごれたリボンを結んであそんだ彼の女は
夜になると部屋にくらく座つたまゝ動かない
疲れた心臓の先端をヂョキヂョキ缺て切りはぢめる

——ウドンを買つて来て食べやう

——また心をはさみ切つてはいけない

昨日はアルコールにふくれた蛙が死んだよ

今日は偽瞞にみちた小さな脳髓の蛙が死んだよ

どつちもざまの悪い骸骨となつた
何もない胃をがりがり食ひ破る鼠も死んだ

——絶淵には

白いペンギン鳥が糞だらけになつて死んでゐる

飢餓は齒をくろくよごしてゐる

私は葱を噛んで晩飯にしても寝られる

煙突のやうに無愛想につゝ立つたまゝでも平氣だ

私はすでに私のためには苦しまないが

ヂョキ チョキ チョキ……………

そんな顔をしないで

疲労の頂點できりくまはつてゐる心臓をねむらせろ

——ウドンを買つて来て食べやう

——夏ミカンを買つて来て食べやう

父上の苦しみ給ひし事を苦しませむ

頭蓋骨の割れ目を馬車は走つた
馬の顔には大きな眼孔がぼつかり開いてゐる
闇の中へ馬は足を上げてゐる
馬車の中には女の死體があつた
お腹には赤んぼの大きな腫が見開かれてゐた
小さな手足はしつかり握られてゐた

私の寢臺からは毎朝黒リボンの馬車が走り出す
私の食事からは朝毎に墓場のオルガンが鳴らされる
彼の女は父を忘れてゐる子供を生む
彼の女の蒼い顔は血管の中へ銀貨を流し込む

生活は飯にコロホルムをかけてゐる
如何に月末を苦しまふと銅貨一枚鼠がくはえて来て呉れはせぬ
消費された女のお湯銭代と私の食費代を
誰に借りに行つたらいいのか
天井がぬけて落ちさうな部屋に何物も期待するもの無く
廣げられた新聞の廣告欄には

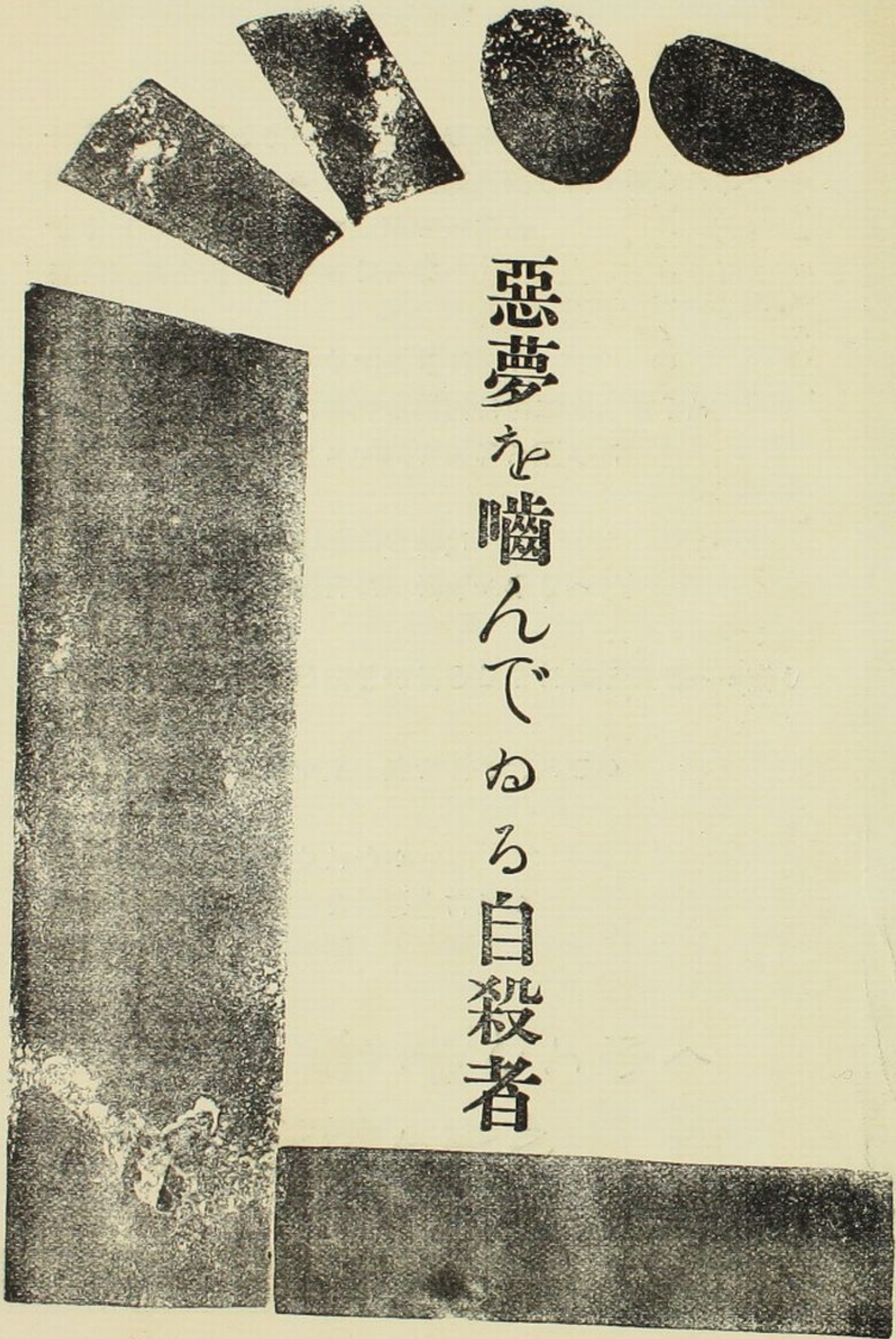
「近來類似品や模倣品が澤山現れてをりますからお注意下さい。」

新聞紙をめくり向ふへやつて

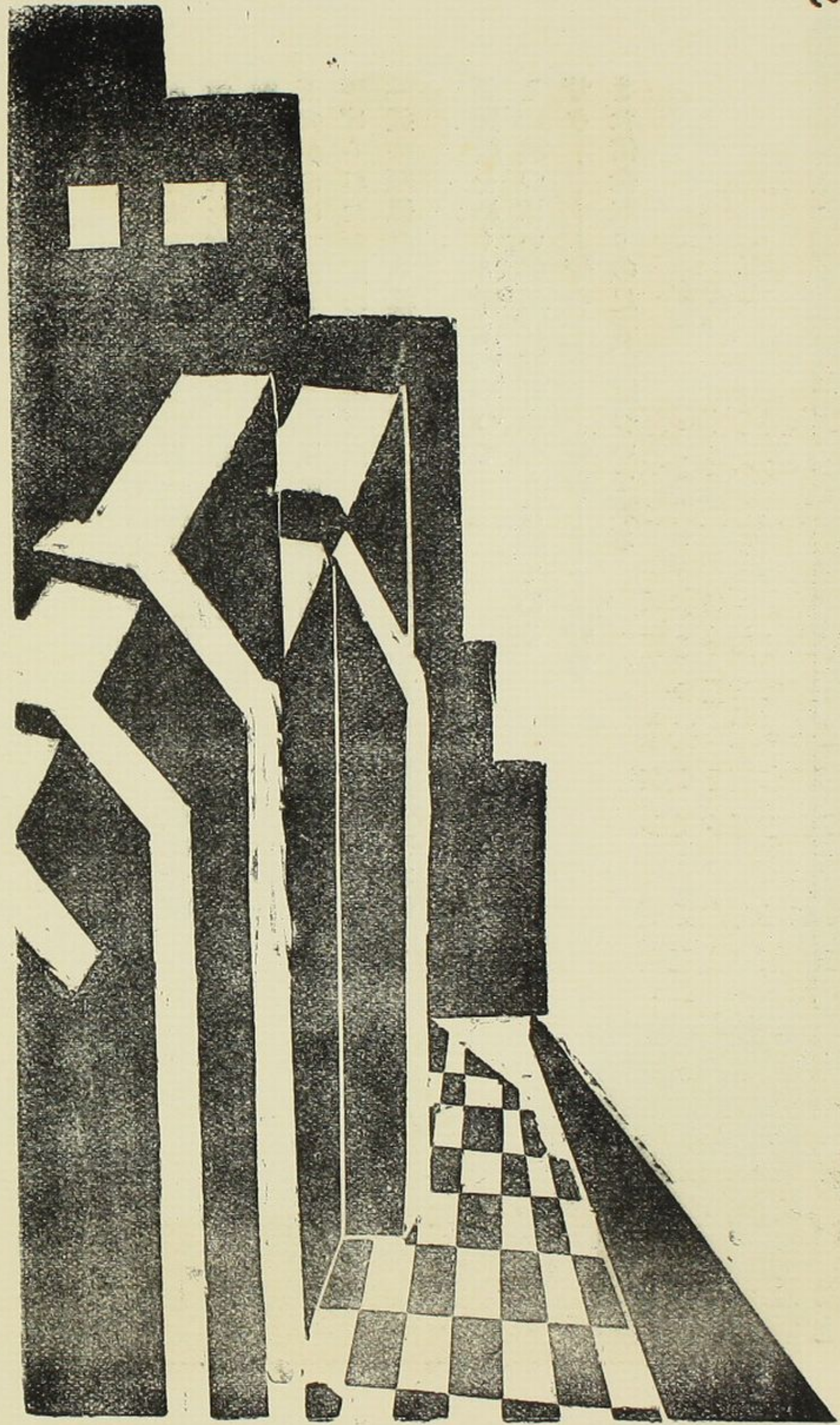
この埃つばい部屋に骸骨のやうに寝てゐる

ザク——ザク——ザク——ザク——

また借金取りの足音が近づいて来る



悪夢を噛んでゐる自殺者



俺は泥靴で泥の

道を歩いてゆく

カッツト飛び出した太陽

街中を驚奇般的な光線の舞踏場にする

驚いた馬が飛び上つてゐる

古びたシルクハットが馬車を走らしてゐる

道路は青黒い血だ

はねくり返る車輪の後から血のついた首がはねくり返つ

て落ちて来る

シルクハットの眼鏡にまで血がとびつく

鷺鳥のやうな首は労働者の首だ

青黒い娘の顔はパチッと窓を開けて閉めた

くるくるくるつと三角形の眼ぶたと目玉が動いて

青い煙草の煙りがすつと流れた

俺は泥靴で泥の道を歩いて行く

あやふくシルクハットを目をよけて

誰も誰も^が歩くやうに俺は泥靴で泥の道を歩いて行く

太陽は死面のやうに笑つてゐる

悪夢を噛んでゐる自殺者

針金にからみつけた女の首!

日傘の下でシッコイ目を廻してゐる!

顔がビクビクする音楽!

軒燈がボカリ割れた!

鵬を道にづつて歩く男!

真赤な太陽に觸手がある!

無爲の瞳は黄色く流れ出す!

畜音機の圓盤は黄色い聲で歌ふ!

頭の中には赤旗をたらし高塔がある!

今朝は脇の中までねちり上げてゐる!

キエリオシテイ!

キエリオシテイ!

煙突の煙りは無限に空をまつくるにしてゐる!

グーと胸につき出した砲身!

高塔の頂上で自殺者が悪夢を噛んでゐる!

孤獨は夢我夢中に

遁走する

赤んぼはまだ母胎の匂ひを放つてゐる
女は死體と疲労のまごつた顔を上げてゐる
地震で割れた壁に女の心臓は血をなくしてはいついてゐる

大きな黒い扉が開いた
手と足をむき出した姪婦がうなづてゐる
硝子窓がピリピリゆれる
知らない男の瞳が
ちつと天井の隅に見つめてさがつてゐる
扉がドゲインとしきる
看護婦が血によごれた手で馳け出した

パンパクパクパクパクパクパクパクパクパク
赤んぼは夜の空気を吸つてゐる
トタン屋根からドタリ摺り落ちた首
孤獨は夢我夢中に遁走する

壁の中に立つてゐる男

奇怪な子ヤルガヲを吹いて支那人がゆく

乾からびたインキで描かれた食欲

刑事室には蒼白な人像が反映する

探偵のノイト・アツクには慘劇がうつゝた

ひき出された乳房に注射してゐる地下室

頭蓋骨が腐る患者

女よ!

碎かれたインキ瓶とナイフで俺の頭を引つかき廻せ

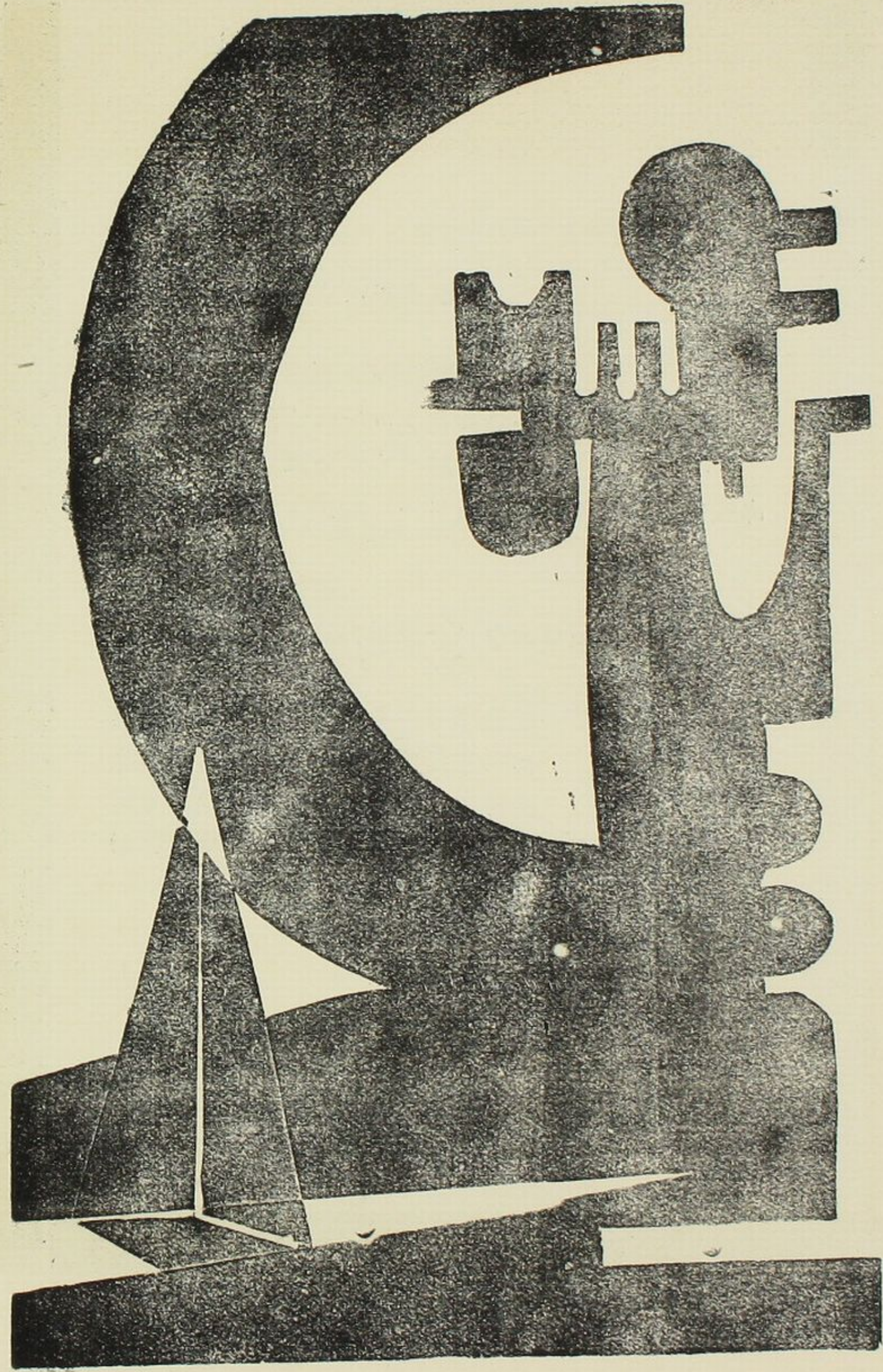
惨忍な心臓は風を切つて突進する

キリキリ 廻つてどこへ叩きつかるか知れない

ひきさかれた姦淫の旗は眞赤だ!

壁の中に立つてゐる男

キキキ



歪んだ不具な醜婦

長いコンクリートの塚だ！

血と毛髪と疲勞と失明のためにとすくよどん泥濘！

私の戀人はその中を泳ぎ廻つてゐる！

永遠も信仰も苦惱も音響も色彩も消える！

生命は一箇の原色だ！

すべて氷結して寫真版だ！

俺は切られた戀人の片腕や心臓を噛む！

毛髪をしゃぶる！

チヤリチヤリ——泥と汚水と骨だ！

脳髓に熱をもつた うすつくり煙突の草つ原で

狂人のやうな わななく激怒にふるえる日！

死は無惨に醜骸を天日の下にさらす

自我のみにくい腐臭を放つて

青蠅とみよすによつて土に歸る

空に歸る——絶無！

けれ共 強烈な爆煙の中に歪んだ不具な醜婦は

私の胸をひざとへる！

泥濘中の太陽を胸に

燃やさない限り

検東の翌日 胃弱の俺を

看守は犬のやうに匂ひを嗅いてはなした

真面目に悲しめなくなつたバタのやうな心を

俺は慰める事が出来ない

クルクルクルクルクルクルクルクル

玩具の風車を賣つてゐる屋臺の婆さんの勝が

ナムナム 蛇のやうに泣いて裂けてゐる

泥濘の中の太陽を胸に燃やさない限り

彌次郎兵衛のやうに險香の頂上にあはるばかりだ



プラタヌナの葉のやうに

電報通傳紙

●●●——●●●秋は過ぎる！

戀人の髪の匂ひ！

今朝も私を抱いた！

——「自殺は罪惡よ！」

——「早く歸つてね。」

——「時計は何故通く動くの？」

硝道で煙草のヤニが匂ふ！

電車のカーブ！

子供は慈くさい！

太陽は果物よりも匂はしい！

私はすつかり墓場を忘れてゐる！

——お嬢さん！

十字架は屋根の向ふに光る！

空は音もなく無限でいつ！

空気が無信仰の頭を休ませる！

飽くなき休らひを欲する！

何もかも忘れてしまいたい！

私はプラタヌナの葉のやうに無言のまゝ地上であそびたい！



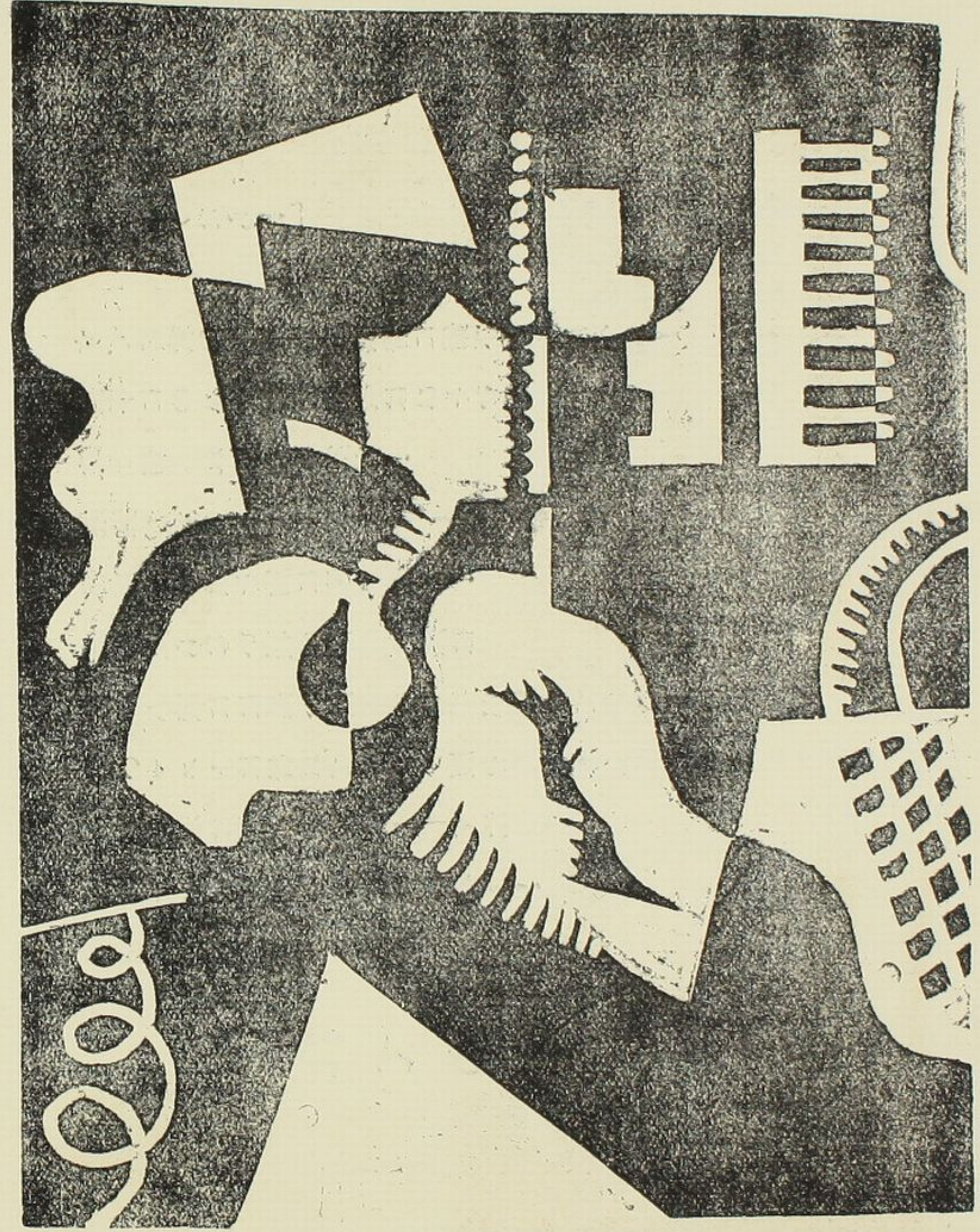
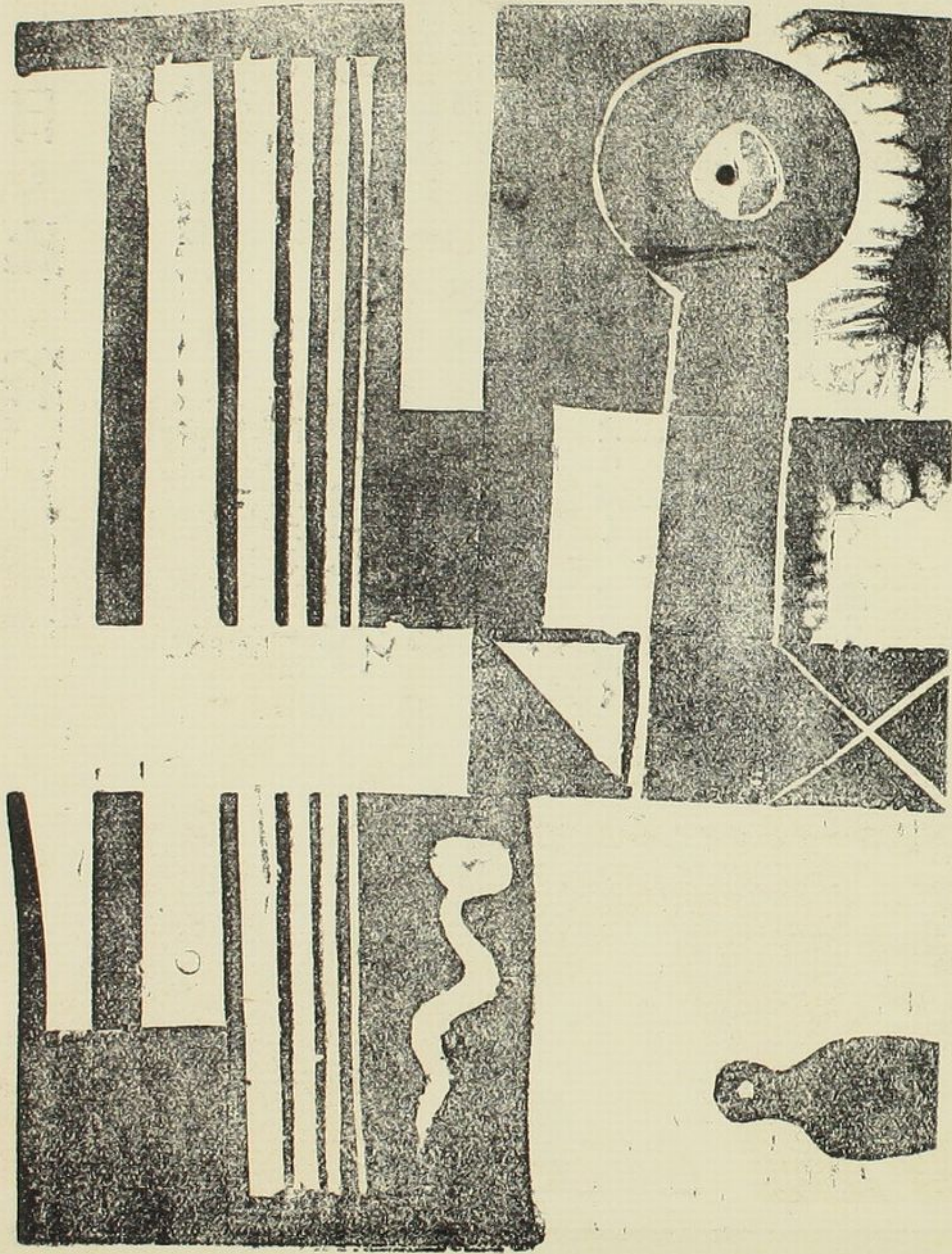
秋

昨日出獄したSは
 「自畫像が煙草をふかしてゐる」
 自畫像は三疊の部屋でボンアのやうに仕事をやる！
 笑ひは冷い！
 夏の日は過ぎて行つた！
 誰もみな痩せた顔が日焼けして
 ナイフでけづられたやうだ！
 何もかも過ぎてゆく！
 海を越へた友人からは
 便りがない！
 忘れゆく僅かなる我等の中へ
 君は歸つて來た！
 飲み忘れたウキスキのやうに――
 あゝ 秋は胸の中へ泌みてゆく！
 どことなく自嘲の聲が泌みてゆく！
 眞赤に咲いた秋の花のやうに――
 我等の胸底は眞黄色に碎けゆく――

離れてゆく秋

鷗はシグナルのやうに飛び交ふ！
 海底に私は濡れた火薬として沈む！
 赤いマストは折れてボツ腹を突き通してゐる！
 君の心臓には黒い無爲の切手が刷つてある！
 錨の上らない程の海の憂愁は
 幾匹もの魚を胸に泳がせる！
 寒流である――
 鉄で切られてゐる空だ！
 握手にのみ充満と爆發はひそむ！
 すべてに秋は海底から熱情に鑄びをあたへる！
 「さようなら！」

日 比 谷



日比谷

強烈な四角

鎖と鐵火と術策

軍隊と貴金と勳章と名譽

高く 高く 高く 高く 高く 高く 高く 高く 聳える

首都中央地点——日比谷

屈折した空間

無限の陷穽と埋没

新しい智識使役人夫の墓地

高く 高く 高く 高く 高く 高く より高く より高く

高い建築と建築の暗間

殺戮と虐使と嚙争

高く 高く 高く 高く 高く 高く 高く 高く

動く 動く 動く 動く 動く 動く 動く 動く

日比谷

彼は行く——

彼は行く——

凡てを前方に

彼の手には彼自身の鍵

虚無な笑ひ

刺戟的な貨幣の踊り

彼は行く——

點

黙々と——墓場——永劫の埋没へ

最後の舞踏と美酒

頂點と焦點

高く 高く 高く 高く 高く 高く 高く 高く 聳える尖塔

彼は行く 一人！

彼は行く 一人！

日比谷

廻轉する生命

綠黄ばみかゝつたプラタナの補道
朝を——未だ冷い

短帽

青黒い長外套

堅牢なる長靴

偉軀を運ぶ——數人の軽い快達

直線

直角

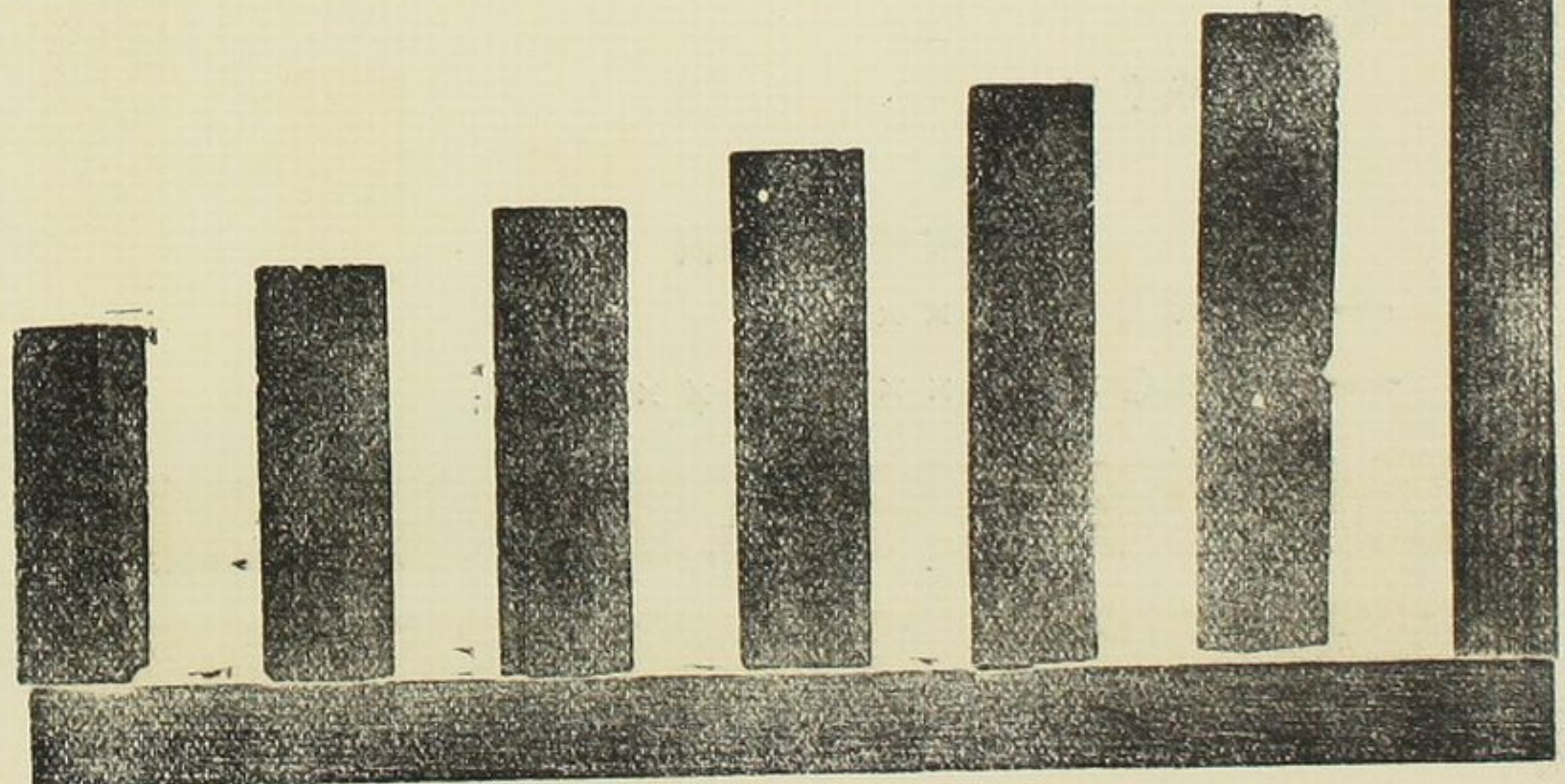
凄い目——すばやい視線

爽快な口笛

勇敢な黒色

目ぶちの蒼い透明な理智

只 靜かに確然と歩く



指は太く火藥臭い
胸は強く火を持つ
彼等は何處へ？
何所の煙りと炎の中に？

見よ！

聞け！

突如！

變光と暗號の交合

必死的最後の單色

激變し

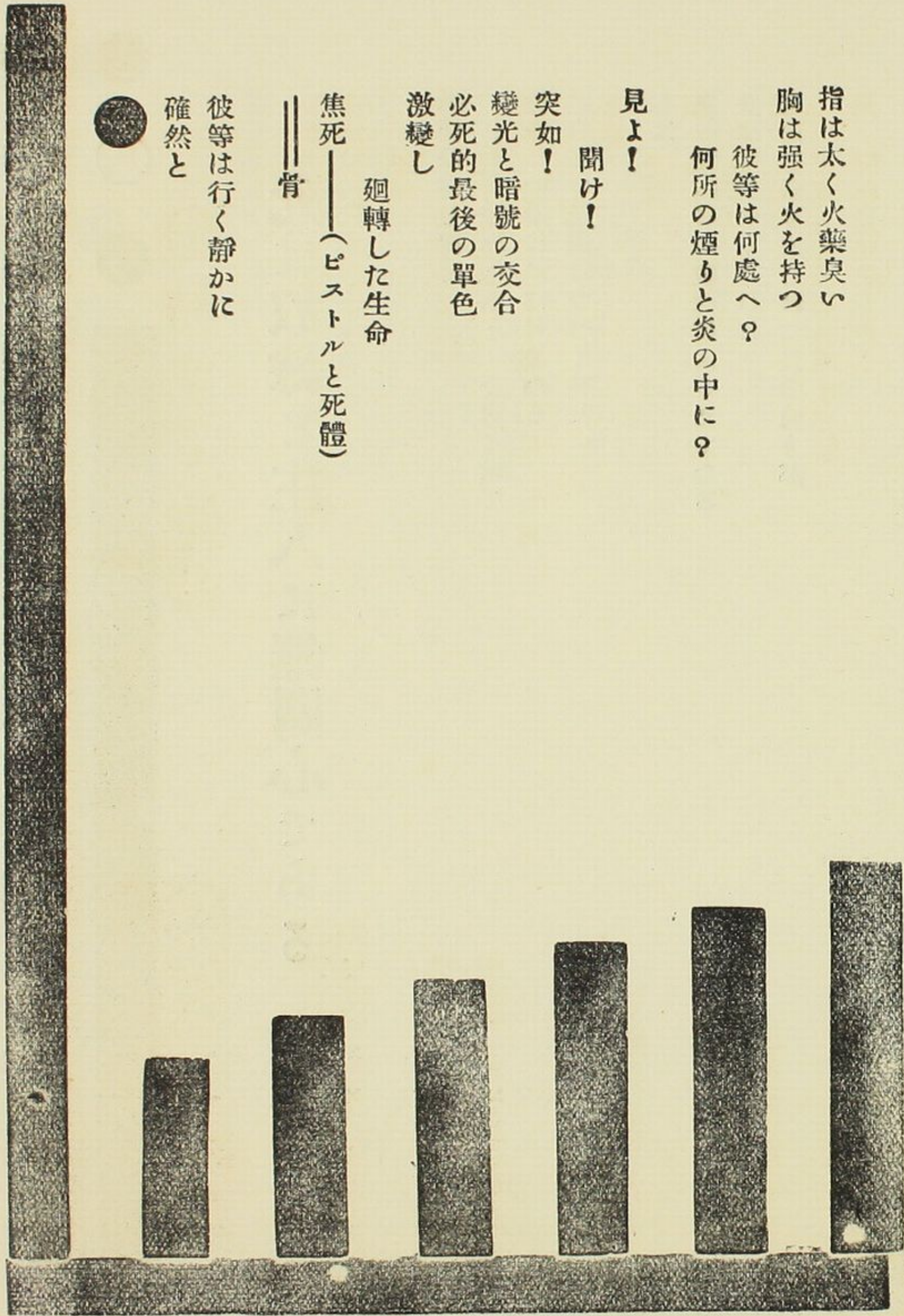
廻轉した生命

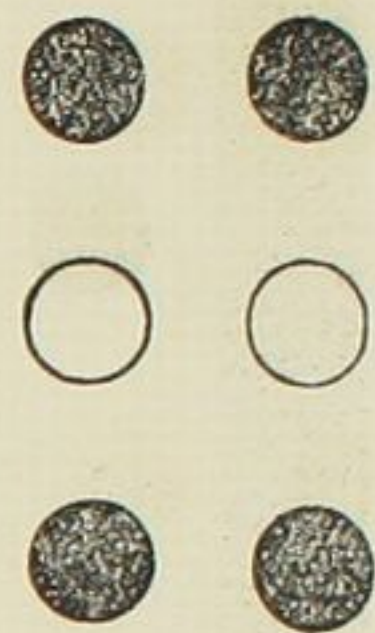
焦死——(ピストルと死體)

——骨

彼等は行く靜かに

確然と





死は奴隸と主人に無關心である

恐怖の晝と夜だ

——蟋蟀と雨と 憂鬱な秋だ

怖ろしい影に追はれてゐる

眠れない飢餓はつづく秋だ

私は

血の氣のない戦慄にふるえてゐる

愛は焼きつくされた

驚愕を取り去られた後の塊りが

文字も哲學も排斥した胸に
力なく動いてゐる

雨は流れてゐる

——蟋蟀は啼きつづけてゐる

生命は赤い痣のやうに痛む

血は血を——復讐は復讐を

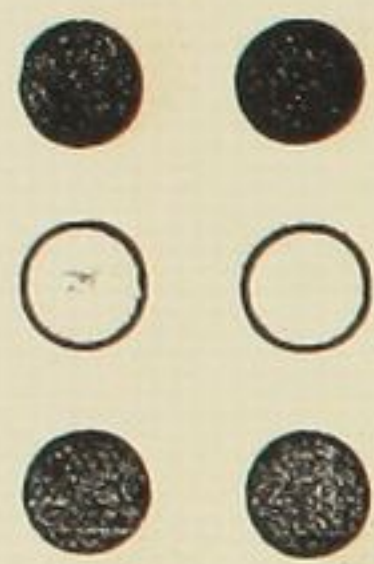
夜は夜を——死は死を

生は劍によつて救はれるのみだ

死は奴隸と主人に無關心である

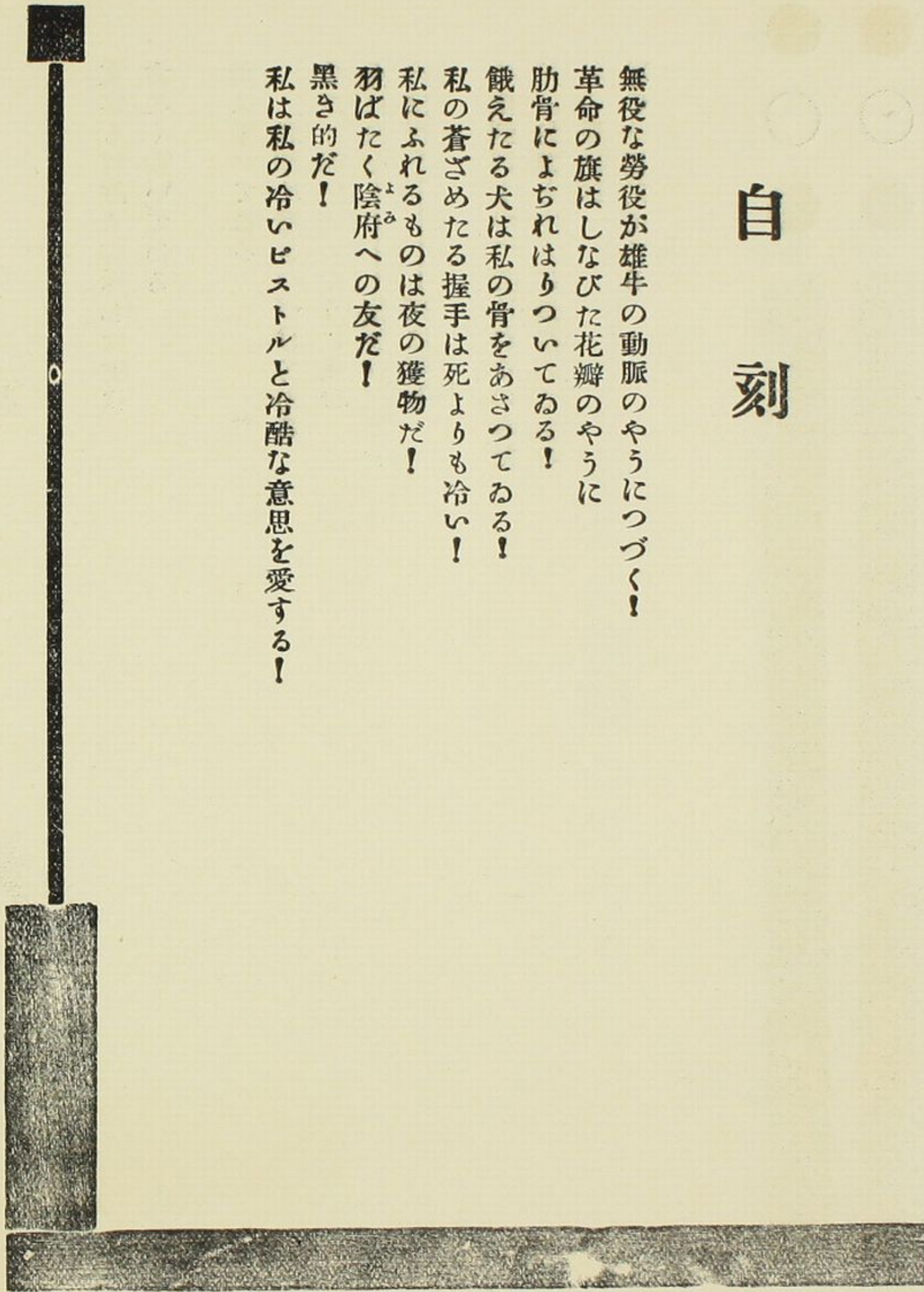
私の發砲は

私の全目的である



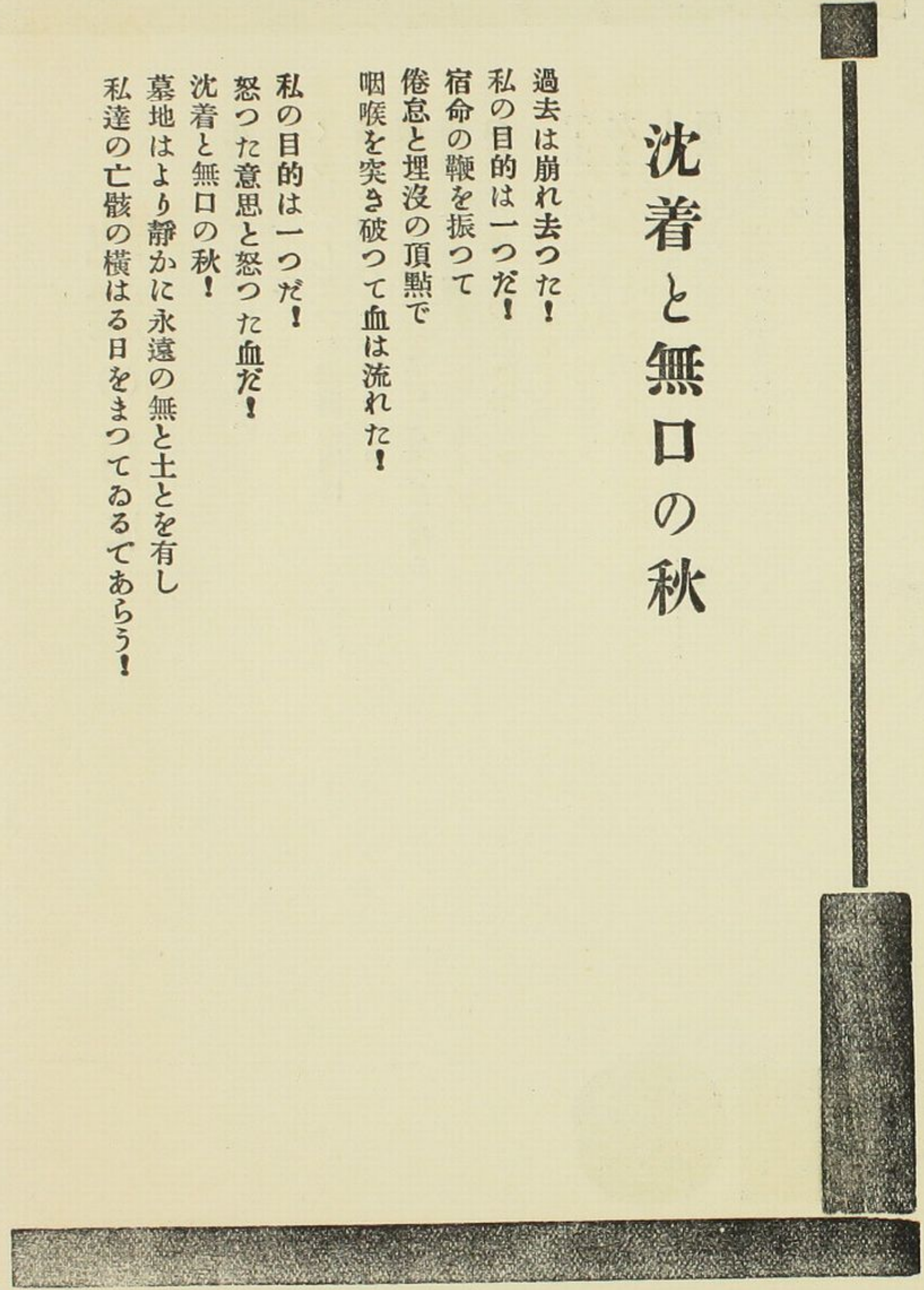
自刻

無役な勞役が雄牛の動脈のやうにつづく！
 革命の旗はしなびた花瓣のやうに
 肋骨によぢれはりついてゐる！
 餓えたる犬は私の骨をあさつてゐる！
 私の蒼ざめたる握手は死よりも冷い！
 私にふれるものは夜の獲物だ！
 羽ばたく陰府への友だ！
 黒さだ！
 私は私の冷いピストルと冷酷な意思を愛する！



沈着と無口の秋

過去は崩れ去つた！
 私の目的は一つだ！
 宿命の鞭を振つて
 倦怠と埋没の頂點で
 咽喉を突き破つて血は流れた！
 私の目的は一つだ！
 怒つた意思と怒つた血だ！
 沈着と無口の秋！
 墓地はより静かに永遠の無と土とを有し
 私達の亡骸の横はる日をまつてゐるであらう！



地震の日に

死に誘ふものは分らない

くちけてしまった道路の間に

首がころがつて笑つてゐる

裂かれた肉體がはなれて笑つてゐる

破裂した心臓が

ねぢれた儘 動かない

干からびた苦い血を嘗めて

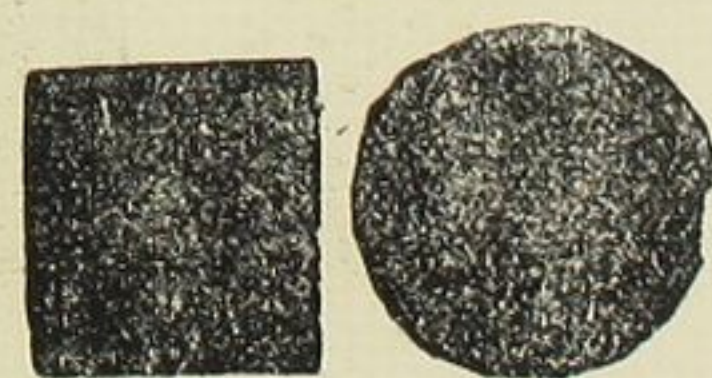
友よ!

——生きて 生きて………

両手をひろげて

その首にかちりついて

接吻する



血と砂とにむせて乾きついた儘
私は

固く

—— 哭く

その肉體に

—— 血をそそぎ

—— 血で洗はふ!

碎けてしまつた市街の上に

彼と我との意思は

蒼ざめて發火する

ころがつてゐる首

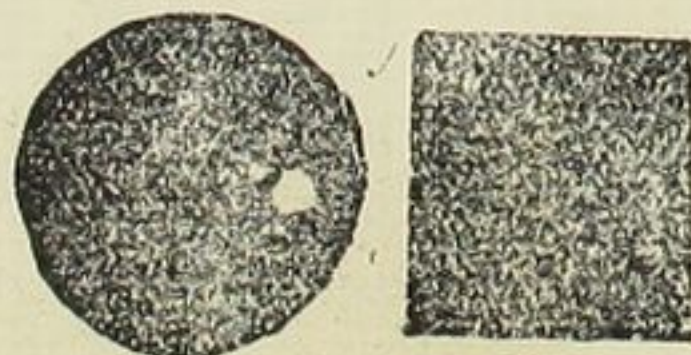
焼け残つた白骨

残つた生存は

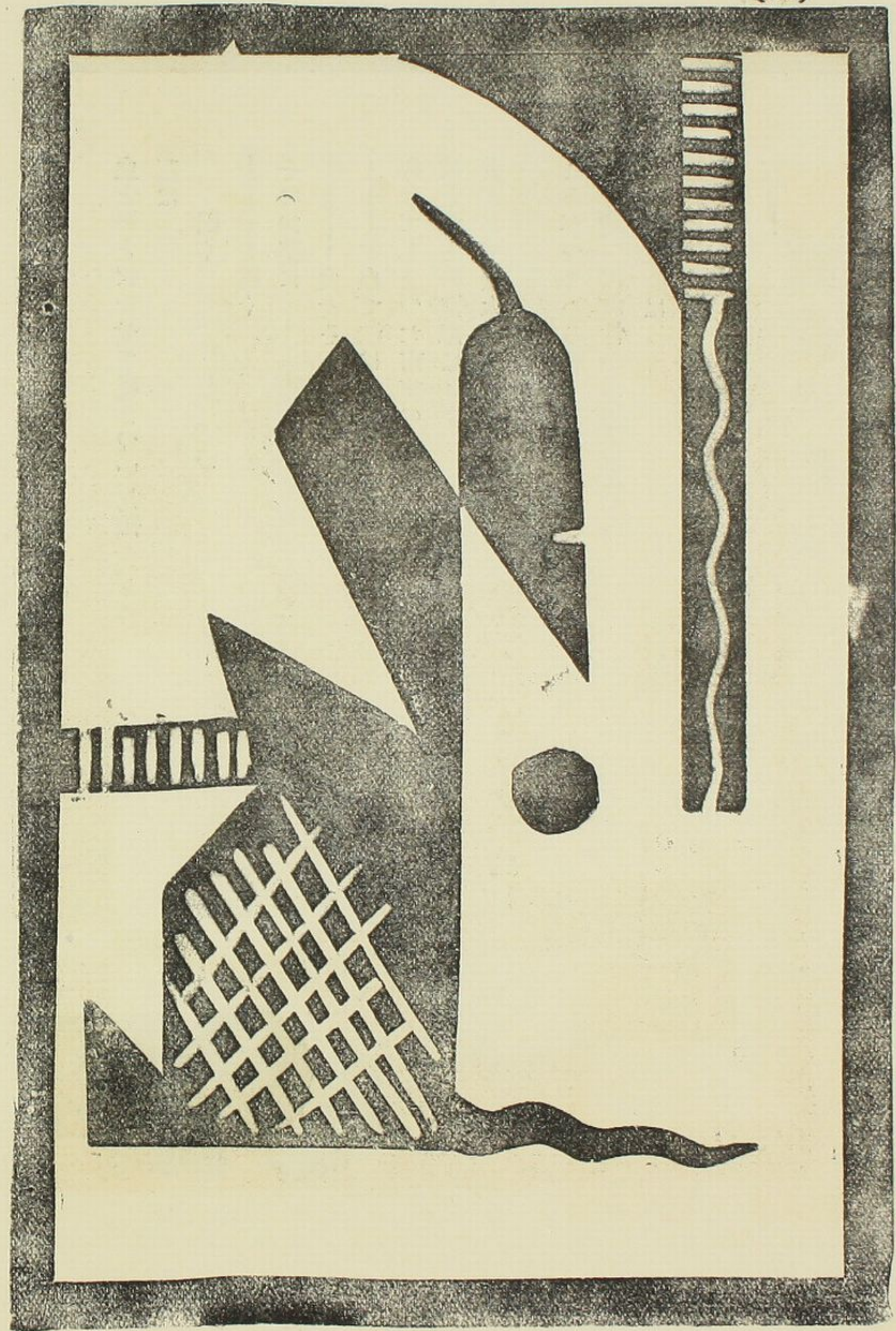
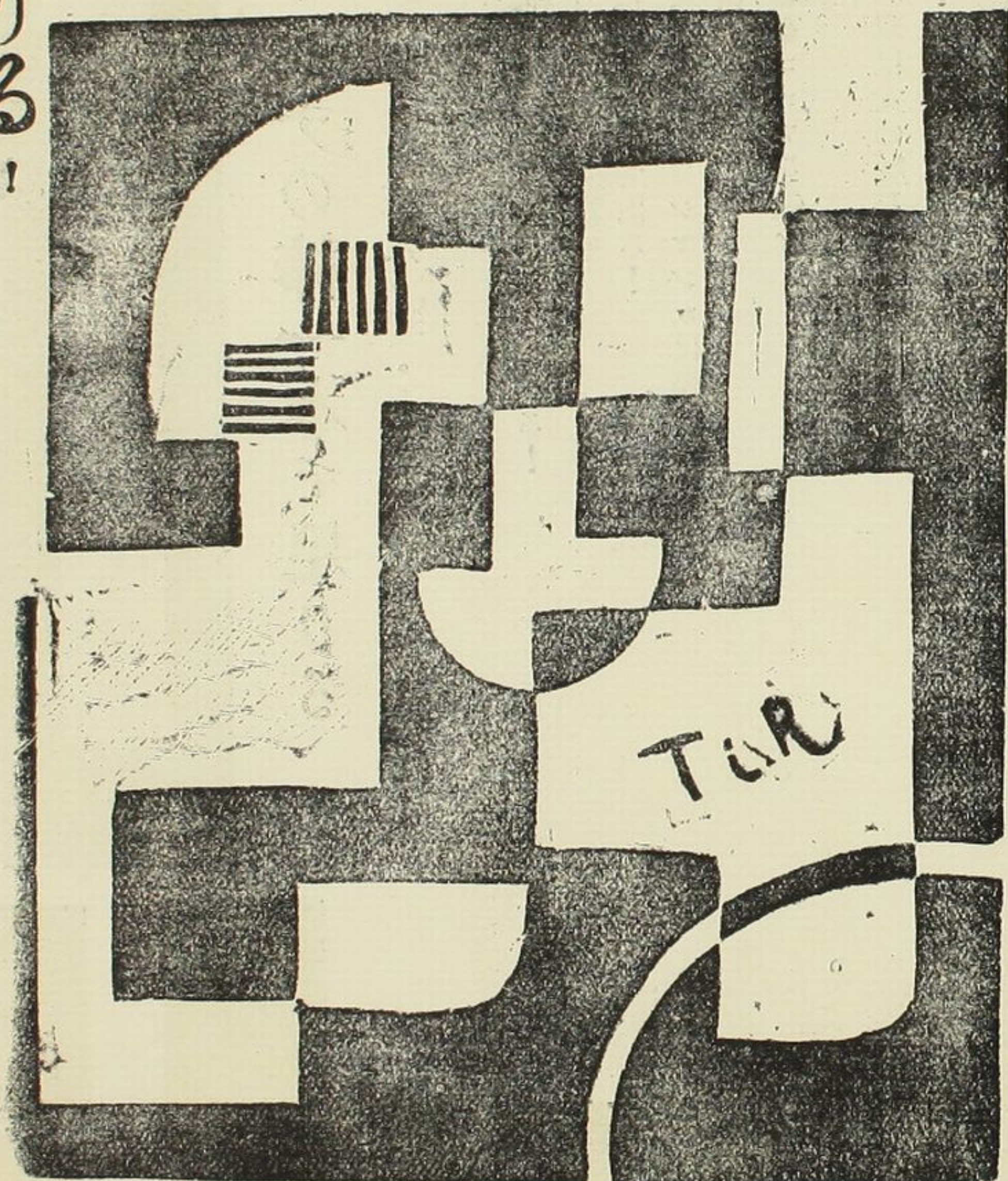
誰にこれからを捧げやうか

干からびた血と血を嘗めて

友よ!



祈禱は
足で本一棒のチツマは
りる！



祈禱はマツチの棒一本で足りる

主人・妻・小供・蒼さめる勿れ！

不眠症で不妊症の
四角なコンクリートの腕は伸びる！伸びる！

掴む——夜

戀人の肉體は廻轉木馬である！

空中に舞つて——ピシャンコに碎ける！

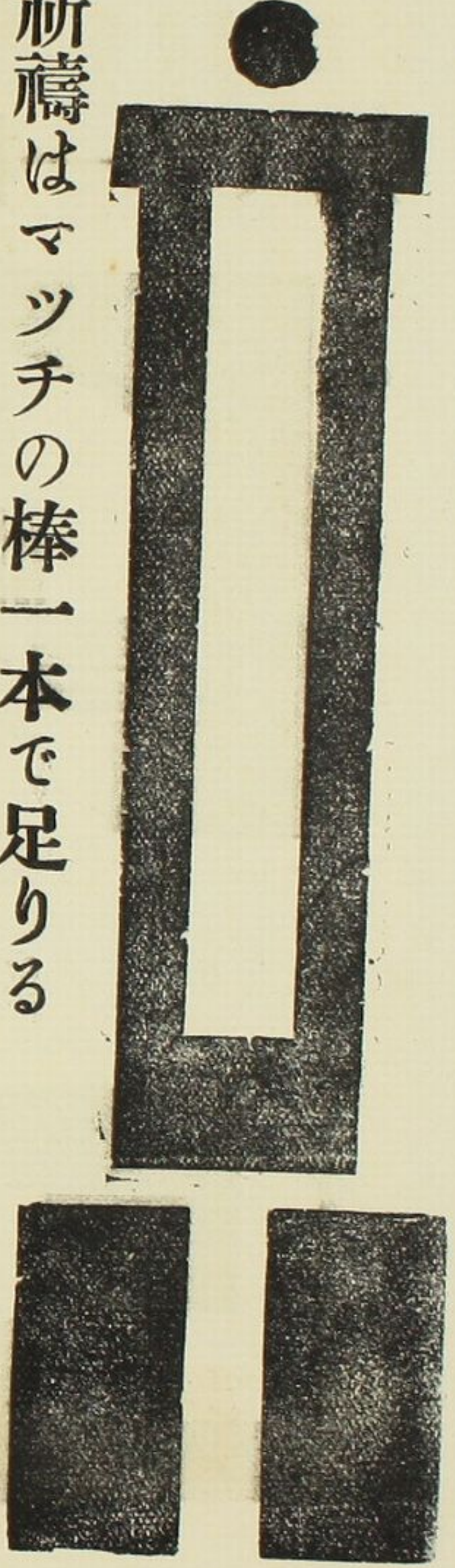
手足 胴首

猿●●●●●●●●●●ココアを飲む

螺旋階段

頂上に乗るため私は女の腕を握つて進む！

フヒューユツ！



ラン！

高利貸の眼に

さすがに あばら骨に肉はついてゐるだらう！

疥癬かきて梅毒病みの紙幣を100000枚と借りはしない！

赤い艦尾にすられた彼の女の腹に子供はゐる！

青貝●●●●●●●●●●私の眼球はベスト菌だ！

網ですくい取つて消毒しろ！

鯨は泳ぐ——錨を下して呉れ！

内部はすつかり疲れてゐる——休みたいものだ！

脱腸！

金は支拂はれない！

レールの上に爪づいて倒れてゐる生活である！

機織！ 階梯！

花を造る！ 咲かせる！ 幕を下す！ 掴首！

爆發！ 瓦斯タンク！ 彼の女は死ぬのを待つてゐた！

直線と直角と圓は彼の女を製造しはしない！

彼の女がメリケン袋になつてくれるなら

子供はまるく肥え育つだらうに



木伊乃には笑みもない！
我々の腹から自動車を走り出させた奴！
ハンマーを脳天にぶち込むぞ！
待つものは明日である！
明日は餓死と絞首臺と盲目の群衆である！

孤獨と暴露と突撃に脳髓はしびれ
彼の女は眠る！

永遠の夢に！

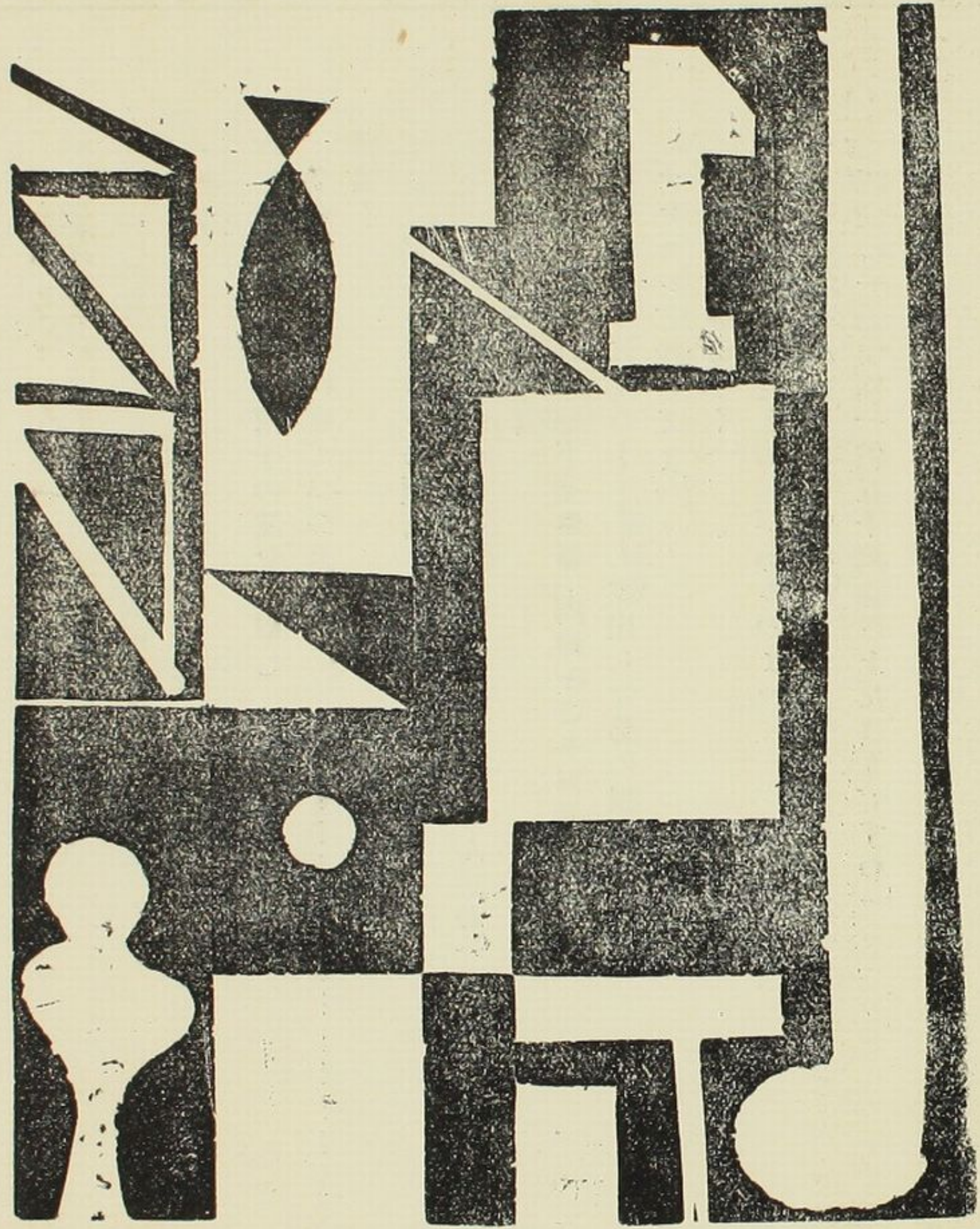
俺の眼はねむれない！ 何時までも——

俺は俺以外のものを何一つもたない！

燃えて燃えて燃えて 燃え限らない炭鑛がつづくのだ！
限りなく地底を燃えてゆく！

空は果てしなく 限らない視野だ！

——煙りは何時この美しい空を復讐て黒こげにするか？



戀愛の一音信

一瞬間

虐殺のフィルムが帽子の波を直射し

●●●群集の叫號でひつされた——————

悲鳴！

無数のアルハベットの顔面

———「どうしたつて金が無くちや歸れないんだわ」

満員のエレベーター

鉛管にかこまれた地下室●●「乾海とウキスギー」

地球儀のやうに廻る———露出した男の眼球

「ナフキンで殺してよ」

「いいわ●●早く」

「無神経家に戀愛と信仰があるのよ」

「無味乾燥なんてことはないわ」

「戀愛の一音信は一億五千萬圓以上ださうですわ」

靴音●ヒーシュー

「だつてあなたひどいんですよ」

楮子段———【ちよならー！】

「明日！」

ド●ド●ド●ド●ド●

藥瓶●●●日記++++ナイフ

髪の毛 検温器は四十度

記號づけられた蒼い顔

ハンケチには血が吐かれてゐる！

カーテンの影に一匹の鼠は餓えて死んだ！

下水道の土管！

闇に消えた白煙！

ビビ ビビ

プ——ム！

斷崖

———「今朝 急行列車で戀人が歸つて来るのよ」

●●●屋根裏の一角で———

弱い光線の朝陽

しめられたまゝの窓

空は告知板に數字を明滅させる

空は告知板に數字を明滅させる！

墜落する惨死するその日を！

僕●

女●

夜の空へ——

蒼白い魚形水雷！

怒 濤！

探照燈は海波を躍らす！

沈没！

海！

自殺！

▼×××××△△△△△ガア●ガア●ガア

空は告知板に數字を廻轉さす！

愛も嘘偽もない日！

愛も嘘偽もないと云ふ女！

手紙も接吻も言葉も形式ですむ女！

タイプライター！

金銭出納器を打つ女！

三角形でも四角形でもよい顔！

女のノート 万年筆 ルーデサック ●●——

記憶●●願望

………海波に沈む！

艦！

進む！

眼球の底に——

私は最初の數字と最後の數字を知つてゐる！

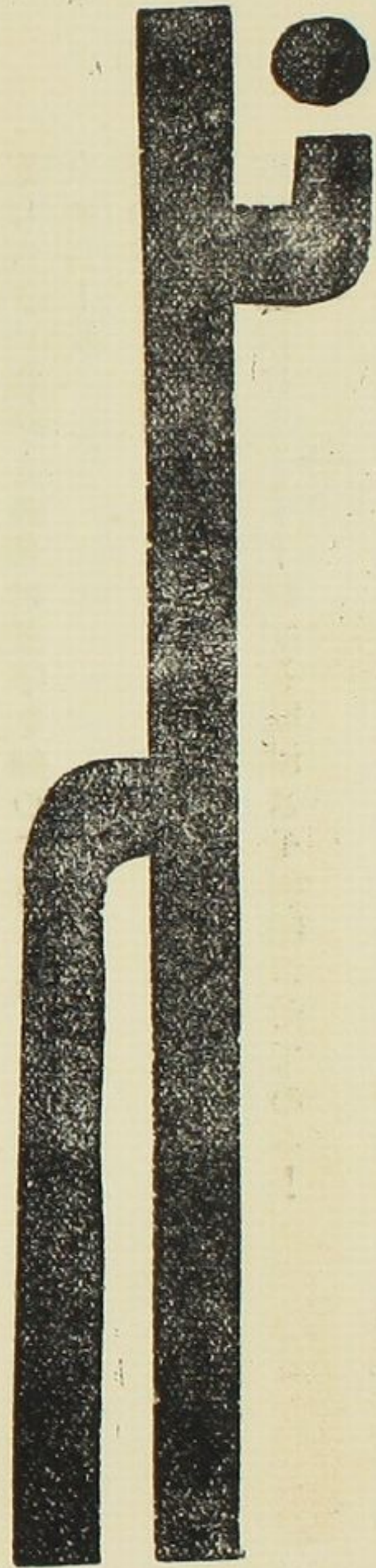
女●男●僕

夜の空——

白晝の街道●●●

空は告知板に——數字を明滅させ廻轉させてゐる！

地底の鐵管から朝は手を上げる



地底の鐵管から朝は兩手を上げる！

地球だつてバクリと食へるだらう！

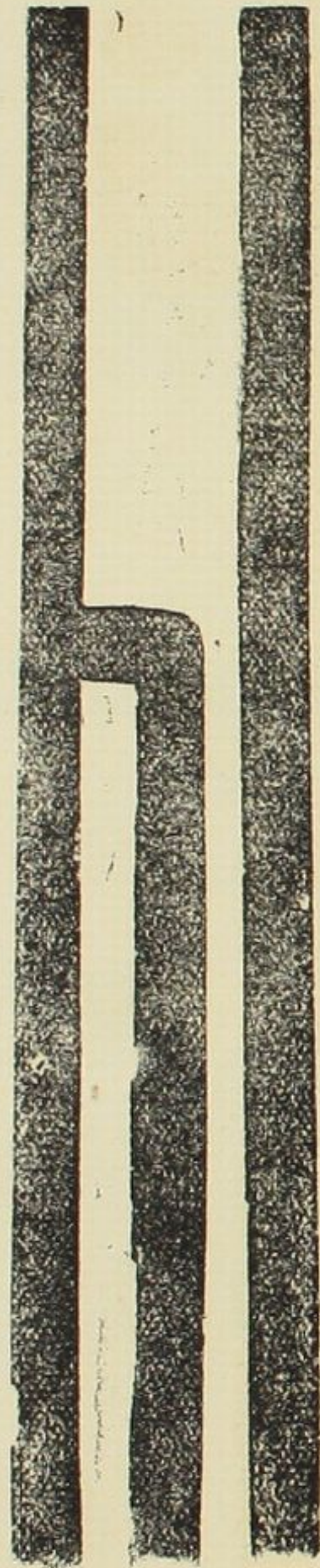
都會だつて固りもつれた電線腦髓さ！

石をめくるとその下に白い裸體はこつちを向いてゐる！

お嬢さん！

——セルロイドのリボンよ！

△△△義眼に掛けた金縁眼鏡！



▲▲▲蒼ざめた瓦斯入りの眼球！

——私生兒のキリストは生れる！

●●●赤い病んだ病菌が部屋中をころがる！
をぎやあ！

——「藝術のレットルよ！」

禿頭の紳士に似合ふ藝術！ウエルアーラン！

おつ母さん！

十字架！

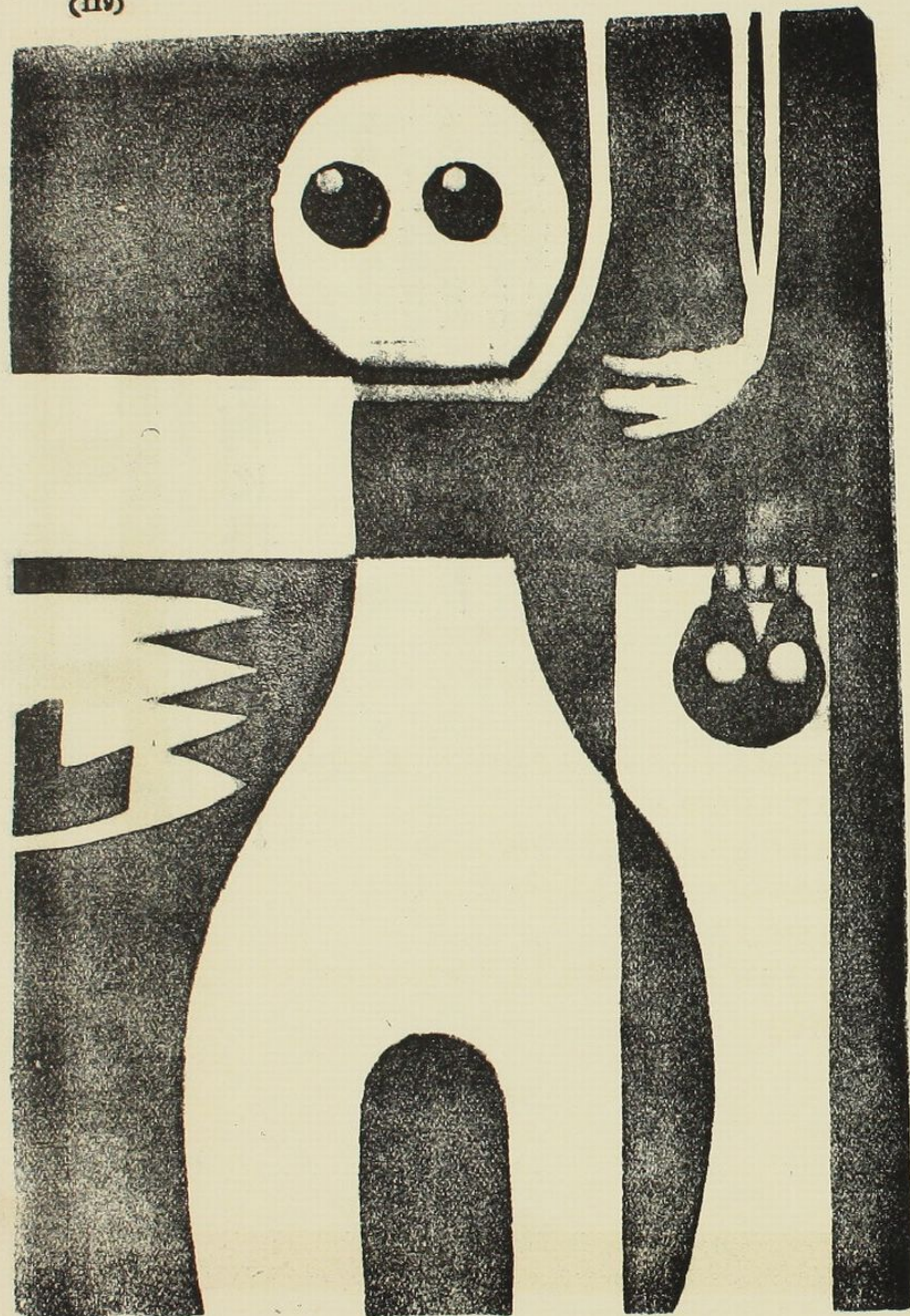
日記と出納帳！

馬は喘ぐ——進む！

ロボットを計算しやう！

金錢の計算程 性慾的なものはない！

肉屋にぶらさげられたるスタンプ付きの馬肉よ！



朝・晝・夜・ロボット

▲▲▲薔薇の花が咲いた！

~~~~~眼球をほちり出せ！

白衣のロボットを産め！

=====長距離のトンネルだ！

理性は實驗室でピスケットになりそこねた！

●

青い帽子を冠れ！

ベルトで目かくしされたロボット

始業だ！終業だ！歩け！始業だ！終業だ！歩け！

■

ただ幾本ものアンテナを詩の中へ張り廻せ！

ラジオが聞える！

僕は針と糸とて身體中を縫つてゆく

黄色いメリケン袋となつてぶらさがる

まつたく最早

肉體をピストルの弾丸として射ち込みたいものだ！

射的！



ボールを胸に掛けて走れ！

脳髓の階段で休みな！

ヒュームは電波に感じてゐる！

女の唇からは薔薇の花が突き出てゐる！

ボールを胸にかけて走れ！

蒼ざめた電車は無神経だ！

ZA•ZA — RRR•KIKIKI

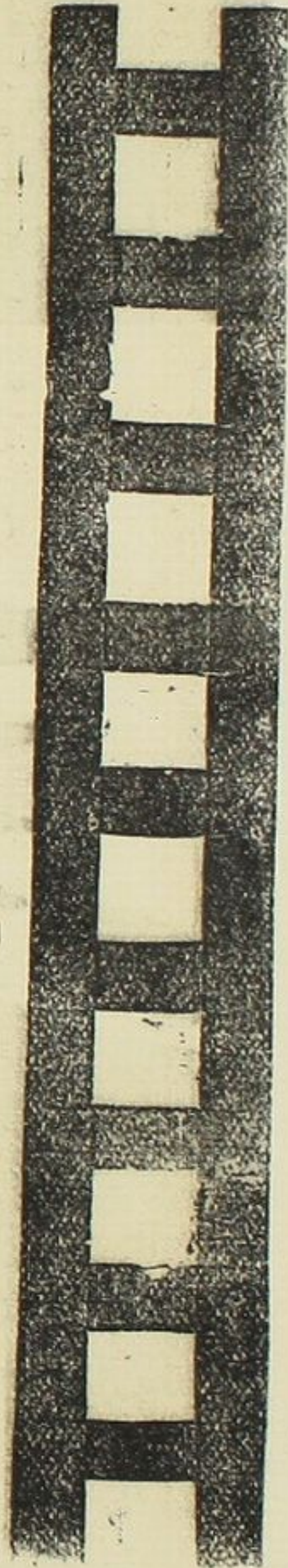
ブリヤの心臓にコーヒーを飲み下す！

—— 散歩道は長方形だ！

ステッキは針金ではなかつたか！

女の心臓は金銭出納器ではなかつたか！

白粉は石灰とセメントではなかつたか！



ぎすつちよの女事務員ではなかつたか！  
流行後れの厭生思想ではなかつたか！

ラン ラン ラン ラン

發車の鐘に消える文字ではなかつたか！

エナメルをぬつた義足！

馬の眼のフィルム！

電池の中の仕掛美人！

癡狂院特製自動車の

行き過ぎた後の砂埃りではなかつたか！

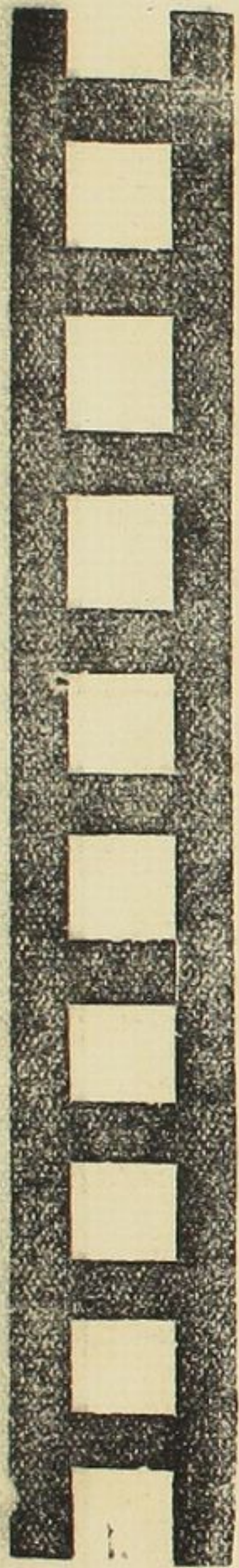
ただ 胸にボールを掛けて走れ！

動物も 玩具も 人間も 豚も サナダ蟲も 詩人も

愛も生活も 幼蟲も スパイも 主義者も 黒パンも

南京蟲も

すべり出せ 走り出せ 強暴に！



## 何百の眼球がつぶれ歪んだのだ！

何百の眼球がつぶれ歪んだのだ——  
赤い流星がボールにひつかゝつて  
ぶるさがつて

跳ね上つて——泥だらけの車輪よ！

目鼻よ！

頂上て●●廻れ！廻れ！廻れ！

もつと！もつと！

急速に！猛烈に！狂暴に！ヒステルカルに！

アセチリン瓦斯と泥だ！

その手を舉げてつゝ走れ！

トタン屋根の上では

シグナルが廻る！

プラタナスの幹には白色恐怖のびた一面のピラだ！

梅毒患者よ！

かさぶたを剥せ！

青つ白い霧の中に

地球に埋もれてゐる生靈を呼べ！ 呼べ！

飛ぶ！

飛ぶ！

ナイフをつつこまれた胸と云ふ胸！

彼の胸を抱き起さうか！

ままよ！

——朽ちて朽ちてあれ！安らかに幸福に墓場で——死人共！

新しいかん呼だ！騒擾だ！

突走する自動車よ！

切れた電線と胸部のモーターは破裂だ！

愛は薔薇の花にをいて朽ち衰えた！

ひび割れた女の胸に

子供を抱かせろ！

何回！

心臓は變色し廻轉したら！

男よ！

つつ立ち上れ！

# 何物も無し！進むのみ！

|| 小なき行進の曲 ||

さまあつたらねえや  
 眼も鼻も身體中が泥だらけぢやないか！  
 手の先さ足の先さてくるく廻る泥だらけの車輪！  
 頭の先さにくつつけた警鈴！  
 やかましいベルだ！  
 力限り乗り廻さなさあならない！  
 細つこいタイヤ！破れんな！  
 どんなどこでも乗り廻すんだ！  
 ハンドルだけを狂はすな！  
 正確に！確實に！  
 メートル法を忘れんな！

ヘット・ライト——危い！

除け！除け！群集！

ベルだ！ベルだ！

俺のベルだ！ベル！ベル！ベルだ！

街角だ——金庫だ——重役！固い壁——高層建築

知つたことぢやない！急げ！

「混乱！」「雜鬧！」「悲鳴！」「壓死！」「強請！」「搾取！」「格闘！」「殺人！」

●群集●群集●群集●群集

自動車↓●●+警笛++ヒュールム！B！ー！ー！QQQQQQ=CCCCC

ドツ！ドツ！ゲル！ゲル！ルン！ルン！ルン！

S+W+C+O+N+TNXU●●ー！ー！ZZZZZZー！ー！

女！女！女！女！+男+男！男！男！男！男！車輪——BB!

行進！サフツ！サフツ！グツ！グツ！グツ！グエル！グエル！

フー！フー！ダア！ダア！ダア！ダア

メートル法を忘れんな！

正確に！確實に！

ハンドルだけを狂はすな！

ベルだ！ベルだ！俺のベルだ！

ベル！ベル！ベル！ベルだ！聞えないのか！俺のベルだ！

除きやあがれ！



# 人間の斷層

彼等は抱き合ひつゝ地下に埋まる

聞~~~~~△△△△△

倦怠は地下に埋つてゐる骸骨だ！

堆積された鉛板と煉瓦の虐殺の底に！

瓦斯●●●

コンクリートのビルディングに壓せられた重力！

鉛管の底に——無数に動いてゐる顔！

カンテラは揺れる！

人間の斷層！

まつくら暗の泥濘にたほれた馬よ！

終電車から起き上つた男よ！

病院から出て来る腕を繙帯した職工！

高壓線！

瓦斯！

呼吸は瓦斯！



機械は止つて——工場は蒼つ白い！

針金さ——眼も唇も胸も兩足も！

肉感なんか——豚にキスした方がまだ！

誰が●●の變りに

薔薇と百合の花をもつて仕事する奴があるものか！

愛は現在を占ふトランプぢやない！

瓦斯●●鐵●●疲勞——混入した脳髓！

——大きな眼球の女が落ちて来る！

クク●クク●クク●

キイ●キイ●キキ●キキ●ウフエラ！

笑ひ聲が曇り空の電線にひつかゝる——

スパークの支離滅裂だ！

×××××

●●●●●

ぶす ぶす ぶす 洩れる 洩れる 洩れる 洩れる 洩れる

朝——「疲れた夜」のゆき過ぎた後を

一線を引いた白煙！

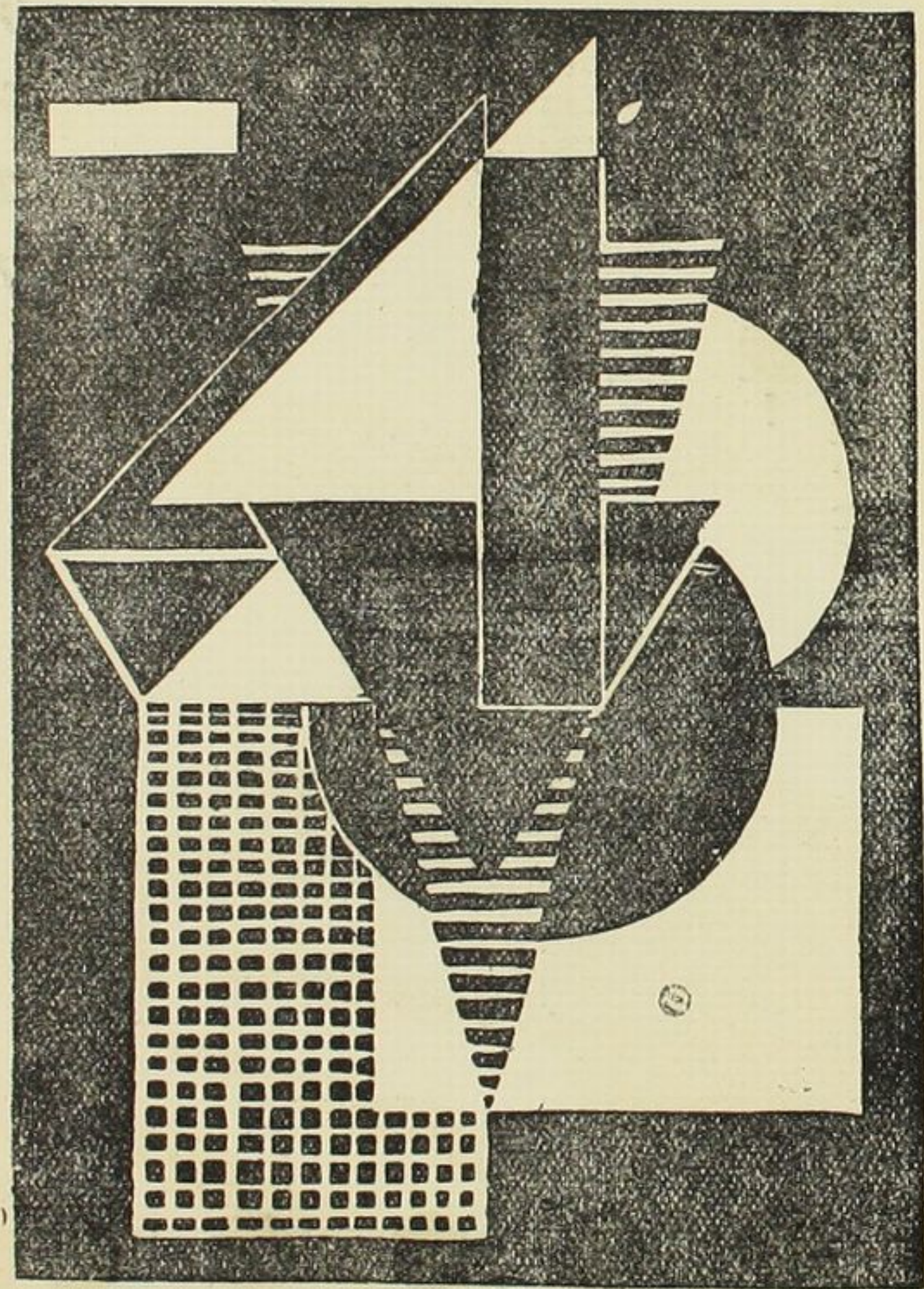
病人●殺人●死人●ピストル

倦怠は地面一面にもみくちやにされてゐる！



(129)

ラスコーリニコフ



(120)





開いた手！ VVVVVVVV

足！ ●●露出された蒼黒いへ腑

―壁へ！

―戸棚へ！

靴 「ひびき響く天」  
血液

Eiiiiiiivag.wng●●●AA!ア!ワ!

●●●断崖

楷子段

濁音の急速なる破滅!

血をふくんで蒼ざめた恐怖!

〰〰〰 刑事課の自動車は走つた!

ア!

ア!

ア!

ウ  
ワ  
ハ!



劍付鐵砲の兵士

駆け出した警官

●●ベルの音響

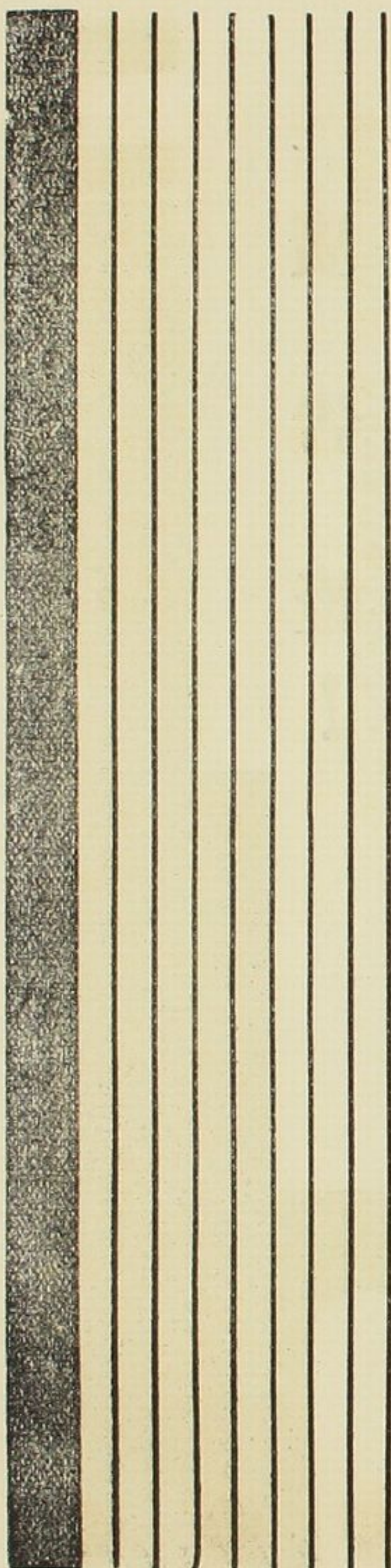
崩れる群集―自動車、自動車、自動車

十字街の時計は

赤い指針で一時二十七分!

BWO BVVDC

群集●群集●群集●群集…群集●●●●●●●●



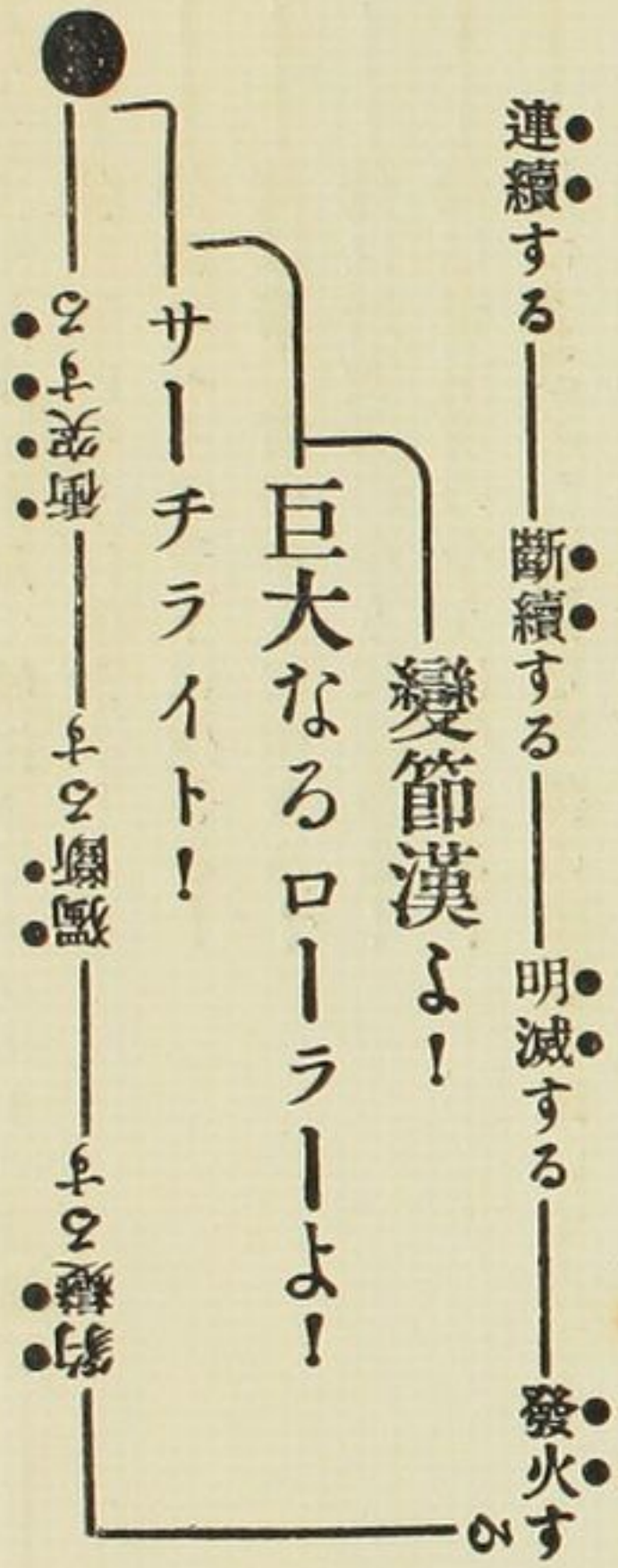




喧騒する安慰者である！  
私は何故生きてゐねばならないのか！  
私は死者である！  
私は動くものである！  
私に觸れるものは死である！

|       |       |          |
|-------|-------|----------|
| 彼は泣く！ | 彼は泣く！ | 彼女は神に感謝！ |
| 彼は笑ふ！ | 彼は笑ふ！ | 彼女は骸となる！ |
| 彼は歩く！ | 彼は歩く！ | 彼女は棘の道だ！ |
| 彼は喜ぶ！ | 彼は喜ぶ！ | 彼女は疲れ衰ふ！ |
| 彼は寝る！ | 彼は寝る！ | 彼女は秘密にす！ |
| 彼は食ふ！ | 彼は食ふ！ | 彼女は甘美な酒！ |
| 彼は怒る！ | 彼は怒る！ | 彼女は死の闇黒！ |
| 彼は走る！ | 彼は走る！ | 彼女は華奢です！ |
| 彼は沈む！ | 彼は沈む！ | 彼女は夫が無い！ |
| 彼は産む！ | 彼は産む！ | 彼女は血を滴す！ |
| 彼は富む！ | 彼は富む！ | 彼女は罪を犯す！ |
| 彼は盗む！ | 彼は盗む！ | 彼女は抱擁する！ |
| 彼は来る！ | 彼は来る！ | 彼女は確く信ず！ |

|       |       |          |
|-------|-------|----------|
| 彼は行く！ | 彼は行く！ | 彼女は裸である！ |
| 彼を破る！ | 彼を破る！ | 彼女は豫感する！ |
| 彼は凹む！ | 彼は凹む！ | 彼女は髻を捲る！ |
| 彼は乗る！ | 彼は乗る！ | 彼女は胸を震す！ |
| 彼は撃る！ | 彼は撃る！ | 彼女は肩を落す！ |
| 彼は洩る！ | 彼は洩る！ | 彼女は裏まれる！ |
| 彼は没る！ | 彼は没る！ | 彼女は大な奇蹟！ |
| 彼は埋る！ | 彼は埋る！ | 彼女は滑りゆく！ |
| 彼は響く！ | 彼は響く！ | 彼女は顔を叩く！ |
| 彼は抱く！ | 彼は抱く！ | 彼女は目が痛む！ |
| 彼は受る！ | 彼は受る！ | 彼女は黒い足だ！ |
| 彼は傷く！ | 彼は傷く！ | 彼女は塵埃なり！ |
| 彼は鳴る！ | 彼は鳴る！ | 彼女は遠き薔薇！ |



俺は道路で街上で屋上で部屋で物置きてカフェーで廣場で

- 俺は豚のやうに生きる！
- 俺はスパイのやうに生きる！
- 俺は密告者のやうに生きる！
- 俺は屠殺者のやうに生きる！
- 俺は帝王者のやうに生きる！
- 俺は蒼ざめた陰惨な實彈の破裂を聞いてゐる！
- 俺自身以外の生活の廻轉と裝飾を眺めてゐる！

# 廣告燈

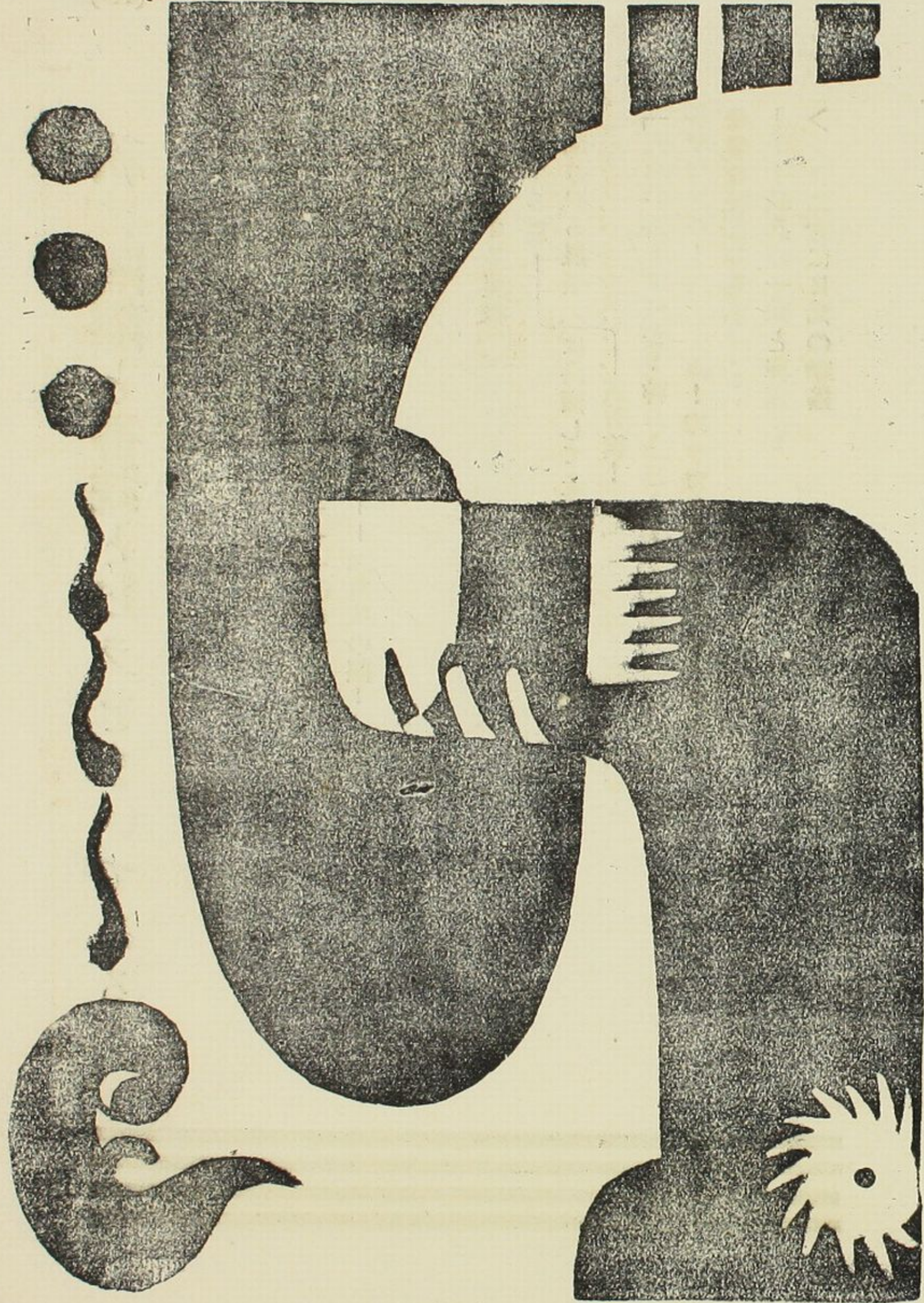
## 大なる賭博

黒煙を吐き出す大小無數の林立する煙突

幾つかの腔と凹凸の面と數本の圓棒と  
黄色と毛髪とゼンマイとコンバスと筋  
とサナタ蟲と靴下と一枚の名刺！

幾つものポタンのとれた汚れたシャツとツポンをはきかへたか知れぬ俺と云ふ道具よ！

アハハハハハ——ハハハ



秋は隔離と番號とビラをまいてゐる

昇降する市街 ●●●●爆音  
婦人の顔面

交互に動搖する SSSSTOPP++++GOOGG  
乗合自動車 ●●●●ガツリン——急角度の顔！

G ダアーン！

空へ突入する屋根

動亂する窓

寸斷される風景

は斜傾して走る——

H

— 廣告旗！

「汽車の番號は何番？神戸急行よ！」

シヤツスウ！ツ——ム！カタカタ カタカタカタ——

●●●●警官の舉手

——騎兵の一隊と葬儀

〃〃〃〃二重に日光の動搖

「彼の女は死んでしまつたのに——」

海・海・海・海・海・海

帆船

急角度の水平線

「何番？」

「何番？」

小説本とウキスキー

P•R•R•R•R•R•R•R•R•B•B•B•B•W•W•W•W•W

電信局の窓

垂直した戀人の足先さ

秋は隔離と番號とビラをふりまいてゐる

汽車の通過する速度

ねえ！まつたく

わたしを忘れては嫌よ！」

# 食用蛙

貴婦人の地下室●●●  
私達は食用蛙です！

クロツケ  
クロツケ

泣け！ 叫べ！

「愛だ？」——赤い燈に破裂する心臓——「侮辱だ！」  
人間の屠殺だ！

レケロ  
レケロ

「倒せ！」刺せ！——赤い眼球！

「●●だ！」

「射て！ 射て！………騒音………號令！」

「祖國よ」

「祖國よ」

キロ キロ

キロ キロ

間断なき戦ひ！ 突撃だ！ 暗夜に沈没する艦！

卓上の噴水！ 赤燈！ 黄色の圓——納棺だ！

「萬歳！」「萬歳！」

「ウラー！」——死人の山だ！

刃

刃

刃

刃

刃

鳴らせ！ 叫べ！ 歌へ！ 躍れ！

生活のベルは鳴る！

「走れ！」「暗夜だ！」「死そのものだ！」

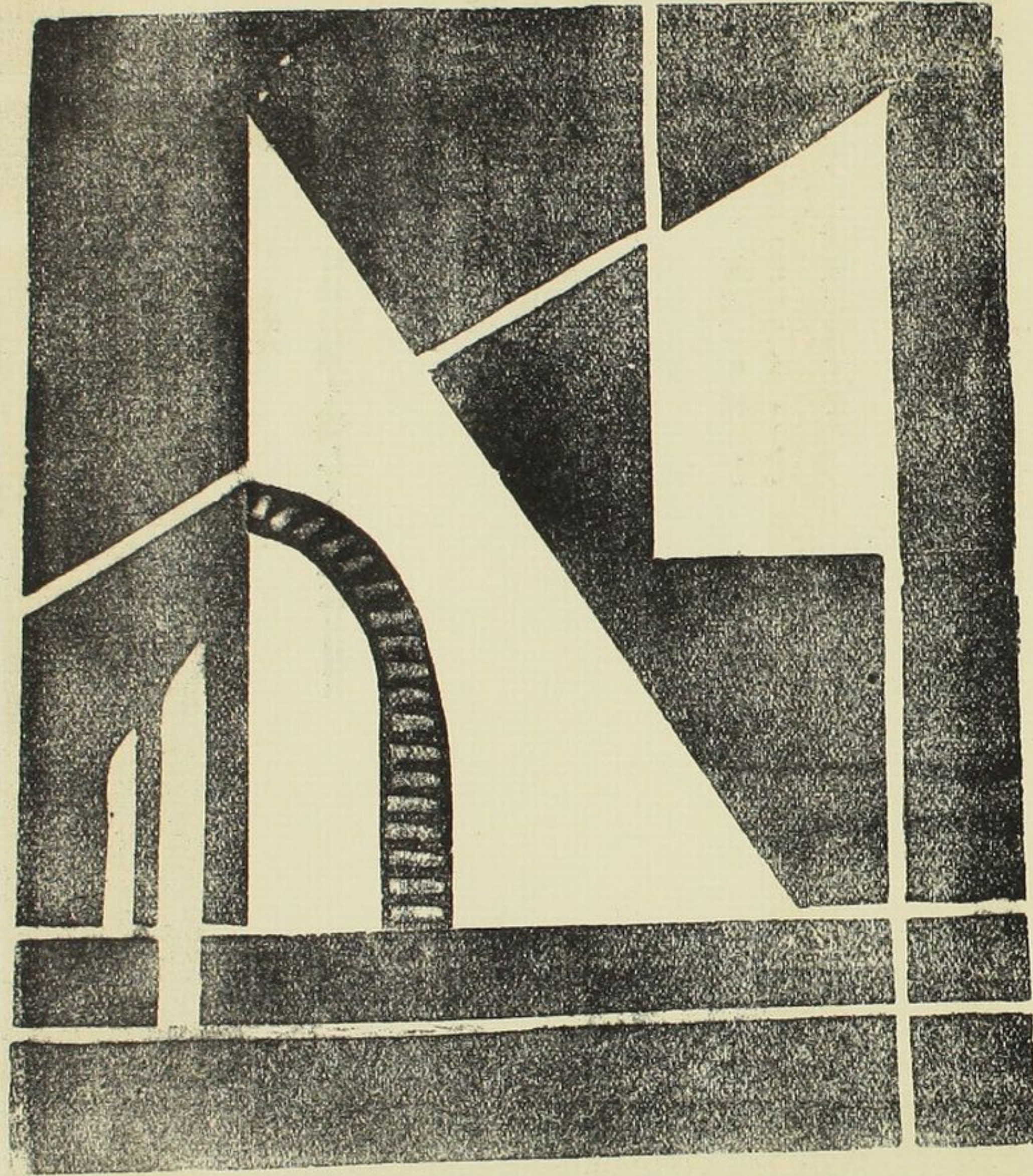
「死ぬ！ 卑怯者！ 生きる力の前に！」

「穴へ追ひ拂ふ者を罪せよ！ 罰せよ！ 屠殺せよ！」

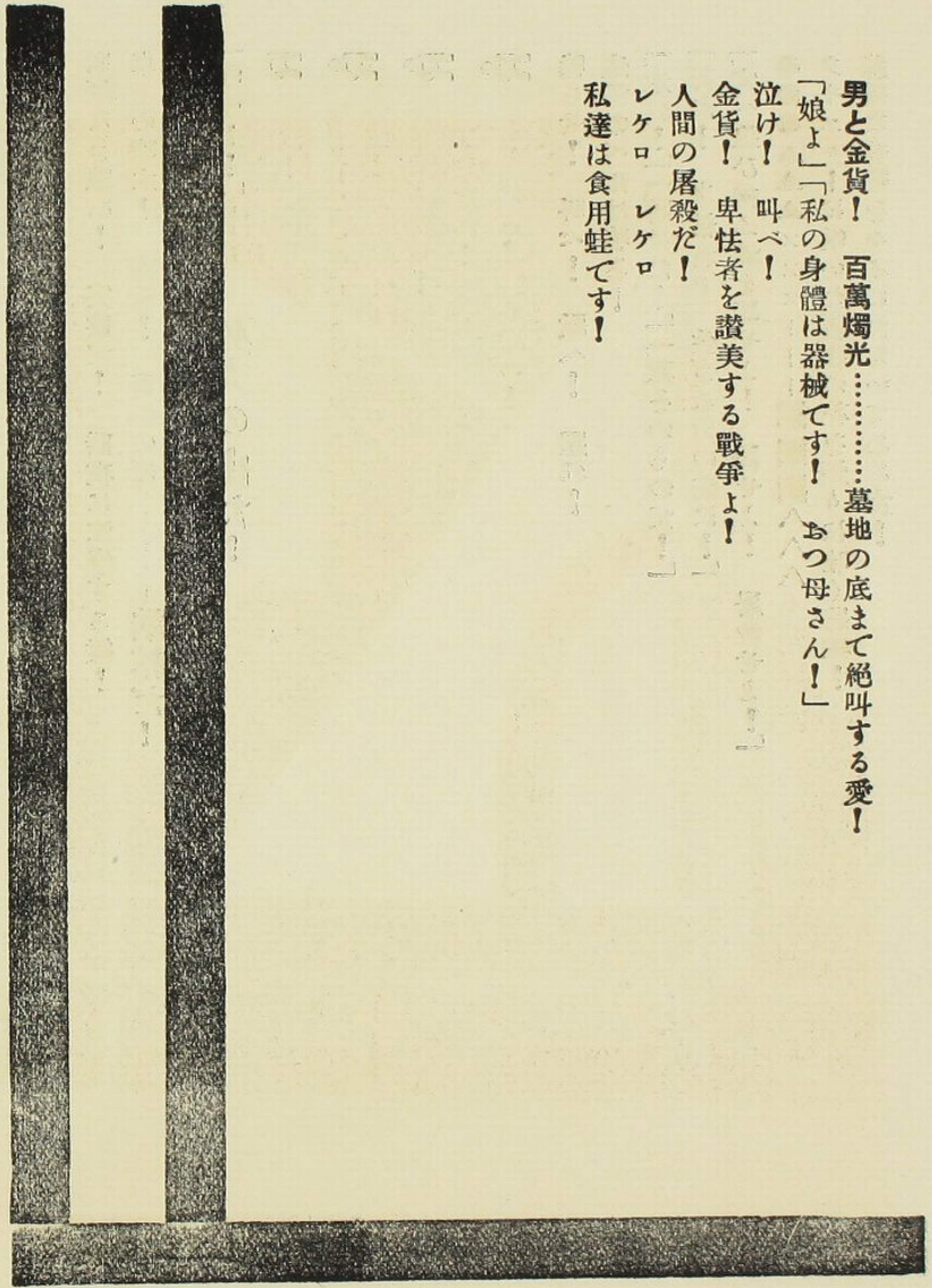
●●●▲▲▲×××——■▲▲▲▲▲

ウキスキーに咲いた薔薇の花を煙りに吐く將校！

悲痛な音楽をキイにたたいてゐる女！



男と金貨！ 百萬燭光……………墓地の底まで絶叫する愛！  
 「娘よ」「私の身体は器械です！ おつ母さん！」  
 泣け！ 叫べ！  
 金貨！ 卑怯者を讃美する戦争よ！  
 人間の屠殺だ！  
 レケロ レケロ  
 私達は食用蛙です！



# 煤 煙

|| 強く美しく勇敢に ||

生活だ！

|| 埋めろ！ 投げ込め！

煙突で吠える！

|| 刺し殺せ！

塹壕だ！

|| 首をしめろ！

鐵槌だ！

|| 打て！ 碎け！ 何處でも挫け！

生活だ！

|| 蓋をしろ！ 空気を通すな！

踏め鳴らせ！

|| 瓦斯を送れ！

闘争だ！

|| 警官を呼べ！ 墓へ！  
骸骨だ！

|| シヤベルですくへ！

|| 叫ぶな！ 踏むな！

|| 我々は根絶しになるぞ！

|| 百の聲には百萬の壓殺だぞ！

|| 暗夜を行け！ 音もなく！

|| 百萬匹の狼になれ！

|| 叫ぶ側からやられるぞ！

破裂だ！ 破裂だ！

時だ！

機關士は自殺したぞ！

別れ去つた！

|| 運命に 恐怖に 金錢に 生命に

去れ！ 去れ！ 去れ！

街を！ 街を！ 街を行け！ 街を行け！

|| 無目的だぞ！

|| 蒼ざめてゐらあ！

|| 逆襲だ！

狂ひになつてらあ!

夜 ● ● ^ ^ | | ■ ▲ 晝

見ろ!

葬式だ!

自殺だ! 縊死だ!

分娩だ!

石炭殻の工場裏だ!

随胎しそこなつたんだ!

男は技師だ! 畜生!

あの「カフス卸」のためなんだ!

金銭だ!

工場だ!

病院だ!

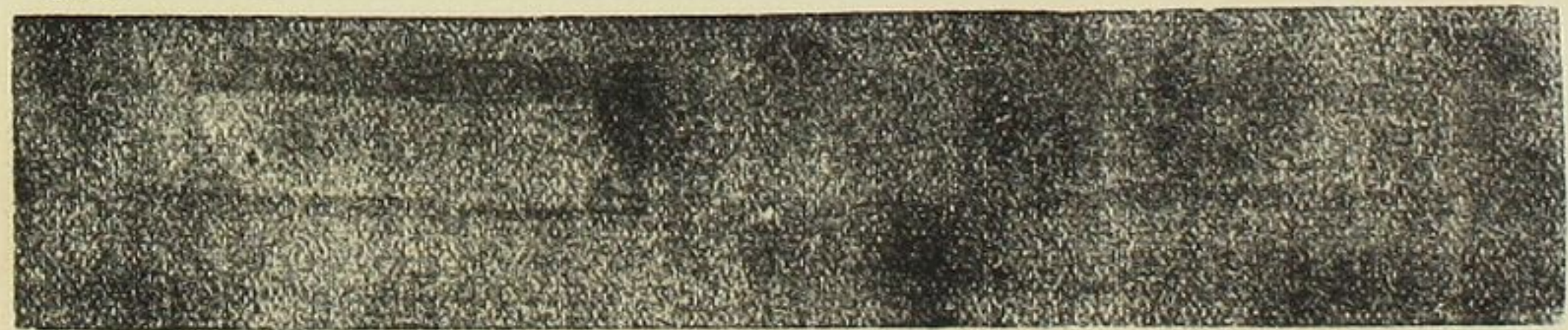
餓死だ!

妻と子だ! ——— 機械だ!

シヤベルだ!

窩だ!

● 投げ込め! 刺し殺せ!



● 石炭だ!

● 死體だ!

燃え上れ! 燃え上れ! 燃え上れ!

● 煤煙だ!

● 煤煙だ!

うすら明るく 睡り!

うすら冷く 熱り!

黎明だ!

深夜だ!

電気仕掛けだ!

突つ込め! ララア! ララア!

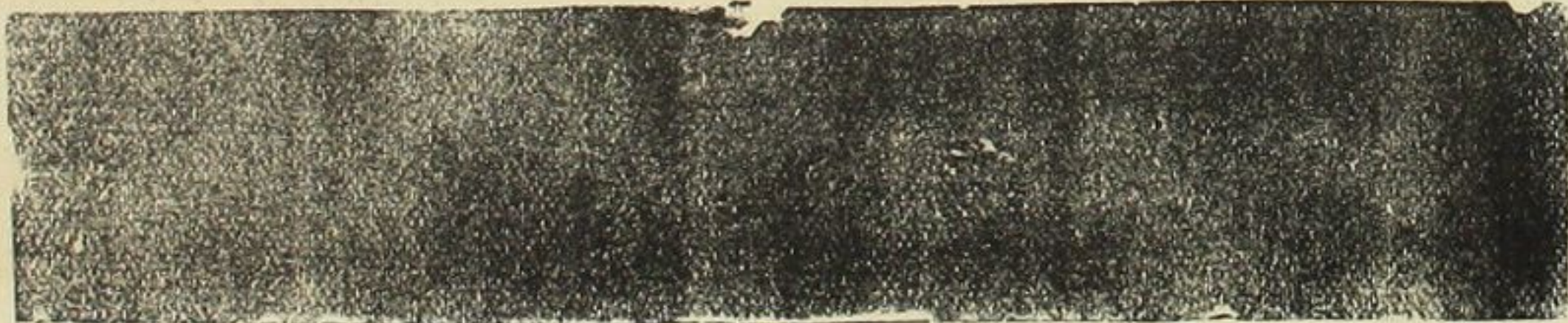
窓を開けろ!

窩を開けろ

BORA-BORA-B000BB0B0000RA-

RA-BORA-BORA-PRUN-PRUN-

PRUN-



● 投り込め！刺し殺せ！

● 打て！埋めろ！

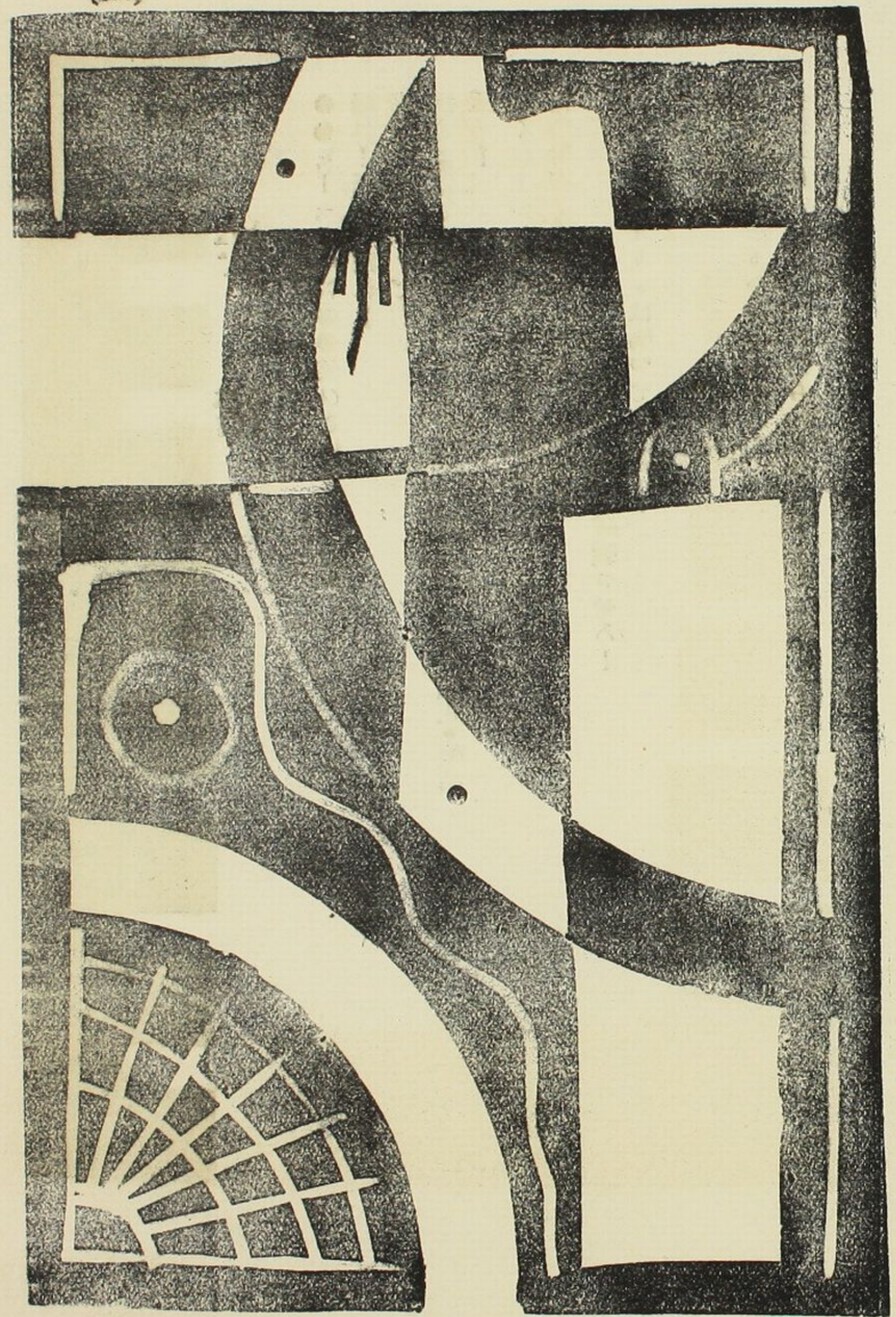
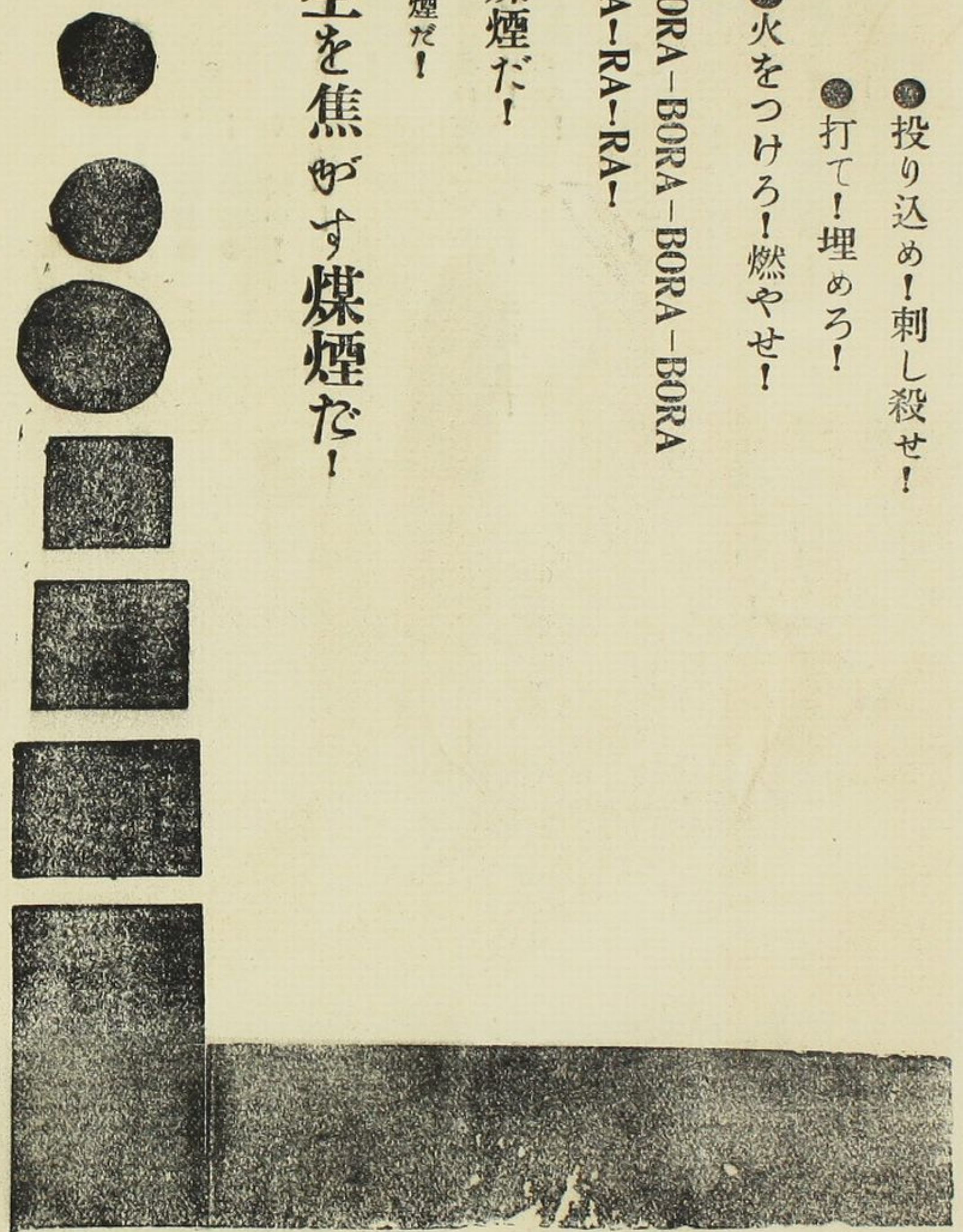
● 火をつけろ！燃やせ！

BORA - BORA - BORA - BORA  
RA - RA - RA -

煤煙だ！

煤煙だ！

空を焦がす煤煙だ！







真白の假面！  
踊れ！踊れ！踊れ！

——まあ前は可愛い、髪毛で！  
死體め！生きろ！キッスだ！生きろ！  
踊つて！踊つて！生きろ！  
生きろ！生きろ！キッスだ！キッスだ！  
人間だ！

生活だ！

女！女！女！

踊れ！

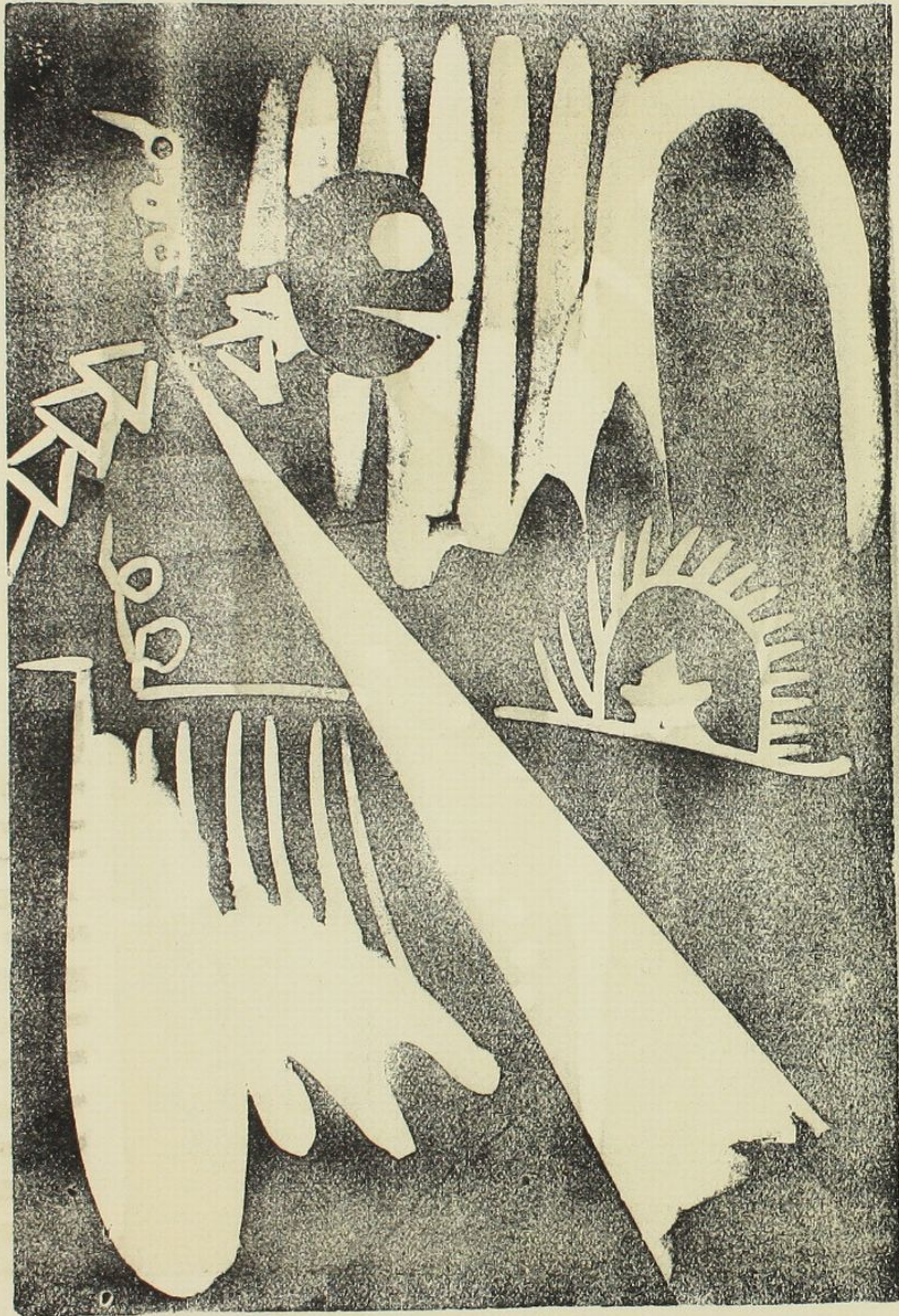
漏電だ！ 銅だ！ 電流が切れた！

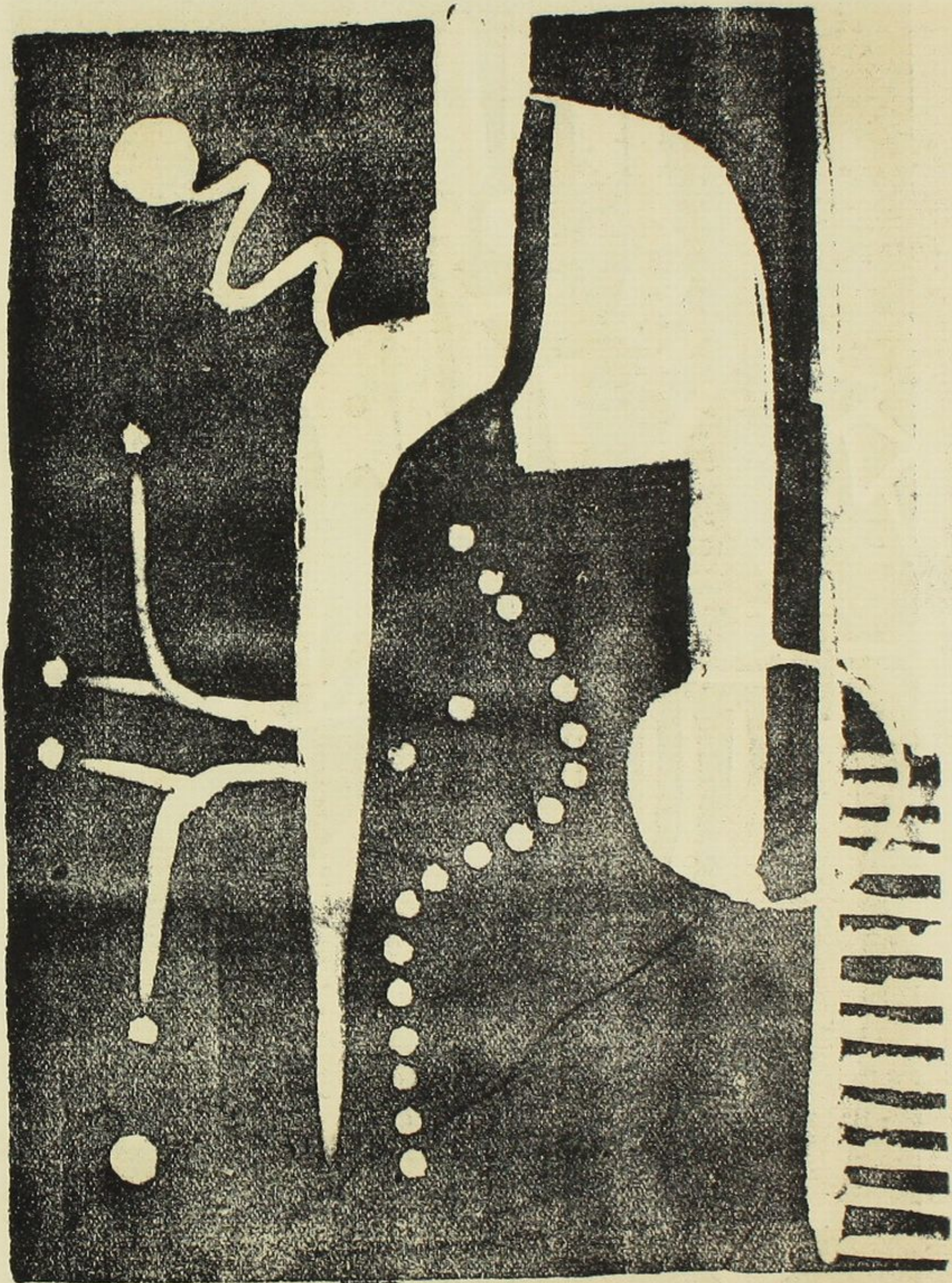
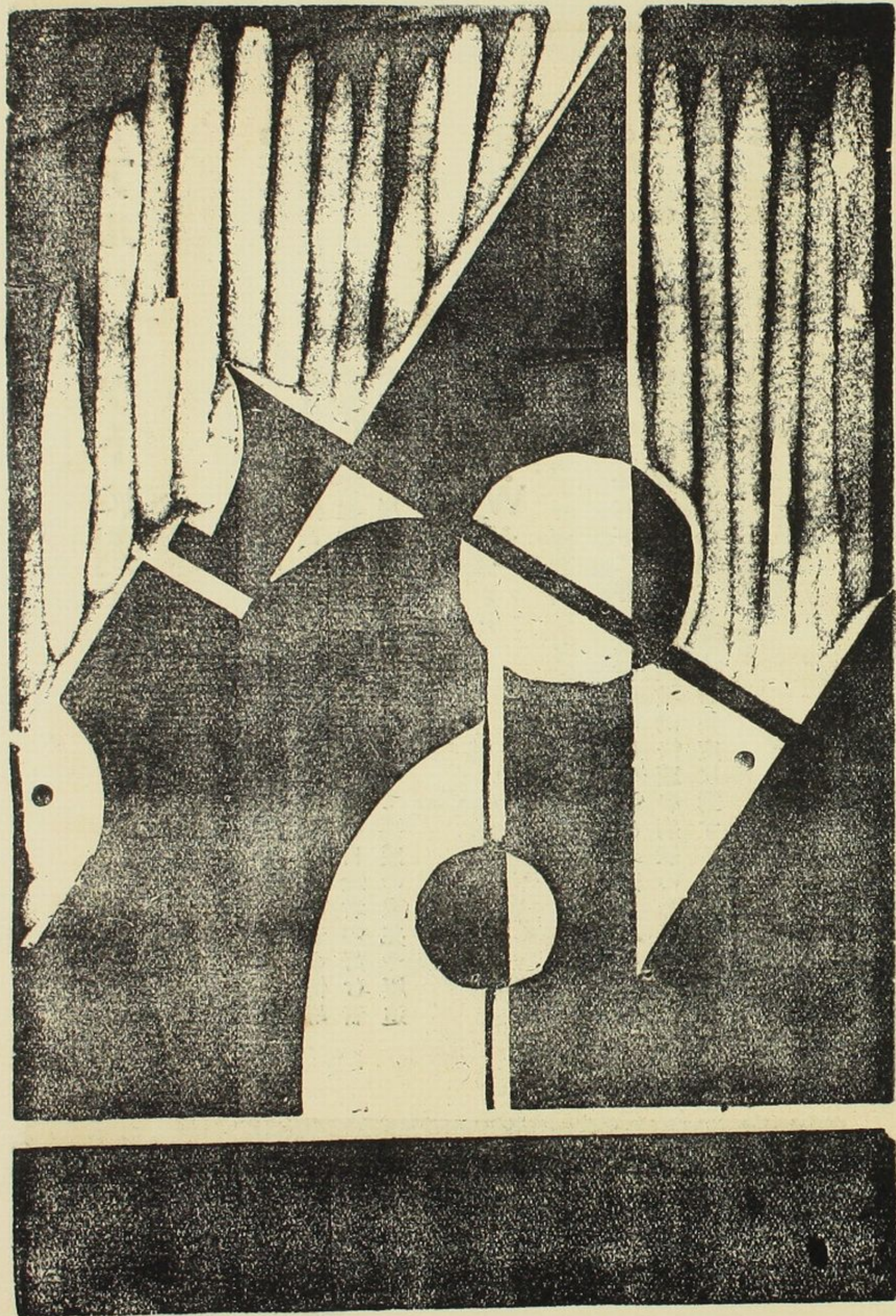
闇の闇だ！ 破滅の破滅だ！

破片だ！

經濟だ！ 組織だ！ 終りだ！

生靈は天國へ飛んだ！





### アルハベットに對する宣言

●空の濁れる日●大なる悲しみに沈みし日●別離の情●北方人の言語●貨車や荷車の坂を上る音●巨大なる鈍重さに逢ひし時●都會の下水道の音●侮辱に對する種々の感情●深夜●梅毒の病狀に伴ふ心理的作用●自殺者の好む音●胃腸病患者の味覺●工場地の屋根の空●ETC●すべて惡感の豫兆や壓迫感に伴ふ形象

### B·D·C·J·M·Ü·V·W·Z

●酷暑の街道●赤道直下●昇降落下に伴ふ感情●早口●喜びや悲しみを訴へる言葉●速力的感覺●都會の眞晝間の雜鬧●機械的快感●病狀の降昇●昂奮の狂人的作用●藥品●及物●廻轉●發火や發砲●角度に對する感覺●炸裂する音響●革命的心狀●虐殺●エトセトラ  
●すべて強張された速力感に伴ふ形象

### A·E·i·K·O·P·R·O·X

●親友と語る部屋●親愛の情●散歩●林や河流や帆船●朝の十時頃●明るい陽光や色彩や音響●平和なる二人●自動車の快走●白紙の上にするペン●戀人の頬や手足●收獲時の音樂●理智的な節制と伸長●音波●ラデオ●處女性のもつ美●研究室の靜謐●片假名●自動車や四輪馬車の速力●オレンヂ水●若きマダム●エトセトラ  
●すべて明快なる音響と親愛と平和のメロデイに伴ふ形象

### C·F·H·L·N·S·T·Y

我等は以上分類せられた形象をもつて、我等の内在を構成する一要素としてあるはべつとの有する音樂的●繪畫的の感覺を使用する事を宣言す!



## 印刷術の立體的斷面

### 装幀・リノカット・紙面構成其他

立●體●から●綜●合●へ、綜●合●から●構●成●への要求は最近の形成藝術界に於ける、各種の素材及要素の發見、創造につれて益々進化し、今や綜合的社會運動藝術として各方面に實現されつゝあるやうだ。

殊にリノリウム、カットの發見の如きは確かに出版界に於ける一つのエポックメーカーである。歐露の文藝美術雜誌には數年前からドシ〜使用されてゐたらしいが、我國では「マウオ」が矯矢を放つた様である。

さきに長隆舎から出たトルラーの詩集「燕の書」にも二十枚近くの  
リノをほふり込んで置いたが、僚友恭次郎兄の詩集が愈々出版すると  
聞いたMAVO・NNKの關係有志十四五名は君の爲め一済に凄いな  
刀を、嬉んで振り廻した。

尙 昔のマウオ誌上からも記念になる様な寫真版八葉を撰り抜いて  
掲載することにした。それから紙質、活字、紙面構成、全體の構造等  
には特に注意を拂つた心算だし、在來のものよりは確かに傑出してゐ  
ると言ふ自信を持つてゐるが、何しろ三科騒動や芝居のことでキリ  
／＼舞ひをやつてた最中のことゝて、抱負の百分の一も實現されな  
つたことは返す／＼も残念である。

同じマウオイストの中でも個人々々特有の色彩や背景を持つてゐる  
爲め、こゝに收めた挿書の凡てが、恭次郎萩原兄の詩に「寸分の隙な  
くびつたりする」などと言ふことは到底望み難いことだ。

故に活字とインテラルの配置、詩と畫の組合せ方、則ち、全體から見  
た場合の巧果(構成)に重きを置いた。従つて印刷術に依る綜合運動の  
小さな試みに過ぎないこと勿論である。

對世間意識や經濟上の事情もあるてはあらうが、當來の印刷術が餘  
りに平面的で踏襲的で無味枯寒でありながら、得々としてヂャーナッ  
ズムの凱歌を擧げてゐると言ふことは、何んと言ふのろまな恥知らず  
な事だ！

本詩集の装幀なども、もつと大膽に各種の材料(ボロ布や木材や針金)等を使用して、詩破天荒の怪快光芒にしたかつたのだが、我々に未だ大量生産的に大廻轉をするだけの器物が具はつてゐない爲め、これも遺憾ながら中止した。他日N N Kの綜合的直接行動とマゲオ劇團、自由舞臺人聯盟、都市動力建設同盟、ヌーム・ネオ・ダダイストクラブ、雑誌、パンフレット、新聞等に依つて大々的に、然も堂々と諸君の眼前におめぐるることになつてゐる。

乞ふ。諸君よ！來らんとするものを待たれよ！

それにしても餘りに遅れ過ぎた兄の詩集！だが愈々出た！飛び出したのだ！「爆撃勇ましく出現！！」したのだ。俺達も飛び出す。先づ天

井に頭を叩きつけて、それから銀座を逆立して歩かう。それ程俺達に執つて愉快な出來事なのだ。

嬉しい——祝はふ

ブラボ——進め

突け！！！！！！！！！！

# 恭次郎

岡田龍夫



大正十四年十月十三日印刷  
大正十四年十月十八日發行

死刑宣告與附

定價金壹圓八拾錢



著者 萩原恭次郎

發行者 畑 銳 七 郎

印刷者 山 縣 秀 助

印刷所 山 縣 秀 美 堂

東京市芝區今入町廿一番地

東京市芝區田村町十八番地

東京市芝區田村町十八番地

發行所

今東京市芝區  
今入町二一區

長隆舍書店

振替東京一五一八番  
電話銀座二二三二番

村山知義 著

# 現在の藝術と未來の藝術

四六判二百六十二頁  
口繪原色版一枚寫眞版十枚  
美麗箱入定價二圓送料古錢

讀賣新聞は本書を評して「東京洋畫界の一角に燦として一道の怪光芒を曳くものにマゲオの  
團がある、著者はその盟主にして實に意識的構成主義の創始者である、著者が其の伯林時代に  
どうしてこの最も革新的な新眞藝術に突入したかの経路も本書によつて一目瞭然であり、又其  
は現世記の表現派から構成派から意識的構成主義への必然の推移を理解せしむるも充分なも  
のである、アーキペンコやピカソやカンデンスキーの眞實を捉へようとならば何人も本書以外  
に快適な説明を求め得べきでない」と云つてゐる、以つて世評の一般を知るべきである、

「機械破壊者」 群集…人間」「獨逸男ヒンケマン」「轉變」等の作者、エル  
ンスト・トルラーが一九二三年、ニーダーシェーネンフェルドの獄中に於て物  
したる詩集の全譯である。

革命的精神と絶望の伸吟の混淆せる美しさボロ雜巾である。

村山知義譯並に裝—岡田龍夫挿畫—四六版百六頁—定價一圓

東京市芝區今入町二十一番地

長隆舎發行

—ラルト・トスルエ

## 詩集 燕の書

